令和２年度
沖縄振興特別推進交付金

# 令和２年度
# 関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務
# 【普天間飛行場】
# 報　告　書

令和３年３月

宜　野　湾　市

# 目　次


## １．今年度業務の目的と基本的な考え方 ..... 1

１－１．今年度業務の目的 ..... 1

１－２．今年度業務の基本的な考え方 ..... 2

## ２．各種合意形成活動の取組み概要と成果・課題 ..... 3

２－１．実施スケジュール ..... 3

２－２．普天間飛行場の跡地を考える若手の会、地権者への取組み ..... 4

（１）若手の会の定例会活動支援 ..... 4

（２）地権者意向把握アンケートの実施 ..... 14

（３）地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行 ..... 33

（４）若手の会パンフレット（更新版）の作成 ..... 36

２－３．ねたてのまちベースミーティング、市民などへの取組み ..... 39

（１）ＮＢミーティングの定例会活動支援 ..... 39

（２）まち歩きの企画・開催 ..... 47

（３）市内小中高等学校において児童・生徒へ向けた出前講座の企画・開催 ..... 54

（４）情報誌「まち未来だより」の作成・発行 ..... 69

２－４．地権者・市民への合意形成・情報発信に関する取組み ..... 72

（１）まちづくり講座の企画 ..... 72

２－５．普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 ..... 78

（１）普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会の企画・開催 ..... 78

２－６．先進地視察会及び合同勉強会 ..... 95

（１）先進地視察会及び合同勉強会の企画・開催 ..... 95

２－７．今年度の成果と今後の課題 ..... 123

# 1．今年度業務の目的と基本的な考え方

## 1-1．今年度業務の目的

### （1）これまでの取組み背景

「普天間飛行場の跡地利用の促進及び円滑化等に係る取組分野ごとの課題と対応の方針についての取りまとめ」を受けて、「普天間飛行場関係地権者等意向把握全体計画（平成 13 年度）」が策定された。その後、「跡地利用計画」、「地権者等意向醸成」に関する取組みが継続して進められている。

**①跡地利用計画**

跡地利用計画については、「跡地利用基本方針、行動計画の策定」、「キックオフ・レポート（土地利用・環境づくり提案）の作成」、「全体計画の中間取りまとめ（素案）作成」、「全体計画の中間取りまとめの策定」という流れで段階的に具体化が進められている。

平成 30 年度は、広域インフラに関する各関係部局の検討状況や周辺市街地を取り巻く状況の変化等を踏まえた配置方針・配置方針図の更新に向けた検討が行われた。

令和元年度は、計画づくりの方針の更新案を整理し、「宜野湾」の歴史が見えるまちづくりや県で計画検討中の宜野湾横断道路の検討条件の反映、周辺市街地整備における連携等についても検討を進め、配置方針・配置方針図の更新案の作成が行われた。また、平成 25 年に策定された「跡地利用計画（素案）」を作成するまでの手順並びに進め方となる「行程計画（案）」の更新案の作成もあわせて行われた。

今後も引き続き各種関連計画等との整合を図りながら、「跡地利用計画」の策定に向けて取組んでいく。

**②地権者等意向醸成**

合意形成に向けた場づくり・人づくり・組織づくり等の活動を長期的展望のもとに展開し、「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下、若手の会）」、「ねたてのまちベースミーティング（以下、NB ミーティング）」の組織化等が図られている。

令和元年度は、両組織の定例会活動に加え、地権者や市民誰もが宜野湾市のまちづくりを学べる場の創出に向けた取組みとして「まちづくり講座」を継続して開催すると共に、まち歩きによる地域住民との意見交換を行う等、地権者・市民が共に跡地利用計画について考える事のできる場づくりを進めてきた。

今後も両組織の成熟具合等を勘案しながら、将来的な組織の自立化を促すような取組みに向けて進めていく。

### （2）本業務の目的

今後の「跡地利用計画」策定に向け、地権者等意向醸成（本業務）においても計画の具体化に対応した合意形成内容を展開する必要があり、計画の具体化に伴い、普天間飛行場周辺市街地においてもまちづくりの機運が徐々に高まってくると推察される。

従って今年度は、「全体計画の中間取りまとめ」策定以降に進められてきた主な検討内容についての周知を図ると共に、跡地利用及び周辺市街地のまちづくりに対する関心向上に向け、活動の輪を広げていく。

## 1-2．今年度業務の基本的な考え方

前頁の目的を踏まえ、今年度業務の取組み方針と基本的な考え方は、以下の通りとした。

**【取組み方針と基本的な考え方】**

| 取組み方針 | 考え方 |
|---|---|
| 地権者、市民の跡地利用及び周辺市街地のまちづくりへの関心を高め、活動の輪を広げる | 現在、令和３年度中の全体計画の中間とりまとめ（第２回）策定目標に向けた検討が進められており、計画の進捗に合わせて地権者・市民の意見が今後も継続して求められる事となる。<br>特に市民に対しては、跡地利用計画の内容が周辺市街地のまちづくりにも密接に関わってくる事となる。<br>そのため、地権者・市民の跡地利用に対する意識・関心の向上、まちづくりに関する活動の輪を広げる取組みを進めていく。 |
| 将来的に地権者・市民をけん引する人材の育成と組織の強化に取組む | 若手の会、ＮＢミーティングについて、まちづくりをけん引する人材の育成を継続して進めると共に、両組織の更なる強化を図る取組みを進めていく。 |

これらを踏まえ業務に取組むにあたって、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、これまでの対面を主とした意向醸成活動だけではなくオンライン会議の併用や書面による地権者の意向把握を行う等、感染防止対策への配慮を行いながら実施した。

今年度業務では、若手の会に関しては昨年度に引き続き、跡地利用に関する検討の深度化を図った。地権者との意見交換に関しては、今回はアンケート形式で実施し、書面にて地権者の跡地利用計画の内容に関する意向を把握した。

NB ミーティングについては、普天間飛行場周辺市街地のまち歩きを通して、地域住民との意見交換を行い、跡地利用計画に関する地域の声を拾い上げた。

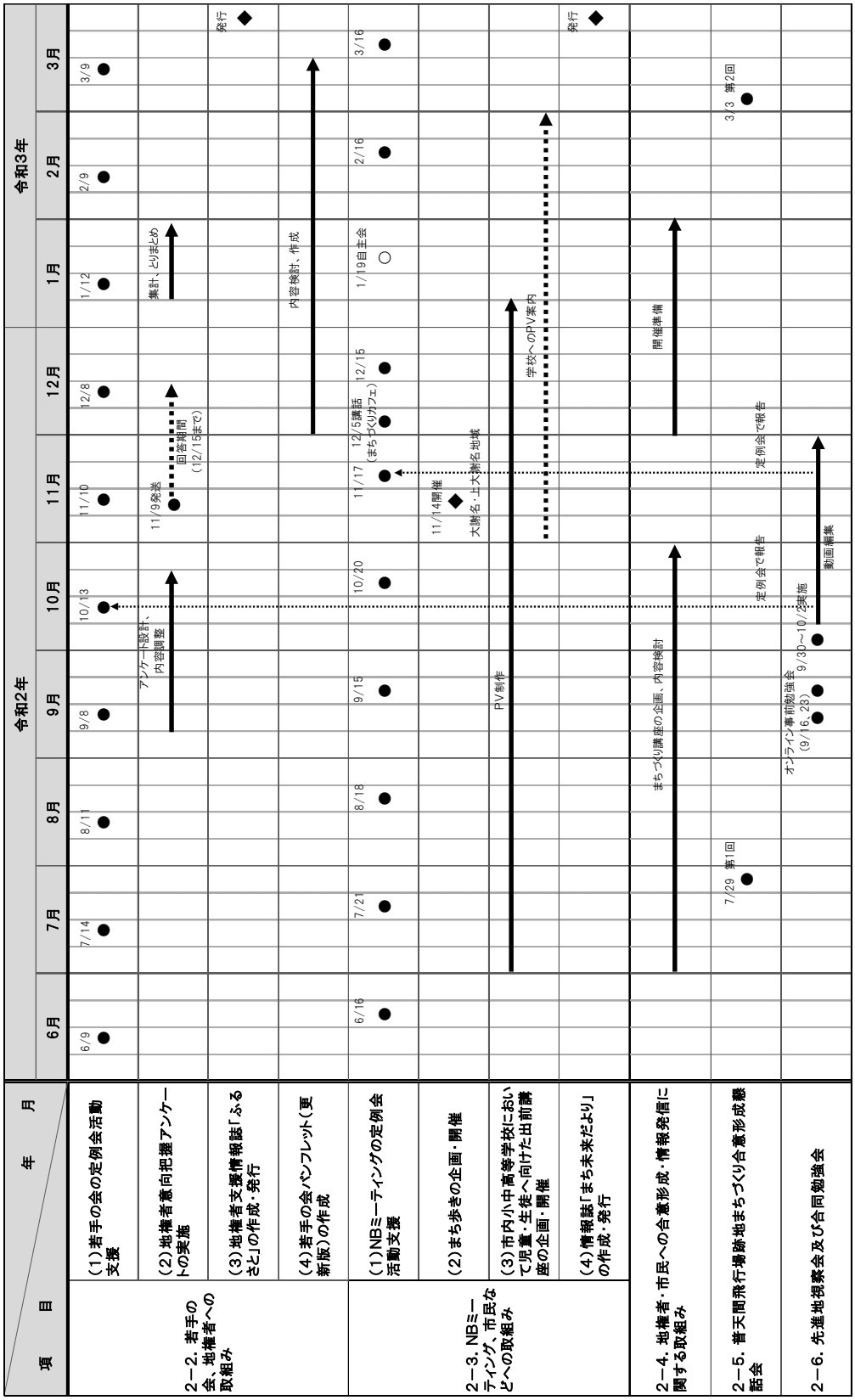
「まちづくり講座」については、今年度は企画立案と開催準備まででとどめ、開催自体は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みて次年度に実施する事とした。

最後に、上記取組みに関する評価・検証の場として、「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会（以下、懇話会）」を継続して実施した。

# 2．各種合意形成活動の取組み概要と成果・課題

## 2-1．実施スケジュール

本業務に関する各種取組みを下記のスケジュールで実施した。



## 2-2．普天間飛行場の跡地を考える若手の会、地権者への取組み

取組み方針①：若手の会の組織強化を目指し、若い世代の人材育成を行うと共に、有識者検討会議に対して、会としての考えを取りまとめ発信する。

取組み方針②：地権者に対し、中間取りまとめ以降の検討内容に関する情報提供と知識の習得、跡地利用計画に対する興味・関心を促す。

### （1）若手の会の定例会活動支援

#### 1）取組み概要

今年度の検討テーマである「土地利用及び機能導入の方針」の中でも、「振興拠点ゾーン」については新たな視点としての追加内容が多く、若手の会として検討が必要という考えから、振興拠点ゾーンの都市像と空間形成の考え方について、地権者及びまちづくりの視点を踏まえ取りまとめた。

また、昨年度に引き続き、若手の会の将来あるべき姿について意見交換を行い、若手の会会員への意識づけを行うと共に、現時点の課題及び今後必要な取組みに関する議論を促した。

合わせて、若手の会の活動を周知するために平成 26 年度に制作した活動内容パンフレットについても、内容の更新に向けて意見交換を行った。

なお、定例会の検討状況に関しては、ニュースレターとして若手の会会員に対して情報発信を行った。（令和２年 11 月 vol.１発行。令和３年３月 vol.２発行）

#### 2）取組みスケジュール

| No | 開催日 | 議題 |
|---|---|---|
| 1 | 6 月 9 日 | ・今年度の取組みについて<br>・若手の会の将来あるべき姿について |
| 2 | 7 月 14 日 | ・振興拠点ゾーンの将来像について<br>・地権者意見交換会について<br>・若手の会の将来あるべき姿について |
| 3 | 8 月 11 日 | ・振興拠点ゾーンの将来像について<br>・若手の会の将来あるべき姿について |
| 4 | 9 月 8 日 | ・振興拠点ゾーンの空間のあり方について<br>・地権者意見交換会について<br>・若手の会の将来あるべき姿について |
| 5 | 10 月 13 日 | ・先進地事例を踏まえた空間イメージについて<br>・地権者意見交換会に代わるアンケートの実施について<br>・若手の会の将来あるべき姿について |

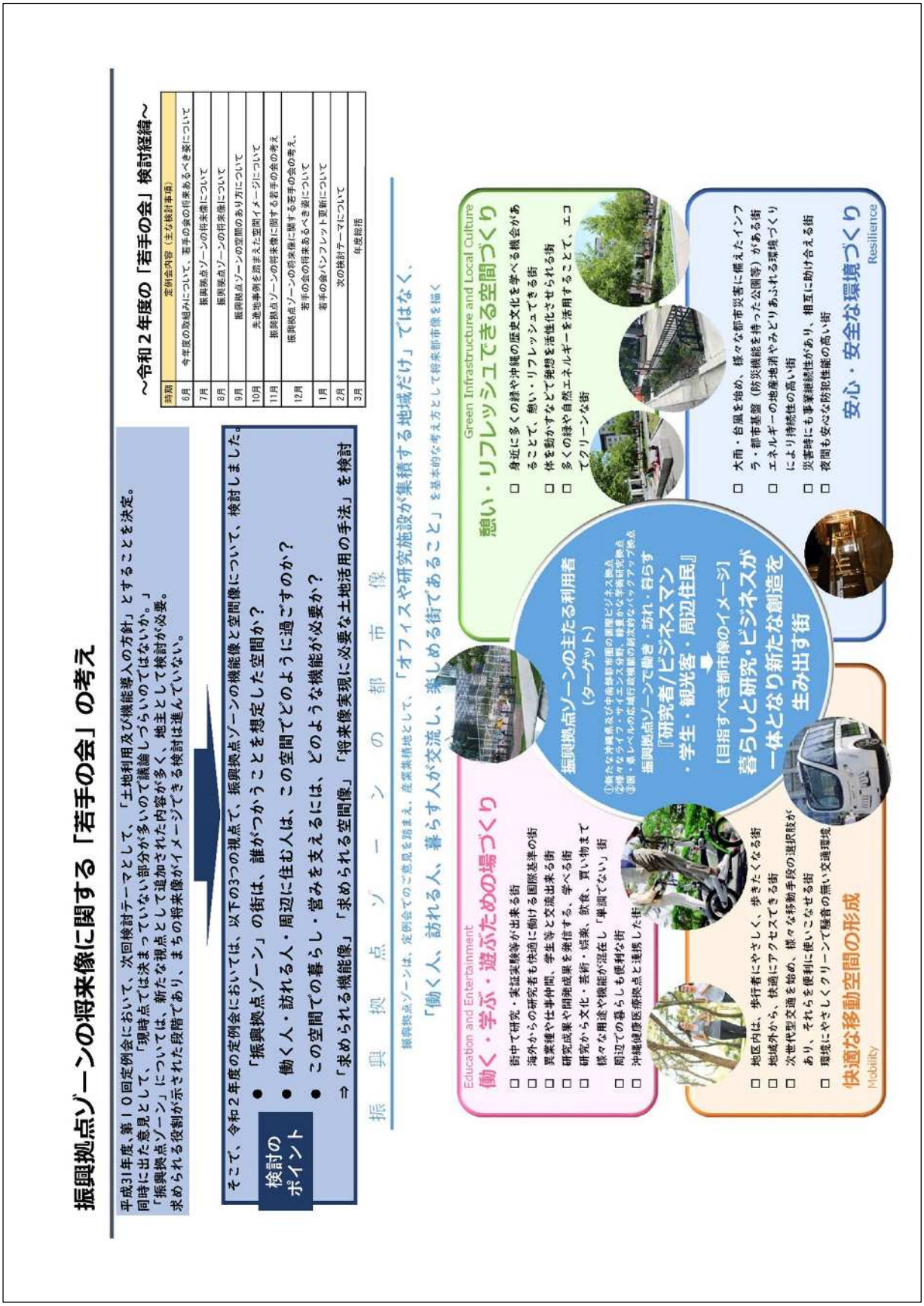
| No | 開催日 | 議題 |
|---|---|---|
| 6 | 11 月 10 日 | ・振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え<br>・若手の会の将来あるべき姿について |
| 7 | 12 月 8 日 | ・振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え<br>・次の検討テーマについて<br>・若手の会の将来あるべき姿について |
| 8 | 1 月 12 日 | ・若手の会パンフレット更新について |
| 9 | 2 月 9 日 | ・次の検討テーマについて<br>・若手の会パンフレット更新について |
| 10 | 3 月 9 日 | ・今年度を振り返って（課題と今後の取組み）<br>・若手の会案内チラシについて<br>・若手の会パンフレット更新案について |

写真：定例会の様子①

写真：定例会の様子②

写真：定例会の様子③

## 3）若手の会の考える「振興拠点ゾーンの将来像」まとめ



# 振興拠点ゾーンの空間形成の考え方

振興拠点ゾーンに求める空間形成の考え方（例

振興拠点ゾーンに求める機能像の考え方

## 公共空間も民有地も連続的かつ一体的に活用できる空間づくり

公園内や道路敷地にカフェのオープンテラス席が設置される等、公共/民有の空間がボーダレスに活用される街

## 視点場を定めて、開放的な眺望を確保する空間づくり

高台からの開放的な眺望や海を眺められる視点場を確保し、良好な景観及び開放的な空間がある街

## 人の回遊性を高め、まちなかを歩きたくなる空間づくり

歩行者に優しく、緑が多く、歩きたくなる工夫・仕掛けが施された街

## 沖縄・普天間の歴史や地域性を感じる空間づくり

随所に沖縄や普天間の地域性・歴史・文化を感じることができる街

Education and Entertainment

### 働く・学ぶ・遊ぶための場づくり

- 街中で研究・実証実験等が出来る街
- 海外からの研究者も快適に働ける国際基準の街
- 異業種や仕事仲間、学生等と交流出来る街
- 研究成果や開発成果を発信する、学べる街
- 研究から文化・芸術・娯楽、飲食、買い物まで様々な用途や機能が混在し「単調でない」街
- 周辺での暮らしも便利な街

Mobility

### 快適な移動空間の形成

- 公共交通の利便性が高く、歩行者に優しい街（トランジットモール）
- 地域外から、快適にアクセスできる街
- 次世代型交通を始め、様々な移動手段の選択肢があり、それらを使利に使いこなせる街
- 環境にやさしくクリーンで騒音の無い交通環境

Green Infrastructure and Local Culture

### 憩い・リフレッシュできる空間づくり

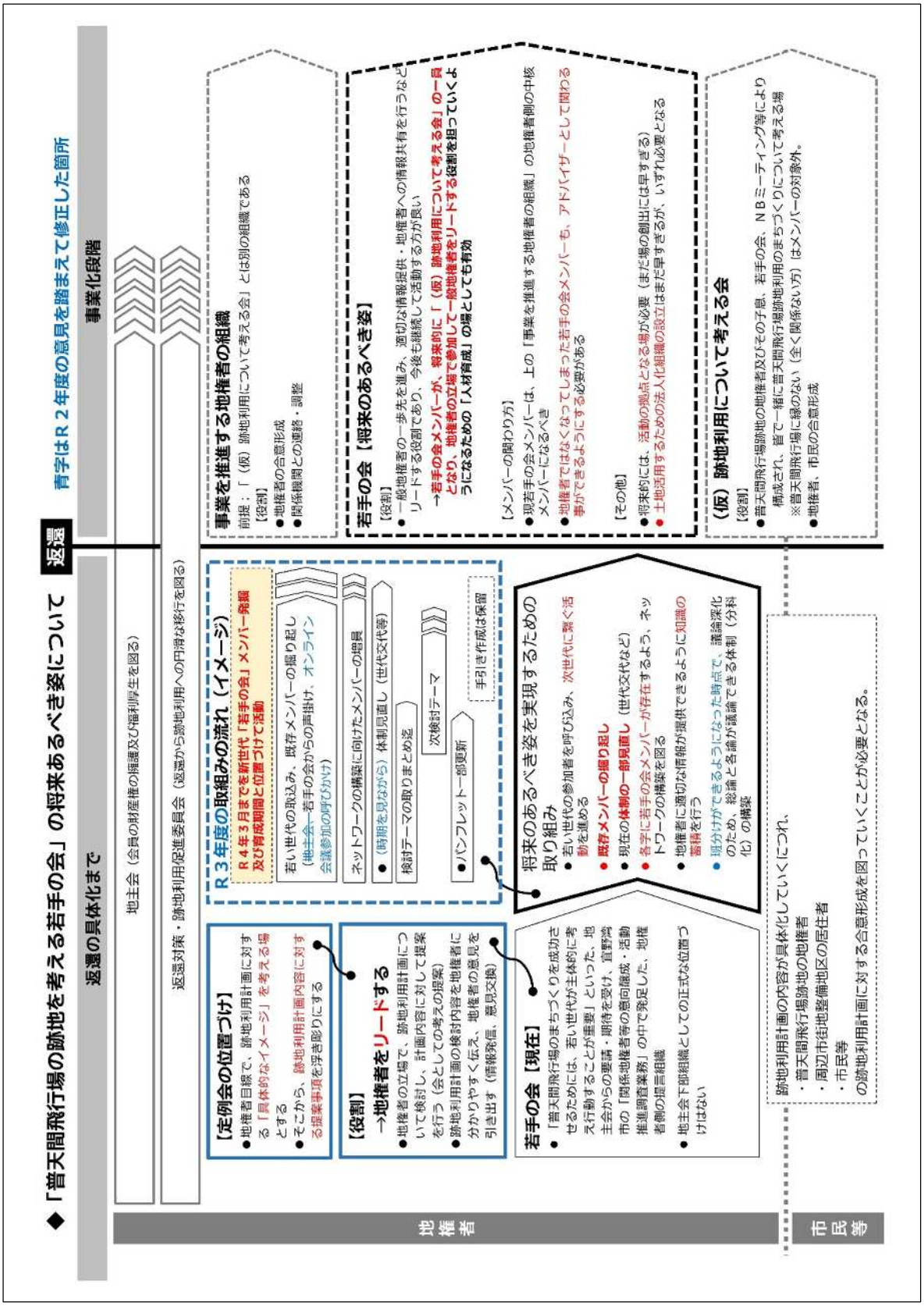
- 身近に多くの緑や沖縄の歴史文化を学べる機会があることで、憩い・リフレッシュできる街
- 体を動かすなどで発想を活性化させられる街
- 多くの緑や自然エネルギーを活用することで、エコでクリーンな街

Resilience

### 安心・安全な環境づくり

- 大雨・台風を始め、様々な都市災害に備えたインフラ・都市基盤
- エネルギーの地産地消やグリーン調達により持続性の高い街
- 災害時にも事業継続性があり、相互に助け合える街
- 夜間も安心な防犯性能の高い街

## 4）「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」の将来あるべき姿について（継続検討中）



## 5）若手の会ニュースレター

普天間飛行場の跡地を考える若手の会

# ニュースレター

Vol.1 2020.11月発行

宜野湾市基地政策部まち未来課

ニュースレターとは

定例会に参加できなかったメンバーの方に対して、数か月分の若手の会で検討した内容をご紹介するために発行します。

昨年度の第１０回定例会において、次回検討テーマを「土地利用及び機能導入の方針」とすることに決定しました。「現時点では決まっていない部分が多く議論しづらいが、振興拠点ゾーンについては、新たな視点として追加された内容が多く、検討が必要ではないか」というご意見もあり、今年度は特に「振興拠点ゾーン」に焦点を当てて、将来像の検討を進めています。あわせて、「若手の会の将来あるべき姿」についても検討を進めています。

### 第２回　定例会（R2.7.14）

【求められる機能を踏まえた「空間イメージ」について】

①誰がつかうことを想定した空間か？　～年代 ／ 主な目的 ／世帯構成　～
②どのように過ごす空間か？　～それぞれのターゲットの１日の行動を想定～
③人々の暮らし・営みを支えるどのような機能が必要か？

「振興拠点ゾーン」において想定される人々の暮らし・営みから、街の空間イメージを検討し、まちづくりを進める上で重要なテーマを整理することとあわせて、「必要な機能像」についても、検討を行いました。

■地区内または周辺に住む人・遠くから訪れる人
■地区内で働く人（研究者・オフィスワーカー）・学生（留学生等）

２グループに分かれてワークショップ（WS）を実施しました。

【主な意見】

《勢いの場に関する意見》
◆運動スペースが目的別に分かれているとよい。（ジョギング・ウォーキング等）（住民、来訪者G）
◆ヨーロッパのように、オープンカフェでリラックスできる空間があるとよい。法からの規制 緩和が必要である。（就労、学生G）

《イベントに関する意見》
◆企業と連携したイベントを開催して楽しむ事ができるとよい。（住民、来訪者G）

《道路空間に関する意見》
◆振興拠点エリア内には駐車場を配置せず、駐車場から職場まで歩いて楽しむことができる空間となればよい。（住民、来訪者G）

《商業施設に関する意見》
◆沖縄独自の文化を体験できる施設があるとよい。（住民、来訪者G）

《歴史、文教施設に関する意見》
◆糸満の平和祈念資料館のように、修学旅行で普天間の歴史を学ぶ事のできる施設があるとよい（住民、来訪者G）

第２回　定例会の様子

### 第３回　定例会（R2.8.11）

第２回のワークショップの結果をもとに、関連した全国・世界の事例などについてご意見を頂きました。

**小規模・多用途・オープンな空間**

❶外に向ってオープンな空間づくり
通りや広場に面した建物１階部分をカフェやコワーキングなどにすることで街に活気があふれている事例

（オレゴン州ポートランド市）

**緑あふれる憩い空間の形成**

❷「質の高い緑」で空間や施設を結ぶ
駅から駅周辺の様々な施設に移動するにあたり、多品種で構成された質の高い緑化空間の通りになっている事例

（東京都世田谷区）

**人中心の次世代型アクセス環境**

❸民地側と一体となった歩行空間でゆとりある環境形成
歩道だけでなく民地側も一体となった歩行空間を確保することで、快適な歩行環境を形成するだけでなく、圧迫感の無い街並みを形成している事例

（静岡県静岡市栄町）

**環境性能の高い基盤づくり**

❹街の涵養性・浸透性を高め都市災害に備えた環境形成
道路上の雨水排水を活用した植樹帯「レインガーデン」により都市の涵養性を高めている事例

（ニューヨーク市）

【主な意見】

◆街が発展する大きな要因の１つは、域内及び域内に至るまでの移動の利便性が大きいと考える。合わせて公園や緑などの安心・安全や憩いの場を人は求める。緑（森）が街の景観、職住環境、安心・安全、企業の投資意欲ととのように関係するのか、外国をはじめとする先進地事例を学びながら考えたい。

### 第４回　定例会（R2.9.8）

振興拠点ゾーンの将来都市像を実現する具体的な空間のイメージとして、先進地視察先の事例を紹介し、空間イメージについて「参考にしたい点・もっと知りたい点・振興拠点ゾーンのイメージと異なる点等」のご意見を頂きました。

❶歩きたくなるまち
❷人が集まるまち
❸健康になれるまち

【主な意見】

◆「大雨・台風を始め、様々な都市災害に備えたインフラ・都市基盤」として防災公園も追記したい。

**若手の会の将来あるべき姿について**

将来あるべき姿に向け、今後どのような取組みが必要なのか継続して検討を進めています。過去の定例会で出た意見を一部ご紹介致します。

【第１回定例会】
・組織の役職を増やして新たに任命してはどうか。
・会の活性化を図るため正副会長の交代も検討してはどうか。
・新規メンバーの獲得も図りながら、現メンバーの掘り起こしが必要ではないか。
・定例会を土・日に開催してはどうか。平日参加が難しいメンバーも土・日開催なら参加できるのでは。

【第３回定例会】
・各論（テーマ別）での意見交換や検討を行うためのグループ編成が必要となる可能性がある。各グループへの重複参加は可能とし、後日検討内容のすり合わせと取りまとめを行えば良いのではないか。

【第４回定例会】
・30～40代の若い世代に引き継ぎたい。令和４年３月までを新メンバー発掘と育成期間にするという目標は良いと考える。

【第５回定例会】
・地権者の次の世代（子息）等に声掛けを行っていければ良いと考えているが、声かけを行う場合に同じ学同士の方が話をしやすいのではないか。

### 第５回　定例会（R2.10.13）

先進地視察会の概要報告と現地動画を視聴し、先進地の知識を共有しました。

**１．北大阪健康医療都市（健都）**

吹田市民病院や国立循環器病センターと連携し、街中では研究・実証実験を行っており、健都レールサイド公園は病院が監修を行って設計されています。
地区内は緑が多く、各施設のサイン計画が統一され、まち並みがすっきりしています。

**２．こども本の森　中之島**

１階～３階まで本でいっぱいの館内は、図書館というよりは本に囲まれた文化施設であり、こどもの感性を育む空間です。

**３．てんしば**

天王寺公園のエントランス部分を、近鉄不動産(株)がリニューアルしました。
天王寺区と阿倍野区、通天閣周辺の３つのエリア間で人の流れが生み出されることにより、周辺地域の活性化にもつながっています。

**４．うめきた地区（グランフロント大阪）**

グランフロント大阪は知的創造拠点「ナレッジキャピタル」を核とし商業施設、オフィス、ホテル、住宅から構成されています。うめきた広場では、水を活かした空間演出を取り入れており、暑い夏でも清涼感を得ることができます。
また、歩道上にオープンカフェを設置することで、「歩いて楽しい」「飲食店と一体となった空間」をつくり、地区全体が魅力的なまちとなっています。

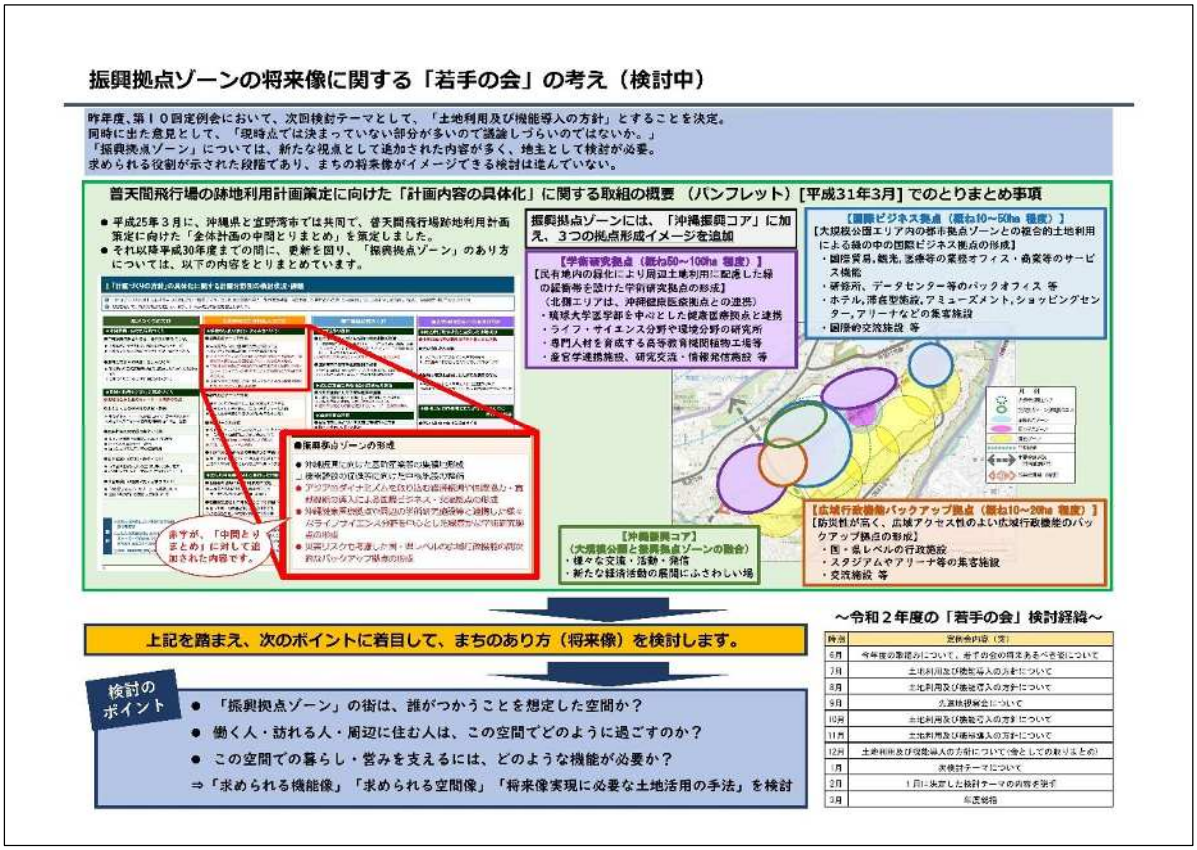
**５．神戸医療産業都市**

「シミュレーション・クラスター」「バイオ・クラスター」「メディカル・クラスター」の3エリアに分かれており、それぞれが連携できる仕組みがつくられています。
民間企業所有のビルであっても、神戸市が誘致を行っており、官民の分け隔てなく誘致するスタイルをとっています。

**６．神戸まちづくり研究所**

2000年3月にNPO法人の認証を受け、地域コミュニティ施策の見直しを行政に提案し、地域プラットフォーム形成を行っています。また、地域でまちづくりを行う団体のサポート支援を行い、地域を盛り上げ、人との関係性の構築を目指しています。

図：ニュースレターvol.１（P1～2）



図：ニュースレターvol.１（P3～4）

普天間飛行場の跡地を考える若手の会

# ニュースレター

Vol. 2
2021.3月発行
宜野湾市基地政策部まち未来課

ニュースレターとは

定例会に参加できなかったメンバーの方に対して、数か月分の若手の会で検討した内容をご紹介するために発行します。

昨年度の第１０回定例会において、次回検討テーマを「土地利用及び機能導入の方針」とすることに決定しました。
「現時点では決まっていない部分が多く議論しづらいが、振興拠点ゾーンについては、新たな視点として追加された内容が多く、検討が必要ではないか」というご意見もあり、今年度は特に「振興拠点ゾーン」に焦点を当てて、将来像の検討を進めています。あわせて、「若手の会の将来あるべき姿」についても検討を進めています。

## 第６回　定例会（R2.11.10）

■第５回までは、振興拠点ゾーンに求める機能像について検討を行いました。これまで検討した内容を踏まえ、振興拠点ゾーンに求める空間形成の考え方について、先進地視察先の写真をもとに意見交換を行いました。

❶公共空間も民有地も連続的かつ一体的に活用できる空間づくり

❷視点場を定めて、開放的な眺望を確保する空間づくり

❸人の回遊性を高め、まちなかを歩きたくなる空間づくり

【主な意見】

◆普天間飛行場跡地の整備コンセプトは「平和シンボルの国際的高次都市機能を備えた多機能交流拠点都市」と謳われている。元は米軍基地であったことが分かるように、基地の外周をサイクリングロードとして整備するなど空間形成の要素に加えても良いのではないか。
◆戦争の負の遺産を残し、将来の平和学習につなげても良いのではないか。
◆遺構を活かして一体的なまちづくりを行うことが良いと考える。
◆普天間飛行場跡地を見渡すことができる開放的な眺望を確保。
◆大規模公園のような、緑に囲まれた魅力的な空間が必要だと考える。

## 第７回　定例会（R2.12.8）

■第６回定例会で頂いたご意見を元に、振興拠点ゾーンに求める空間形成の考え方に「沖縄・普天間の歴史や地域性を感じる空間づくり」の項目を追加しました。

❹沖縄・普天間の歴史や地域性を感じる空間づくり

■令和３年度の検討テーマ（候補）について検討しました。

【検討テーマ候補（案）】

候補①　多様な機能の複合によるまちづくり
（都市拠点ゾーンや居住ゾーンについて検討）
候補②　土地利用需要の開拓と並行した計画づくり
「地権者の協働に向けた意向醸成の促進や、機能誘致見通しの確保にもとづく計画づくりについて検討
候補③　都市基盤整備の方針
「幹線道路、鉄軌道を含む新たな公共交通軸、緑地空間、供給処理・情報通信基盤の整備について検討

【主な意見】

◆候補③の中には「スマートシティの形成」という項目がある。未来の都市基盤はどうなるのか関心がある。
◆合意形成に係る取組みが現状としては弱いと感じるため、候補②がよいと思った。
◆候補①と候補②は分ける必要がなく、合わせて検討することがよいのではないか。

## 第８回　定例会（R3.1.12）

■2014年度（H26年度）に作成した、若手の会提言パンフレットの更新案について検討しました。

◇パンフレットの更新内容（案）について

（１）目指すべきまちとその具体的イメージ（追加）
・人が集まるまち
・個性的で文化豊かなまち
・持続的に発展可能なまち
（２）わたしたちの考え（更新）
（３）わたしたちの歩み（更新）
（４）今後の活動の展望（追加）

◇パンフレットのレイアウト（案）について

更新案は現行パンフレットに２ページ分追加し、３つ折りを想定します。

レイアウト更新案（３つ折り）

| 【中面】 | | 【外表紙】 | | |
|---|---|---|---|---|
| 追加 | | | 追加 | |
| ①目指すべきまちの３つの柱とその具体的イメージ（追加） | ②わたしたちの考え 目指すべきまちの実現に向けた公園、拠点、交通、住宅の考え方（方針）（修正・更新） | ③わたしたちの歩み（平成14年～平成25年）（追加）（平成26年～平成27年） | ④わたしたちの歩み（平成28年～令和３年）（追加）⑤今後の活動の展望（追加） | ⑥タイトル ⑦若手の会とは |

【主な意見】

◆パンフレットは市民及び外部向けに制作するため、専門用語には注釈を記載したほうがわかりやすい。
◆表表紙には、新規メンバー募集等の内容も記載してはどうか。
◆現パンフレットからデザインを変更してほしい。
◆平成２７年以降からの更新パンフレットとなるため、平成２７年度以降の写真を掲載した方がよい。

## 第９回　定例会（R3.2.9）

■第７回定例会で頂いたご意見から検討テーマを決定し、スケジュール案について検討しました。

《テーマを検討するにあたっての考え方》
①50年先のまちの考え方など夢のある話をして、地権者に興味を持ってもらいたい。
②夢のある話とセットで、合意形成の話をすると良い。
③先進地視察、研究チーム、専門的な知識を持った方から学びたい。

《令和３年度　検討テーマ》
都市基盤の整備と地権者の協働について

【主な意見】

◆昨年度の学別意見交換会で、地権者の方々から電線の地中化について話が挙がっていた。「都市基盤整備の方針」は、跡地利用を検討する上で必要と考える。地権者も身近な課題のため意見が出やすいのではないか。
◆２０１５年に国連で定めたＳＤＧｓ※1と関連させながら検討することで、新たな視点が出てくるのではないか。
※１　持続可能な開発目標。貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動のこと。

若手の会の将来あるべき姿について

将来あるべき姿に向け、今後どのような取組みが必要なのか継続して検討を進めています。過去の定例会で出た意見を一部ご紹介致します。

【第６回定例会】
・地主の目線とまちづくりの目線は異なる。まちづくりの視点と地主の視点で２つの組織にメンバーを分けて募集しても良いのではないか。
・分科化の問題や方策について、考えられる方法は試した方が良い。
・新しい会員のみを集めてレクチャーする期間を設けても良いのではないか。

【第７回定例会】
・考えるだけではなく、一人でも多くの方に声掛けし、行動することが必要である。
・まずは会員登録ではなく、「オンラインで会のようすを見ていただきたい」という声かけでも良いのではないか。あわせて、若手の会のニュースレターやふるさと、パンフレット等でオンライン参加を呼びかけても良いのではないか。

【第８回定例会】
・勧誘チラシには、「若手の会定例会をオンラインで視聴することができる」という文章と、ZOOMアクセス用のQRコードを記載してはどうか。

【第９回定例会】
・新規メンバーの勧誘を行ったが「仕事が忙しく定例会に参加が難しい」という回答が多い。今後も声掛けを継続し、メンバー勧誘に結び付けていきたい。

図：ニュースレターvol.２（P1～2）

図：ニュースレターvol.２（P3～4）

## ６）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

**●若手の会の考える「振興拠点ゾーンの将来像」について**

・「全体計画の中間取りまとめ」との関連性を考慮しながら、振興拠点ゾーンの都市像をイメージし、求める機能像と空間形成の考え方について具体的な事例をイメージしながら若手の会としての考えを取りまとめる事ができた。

**●若手の会の将来あるべき姿について**

・普天間飛行場返還後における若手の会のあるべき姿について、継続して議論を進める事により意識づけを行うと共に、現時点で取組むべき若手の会の課題に対し、新規会員の勧誘等、課題解決に向けた若手の会会員の自主的な取組みに展開させる事ができた。

**●検討内容の情報共有について**

・これまでは定例会案内文に議事要旨を同封する事で検討内容の情報共有を図っていたが、今年度は新たに数か月分の検討内容についてニュースレター形式で若手の会会員全員に対して発行する事で、視覚的に分かりやすく情報を共有する事ができた。

【今後の課題】

**●既存会員の掘り起こし**

・今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、主にオンライン会議で定例会を開催した。そのため、これまで仕事等の都合で定例会会場まで訪れる事が難しかった方が参加できるようになったというメリットもあるが、オンライン会議をメインとした事により参加しなくなった方もいるものと考えられる。
今後もオンライン会議を併用した定例会は続くと想定されるため、参加しなくなった会員の掘り起こしを行い、参加人数を増やす取組みが必要である。

**●次世代に繋いでいくための取組み**

・現会員のこれまでの活動を次世代に繋ぎ、更なる発展を目指していくためにも、若手の会の将来あるべき姿について検討を継続する事で会員自身の意識づけを深めていくと共に、新会員への知識の継承方法等具体的な取組みについて、若手の会として検討を進めていく必要がある。

**●地主会との連携強化**

・将来的に地権者の意向を取りまとめていくにあたり、地主会との連携をより強化し、跡地利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく必要がある。

## （2）地権者意向把握アンケートの実施

### 1）取組み概要

平成 27 年度から地権者との直接的な対話の場を持つ事を目的として「字別意見交換会」を継続して実施していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、対話形式ではなく「普天間飛行場跡地利用計画の検討内容」及び「普天間飛行場の跡地を考える若手の会の検討内容」に関する資料を全地権者に郵送し周知を図ると共に、アンケート形式による跡地利用計画の検討内容や若手の会の考える検討内容について意見収集を実施した。

### 2）実施概要

**（調査対象）**

・普天間飛行場の全地権者（海外在住者等を除く）

**（実施時期）**

・配　　布：令和２年 11 月９日（月）発送

・回収期限：令和２年 12 月 15 日（火）消印有効

**（配布・回収方法）**

・郵送による資料配布及びアンケート回収

・web アンケートによる回答

**（配布・回収状況）**

| 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|---|---|---|
| 3,684 件<br>（内、市内 2,325、市外 1,359） | 489 件<br>（内、web 回答 41） | 13.3% |

（令和 3 年 1 月 22 日集計）

### 3）調査項目

| 項目 | 把握する内容 |
|---|---|
| 跡地利用計画の検討内容に対する意見 | ・普天間未来予想図の内容に対する理解度<br>・跡地利用計画づくりで重要と考える視点<br>・振興拠点ゾーンにおいて地権者として興味のある分野 |
| 若手の会の検討内容に対する意見 | ・良い点、更なる検討が必要と考える点<br>・若手の会の考える振興拠点ゾーンの将来像について追加で必要と考える機能 |
| 今後の地権者意見交換会開催に関する意見 | ・開催場所、参加しやすい曜日と時間帯 |
| その他 | ・跡地利用計画に対する自由意見 |

## 4）調査結果

### 問１　普天間未来予想図について

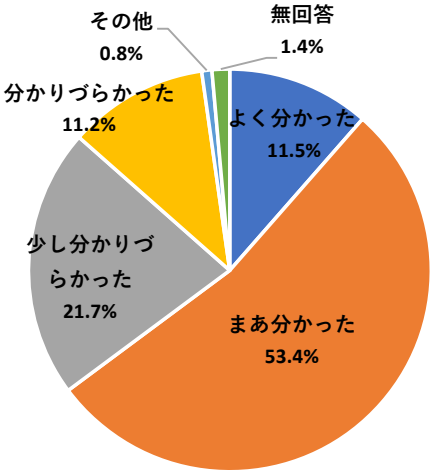
問１－１　内容について

１．よく分かった　　２．まあ分かった　３．少し分かりづらかった

４．分かりづらかった　５．その他

■単純集計　N=489

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| よく分かった | 56 | 11.5% |
| まあ分かった | 261 | 53.4% |
| 少し分かりづらかった | 106 | 21.7% |
| 分かりづらかった | 55 | 11.2% |
| その他 | 4 | 0.8% |
| 無回答 | 7 | 1.4% |
| 合計 | 489 | 100.0% |




「分かった」、「まあ分かった」の回答が全体の約 65%であり、プロモーションビデオ及びその概要説明資料の有効性が示された。しかし、「少し分かりづらかった」、「分かりづらかった」の回答も３割ほどあった事から、見やすさ及び分かりやすさについては今後も引き続き工夫して、より理解しやすい説明にする必要がある。

■その他意見（抜粋）

| 跡地利用計画の内容に関する意見 |
|---|
| ・どこに何が配置されるのか明確にしていただきたい<br>・構想が大きすぎる、立派すぎて分かりづらい<br>・アジアの中心という考えは良い、しかし、世界の中心としての位置づけを考えるべし |

問１－２　跡地利用計画づくりで最も重要と思った考え方

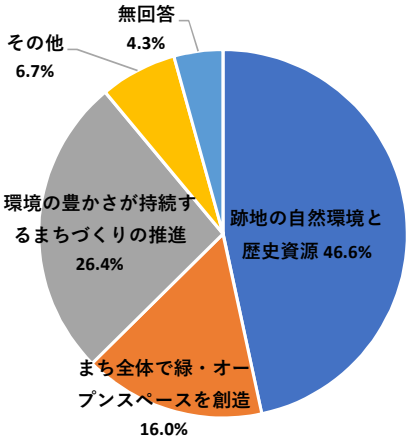
１．跡地の自然環境（緑・地形・水）と歴史資源を最大限に活用したまちづくり

２．まち全体で緑・オープンスペースを創造

３．環境の豊かさが持続するまちづくりの推進　　４．その他

**■単純集計　N=489**

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 跡地の自然環境と歴史資源 | 228 | 46.6% |
| まち全体で緑・オープンスペースを創造 | 78 | 16.0% |
| 環境の豊かさが持続するまちづくりの推進 | 129 | 26.4% |
| その他 | 33 | 6.7% |
| 無回答 | 21 | 4.3% |
| 合計 | 489 | 100.0% |




「跡地の自然環境と歴史資源を最大限に活用したまちづくり」が最も重要という回答が、全体の約 47%であった。戦前の並松街道や緑豊かな自然環境、古来より存在する拝所や文化財等を活用する事の重要性について、地権者として一定の理解を示している事が推察できる。

**■その他意見（抜粋）**

| 機能・施設に関する意見 |
|---|
| ・現計画よりもさらに大規模な、自然を活用したアトラクション施設（地下洞窟の探検ツアー、沖縄市のこどもの国のようなもの）で集客力を高めていく<br>・世界の貿易や商業施設としてのスペースも重要<br>・商業地と住宅地、緑地の３点の融合<br>・防災拠点の整備 |
| 自然環境への配慮に関する意見 |
| ・土壌汚染問題等、地権者に不利益を与えない対策が必要である |
| 都市基盤整備に関する意見 |
| ・幹線道路、駐車場等の整備、公共交通の充実 |

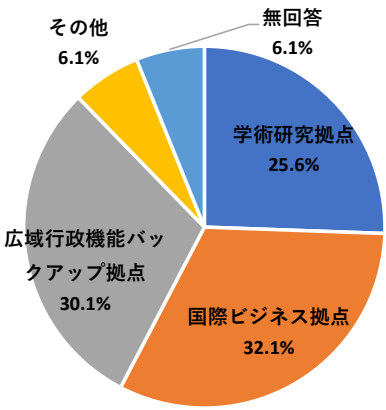
問１－３　振興拠点ゾーン内で最も興味のある分野

１．学術研究拠点　　２．国際ビジネス拠点

３．広域行政機能バックアップ拠点　　４．その他

■単純集計　N＝489

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 学術研究拠点 | 125 | 25.6% |
| 国際ビジネス拠点 | 157 | 32.1% |
| 広域行政機能バックアップ拠点 | 147 | 30.1% |
| その他 | 30 | 6.1% |
| 無回答 | 30 | 6.1% |
| 合計 | 489 | 100.0% |




回答数は「国際ビジネス拠点」、「広域行政機能バックアップ拠点」、「学術研究拠点」の順に多かったが、極端に回答数の差がなかった事から、ある一つの分野に特化するのではなく各分野のバランスが取れたゾーンとしての整備が求められている事が推察できる。

しかし一方では「その他」、「無回答」も全体の 12%であった。その他意見においては「立派すぎてイメージできない」という回答もあった事から、振興拠点ゾーンのイメージについては、今後より分かりやすく地権者に提示していく必要がある。

■その他意見（抜粋）

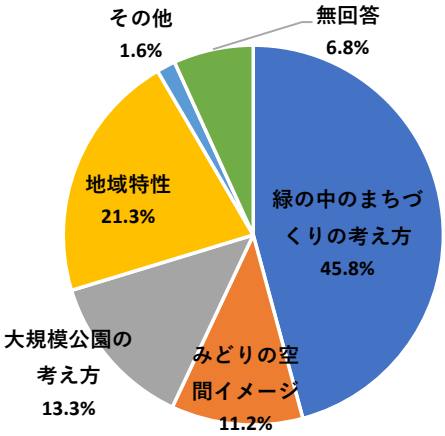
| 施設に関する意見 |
|---|
| ・スポーツ施設<br>・国際会議場、海洋動植物の研究所<br>・病院と介護センター<br>・アジアの金融拠点、国際機関の施設を誘致する |
| **振興拠点ゾーンのイメージに関する意見** |
| ・実感が湧かない<br>・立派すぎてイメージできない<br>・個人として、直接そのゾーンへの関わりが持てない気がする<br>・渋滞を発生させるためやめた方がよい |

**問２　若手の会の考える「環境づくりの方針」、「振興拠点ゾーンの将来像に関する「若手の会」の考え（検討中）」について**

問２－１　「環境づくりの方針」で良いと思った点、さらに検討が必要と思った点
１．緑の中のまちづくりの考え方　２．みどりの空間イメージ
３．大規模公園の考え方　４．地域特性　５．その他

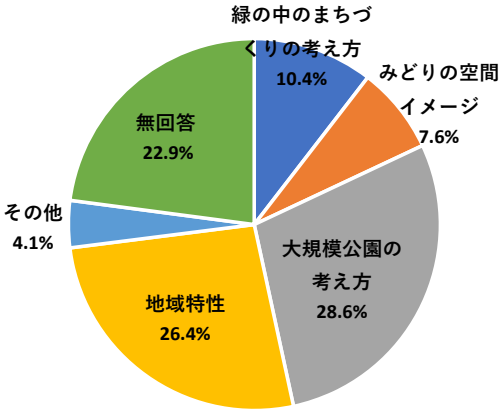
**■良いと思った点　単純集計　N＝489**

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 緑の中のまちづくりの考え方 | 224 | 45.8% |
| みどりの空間イメージ | 55 | 11.2% |
| 大規模公園の考え方 | 65 | 13.3% |
| 地域特性 | 104 | 21.3% |
| その他 | 8 | 1.6% |
| 無回答 | 33 | 6.8% |
| 合計 | 489 | 100.0% |




**■さらに検討が必要と思った点　単純集計　N＝489**

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 緑の中のまちづくりの考え方 | 51 | 10.4% |
| みどりの空間イメージ | 37 | 7.6% |
| 大規模公園の考え方 | 140 | 28.6% |
| 地域特性 | 129 | 26.4% |
| その他 | 20 | 4.1% |
| 無回答 | 112 | 22.9% |
| 合計 | 489 | 100.0% |




良いと思った点について、「緑の中のまちづくりの考え方」が約 46%、「地域特性」が約 21%という回答であった。

さらに検討が必要と思った点で最も回答が多かったのが、「大規模公園の考え方」で約 29%、次いで「地域特性」が約 26%であった。

地域特性について、文化財や地下洞窟等地域固有の資源活用の仕方については他計画分野とも連動するため、若手の会の今後の検討テーマとして挙げる事も考えられる。

大規模公園の考え方について、若手の会として取りまとめた事項はテーマや規模等概念に関する内容であるため、今後若手の会として具体的な整備内容、維持管理のための仕組みづくりの方法等、さらに検討を深めていく事が望ましい。

■その他意見（抜粋）

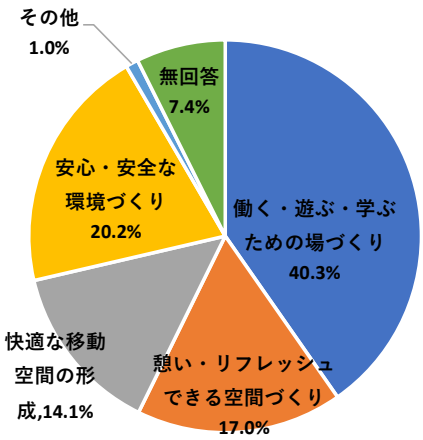
| 緑の中のまちづくりの考え方に関する意見 |
|---|
| ・理想に留まらず是非実現してほしい<br>・大多数の市民が容易に接することができる「みどりの空間」がよい<br>・人が集まらないようにしてほしい |
| **大規模公園の施設に関する意見** |
| ・ウォーキングで一周できる細長い公園がほしい<br>・夜の公園は危険であるため、安全性に問題はないか<br>・国営公園で、動物園、水族館等も併設した公園がよい<br>・遺跡を移動させるのはナンセンスである<br>・並松街道の復元を実現させてほしい |
| **維持管理に関する意見** |
| ・緑地や樹木の維持管理を実行できる（体制）仕組みづくりは重要<br>・維持費等が莫大にかかる |

問２－２　「振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え（検討中）」について、良いと思った点、さらに検討が必要と思った点

１．働く・遊ぶ・学ぶための場づくり
２．憩い・リフレッシュできる空間づくり　３．快適な移動空間の形成
４．安心・安全な環境づくり　５．その他

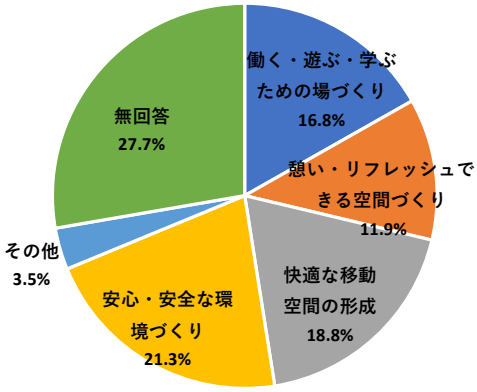
■良いと思った点　　単純集計　N＝489

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 働く・遊ぶ・学ぶための場づくり | 197 | 40.3% |
| 憩い・リフレッシュできる空間づくり | 83 | 17.0% |
| 快適な移動空間の形成 | 69 | 14.1% |
| 安心・安全な環境づくり | 99 | 20.2% |
| その他 | 5 | 1.0% |
| 無回答 | 36 | 7.4% |
| 合計 | 489 | 100.0% |



■さらに検討が必要と思った点　　単純集計　N＝489

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 働く・遊ぶ・学ぶための場づくり | 82 | 16.8% |
| 憩い・リフレッシュできる空間づくり | 58 | 11.9% |
| 快適な移動空間の形成 | 92 | 18.8% |
| 安心・安全な環境づくり | 104 | 21.3% |
| その他 | 17 | 3.5% |
| 無回答 | 136 | 27.7% |
| 合計 | 489 | 100.0% |




良いと思った点については、「働く・遊ぶ・学ぶための場づくり」が最も多く約 40%、次いで「安心・安全な環境づくり」の約 20%であった。

地権者からの意見としても、単なるオフィスや研究施設等の集積だけでなく、緑あふれる環境づくりや安全面への配慮も加味したゾーンである事が求められているものと推察できる。

さらに検討が必要と思った点について、「無回答」が最も多かった事、また、その他意見の中でも「抽象的でイメージがわかない」という意見があった。今年度の若手の会では、求められる機能と空間形成の考え方に関して検討、取りまとめを行っている事から、このような回答傾向になったものと考えられる。

今後の跡地利用計画の検討状況を踏まえ、しかるべき時期に改めて振興拠点ゾーンの内容に関する検討を定例会で行う事が望ましいと考えられる。

■その他意見（抜粋）

| 振興拠点ゾーンの将来像に関する意見 |
|---|
| ・理想に留まらず是非実現してほしい<br>・他自治体との連携も考え、機能を独占しない方がよい<br>・抽象的すぎてイメージがわかない<br>・立派すぎて分からない |

| 問２－３　「振興拠点ゾーンの将来像」について、追加で必要と思う機能（記述式） |
|---|

■意見（抜粋）

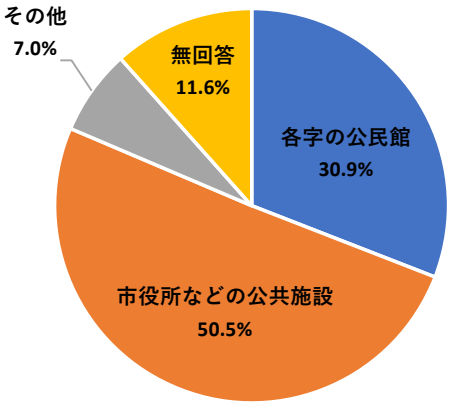
| 機能に関する意見 |
|---|
| ・那覇市・北谷町・沖縄市は商業施設を中心とした開発であるため、競合しない国際ビジネス拠点などがよいと思う<br>・沖縄は地震災害が少ないことからバックアップシステムを期待していると窺えるが、それに則した関連事業、災害リスクを考慮した安全管理体制施設などは最も重要な分野と思う<br>・この計画では公園や緑地に重点を置いているが、沖縄の中心地として商業施設に重点を置き、ポスト香港を目指してはどうか。外国の人が自由、安全に滞在できれば、ウォール街を抜くのも夢ではない<br>・医療、福祉をさらに充実させ、公共交通機関にも配慮する必要がある<br>・アジアのハブとなる IT、金融、国際機関の誘致を積極的に行い、ヒト、モノ、カネの集約を図る<br>・学術都市を目指し、将来の人材育成の視点から、小、中、高、大学の学校づくりをこのプロジェクトに盛り込んでいただきたい。人材育成こそ、このプロジェクトの目玉にしていただきたい<br>・大学の学術研究や、学生の将来を助けるような施設があってもよいのではないか<br>・普天満宮、森の川などの観光についても強化してほしい<br>・まだまだイメージがわきづらい<br>・もっと分かりやすく、訴える表現がほしい |
| その他意見 |
| ・おもろまちや小禄金城、ライカムとどのような部分が共通し、異なるか一覧で比較してもらうとイメージしやすい。今の振興拠点の将来像は概念であり、イメージしづらい<br>・「新たな経済活動の展開にふさわしい場」とあるが、具体的な事例や課題の把握等について知りたい<br>・道路、公園などの公共用地にかかる土地以外は、地主に住宅地として返還していただきたい |

**問３　今後の、地権者との意見交換会の開催の仕方について**

問３－１　どのような会場で開催すればよいか
　　１．各字の公民館　　２．市役所などの公共施設　　３．その他

**■単純集計　N＝489**

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 各字の公民館 | 151 | 30.9% |
| 市役所などの公共施設 | 247 | 50.5% |
| その他 | 34 | 7.0% |
| 無回答 | 57 | 11.6% |
| 合計 | 489 | 100.0% |




市役所などの公共施設での開催を希望されている方が最も多く、約 50%であった。また、その他意見の中でオンラインでの開催という回答もあり、市外・県外居住の地権者への対応のあり方についても、今後検討していく必要がある。

**■その他意見（抜粋）**

・駐車場が広い場所（他 2 件）
・オンラインでの開催（他 11 件）
・今回のアンケートのように、広く意見を聞く（他 2 件）
・個々に意見を伺う

問３－２　参加しやすい曜日、時間帯

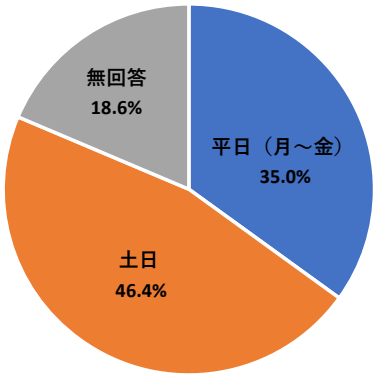
１．各字の公民館　　２．市役所などの公共施設　　３．その他

曜　日→　１．平日（月～金）　　２．土日

時間帯→　１．午前中　　２．午後　　３．夜間

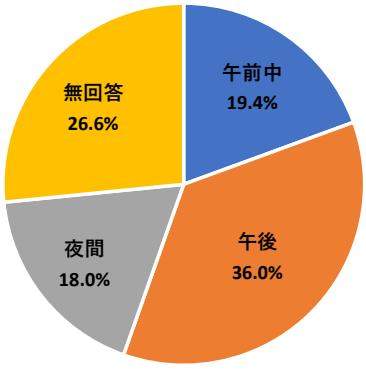
**■曜日　　単純集計　N＝489**

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 平日（月～金） | 171 | 35.0% |
| 土日 | 227 | 46.4% |
| 無回答 | 91 | 18.6% |
| 合計 | 489 | 100.0% |




**■時間帯　　単純集計　N＝489**

| 回答 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 午前中 | 95 | 19.4% |
| 午後 | 176 | 36.0% |
| 夜間 | 88 | 18.0% |
| 無回答 | 130 | 26.6% |
| 合計 | 489 | 100.0% |




曜日については土日、時間帯は午後が最も多かった。

また、時間帯については午前中という回答もあった事から、開催時間については平日昼間、休日午前中の開催も視野に入れ、これまで参加されていなかった（参加できなかった）地権者への周知も検討する必要がある。

**■その他意見**

・常にいつでも、どこでもをモットーに考えてもらいたい

## 問４　普天間飛行場跡地利用計画に対する意見（記述式）（抜粋）

| 合意形成に関する意見 |
| --- |
| ・今後、返還が決定されれば跡地利用に対して地権者の合意形成が重要となってくる。今から地権者（地主）一人一人が返還について学び、跡地利用やまちづくりの知識を十分なものにして行く事が重要なことと感じる。<br>・地主との合意形成が重要と思うが、地権者の理解を得るためにはどうしたらいいか、検討課題の一つであると思う。 |
| 情報発信に関する意見 |
| ・市民への広報が重要と思われる。IT による発信と合わせて文字の発信、分かりやすい情報発信が必要である。 |
| 跡地利用計画に関する意見 |
| ・ある程度行政主導で決断し、それに沿った民間活力を利活用する方が、トラブルが少ないと思う。民間や地権者のみで主体的に行わせると、互いに責任転嫁する傾向にあり、進行に遅れが生じると思う。<br>・個人的な考えとしては、辺野古の海を破壊するくらいなら普天間飛行場の移設は望まない。資料の中にあった、「みどりの空間イメージ」は憩いの場にもなりそうであるが、一方で小さな子供や動物に対する犯罪の場にもならないかと懸念である。<br>・将来像は大枠想像できたが、具体例などがあれば理解が深まると思う。<br>・各種拠点を設けて、それぞれの環境整備を整えていくのはよいが、そうする事により普天間飛行場周辺の環境はどのように変化していくのか、又は発展の可能性はあるのかなども、ビジョンを含めて検討いただきたい。<br>・跡地利用だけではなく、周辺との連携やそのことに伴い周辺施設、周辺住民にどのようなメリットがあるのかも検討いただきたい。<br>・若者が仕事できる、活気のある場所、未来に残せる都市づくりを行っていただきたい。<br>・沖縄県の観光のメインになるような施設の誘致も検討いただきたい。<br>・県庁を宜野湾市に移転させ、高速道路やモノレール等を整備して沖縄全体での移動手段を考えてはどうか。<br>・宜野湾市内の文化施設をまとめる、あるいは増やせないか。<br>・ヨーロッパや北米を中心に人々を集めているリゾート施設である、「Wavegarden」を誘致してはどうか。 |

| 都市基盤整備の内容に関する意見 |
| --- |
| ・道路幅員は広めに。なるべく赤瓦屋根などを中心とした住宅地とし、それを受け入れる人を優先すべき。<br>・公共交通の導入、高齢者も行きたくなるような町がよい。また、他市町村からも来やすいようにモノレール等の整備がされればよい。<br>・市内をひと周りする、市内周遊バスが通るような市内一周道路はどうか。<br>・普天間飛行場内にある自然はなるべく残して利用していただきたい。<br>・墓地、御嶽等については地権者と良く協議し、将来を見据えて公園型にした方がよいのではないか。<br>・浦添運動公園のような、安全で緑豊かで市民が時間をあまり気にする事なく利用できる運動公園が欲しい。<br>・大規模公園が必要かどうか分からない。中規模程度でよいと思う。公共用地に多くの面積を取られ、自分の土地が大きく減るのは嫌である。充分な住宅地が必要と思った。 |
| 減歩に関する意見 |
| ・最大の関心は、減歩がどの程度で、実際に使える宅地面積が残るかどうかということである。過少宅地は土地活用ができなくなるのではと心配である。その地に戻って住みたい人に対しては、必要宅地面積が残されるように配慮した計画としていただきたい。 |
| その他（質問等） |
| ・広大な面積を占めている滑走路を具体的にどう活用するか知りたい。<br>・地下資源の活用、開発の考え方はないか。<br>・ゆとりと緑のある住宅地（広々とした敷地）とあるが、どの位の土地があれば住宅を建てることができるか。又、現在の面積が整備後どの位の面積になるのか。希望すれば地主は全員、土地を活用して家を建てることができるのか。<br>・所有地が墓地で、墓としてそのまま使用したいと考えているが、そういった個人の考えは考慮されるのかどうか心配である。ぜひ、個人の考え方を尊重いただきたい。<br>・そもそも「若手の会」とは何歳くらいの集団で、どのように選出され、どのような属性の人たちなのか、また、何名なのか知りたい。<br>・それぞれの開発に要する費用と財源はどうするのか。（他２件）<br>・地権者に対するケア、協力するメリットはあるのか。<br>・誰の土地で開発を進めるのか。地権者の収益はどうなるのか。開発後の収益はどれ位なのか。様々な数値を提示していただきたい。地権者のメリットがない時は、誰が補償するのか。集まることができない人達のために、web にて回答してほしい。<br>・県外在住のため意見交換会に参加できないが、オンライン会議なども検討してよいのではないか。 |

## 5）総評

### 問１　普天間未来予想図について

跡地利用計画づくりにおいて最も重要と思った考え方として、「跡地の自然環境と歴史資源を最大限に活用したまちづくり」が約 47%と最も回答数が多く、２番目に回答数が多かった「環境の豊かさが持続するまちづくりの推進」の約 26%と大きく差が開いた。まちづくりを進めるにあたり、残されている自然と地域独自の歴史資源の活用が重要な役割を果たす事について、地権者としてもある一定の理解を示している事が、今回のアンケート結果から推察される。

しかし振興拠点ゾーンについては、「学術研究拠点」、「国際ビジネス拠点」、「広域行政機能バックアップ拠点」の３種類共に回答数の極端な差がなかった事から、各分野のバランスが取れたゾーンとしての整備が求められている事が推察できる。今後、跡地利用計画の内容がより具体化していく中で、適切な時期に改めて地権者の意向を確認する事が望ましい。

### 問２　若手の会の考える検討内容について

若手の会が令和元年度に検討した「環境づくりの方針」、令和２年度の検討途中段階である「振興拠点ゾーンの将来像」の２種類について地権者からの意見を収集した。

まず「環境づくりの方針」については、「地域特性」の部分において他計画分野とも連動する文化財や地域固有の資源活用の仕方、「大規模公園の考え方」においてはより具体的な整備内容や維持管理のための仕組みづくりの方法等、今後の検討テーマを設定する上での参考となる事項が地権者の意見から収集できた。

次に「振興拠点ゾーンの将来像」については、単なるオフィスや研究施設等の集積だけではなく、緑や安全面への配慮等多様な機能を持ったゾーンが求められている事が推察できる。

今年度は求められる機能と空間形成の考え方に関する検討であったため、今後改めて振興拠点ゾーンの内容に関する検討を行い、地権者の意向を伺う事が望ましい。

### 問３　意見交換会の開催方法

開催場所については、「市役所などの公共施設での開催」を希望する回答が半数あり、「各字の公民館」の回答よりも多かった。これまで毎年３箇所程度の字で意見交換会を実施しているが、当該地域に居住されていない地権者は、他の字の公民館には行きづらい傾向があったと推察される事から、「公共施設での開催」の方が居住されている地域に関わらず気軽に参加できると考えられる。

今後はオンライン会議の併用等、市外・県外在住のために来場が難しい方にも対応可能な手法の検討が必要である。

### さいごに（アンケート形式による意見収集について）

今回はアンケート形式で意見収集を行うため、普天間未来予想図（プロモーションビデオ）の内容を資料として同封すると共に、動画サイト（YouTube）に動画を掲載した。合わせて、アンケート用紙による回答だけではなく、web フォームによる回答も受け付け、41 件

の web 回答を得る事ができた。

これまでの地権者意見交換会の参加人数は最大 122 名（平成 28 年度実施）であったが、今回のアンケート形式による意見回収数は 489 件であり、対話形式よりも多くの回答が得られた。対話形式では日時や時間帯の制約がある事から、今回のアンケート形式による意見収集は、参加したくとも参加できない地権者の意見についても一定数汲み取る事ができたものと考えられる。

しかし、パソコンやスマートフォンの活用が難しく、紙面でしか情報を得る事ができない地権者にとっては、これまでの対話形式の方が情報を伝えやすい場合もある。

また、紙面では掲載するスペースが限られている事から、検討内容を絞り込んで掲載しておく必要がある。

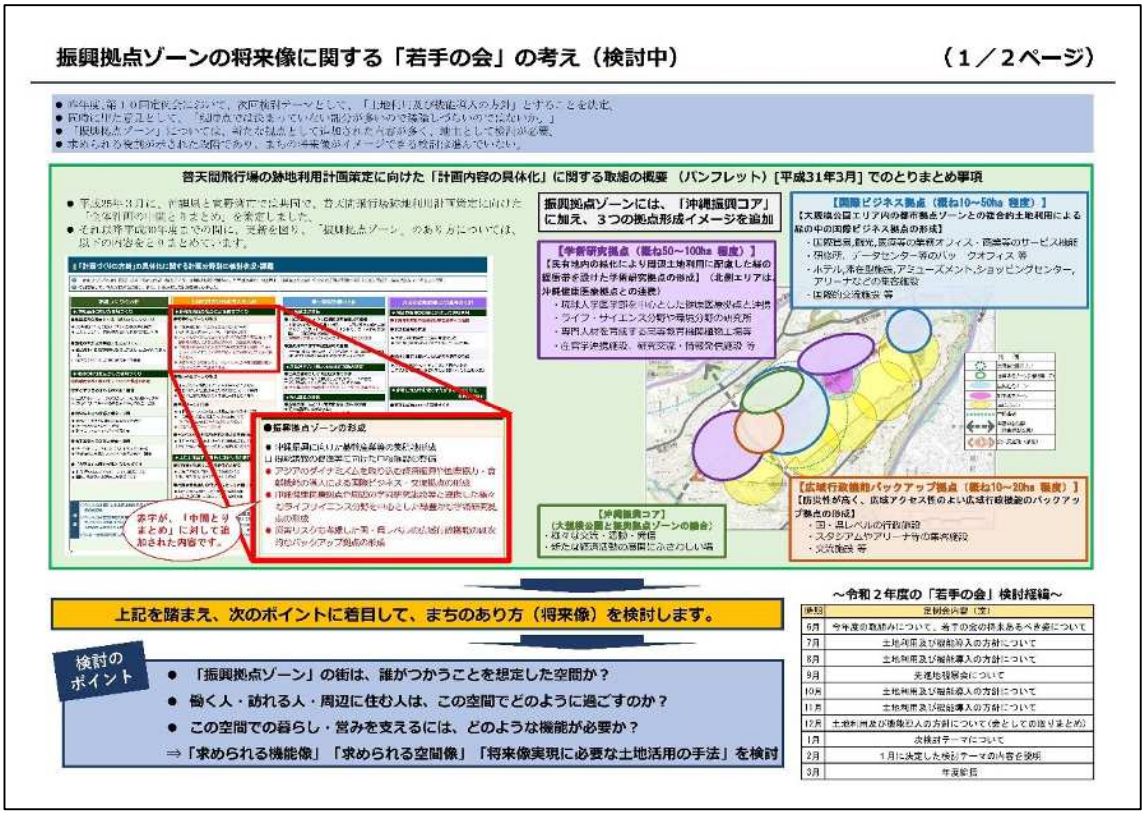
これらの事が、普天間未来予想図の内容の分かりやすさについて約 3 割が「少しわかりづらい」、「分かりづらい」という回答傾向となった一因であると推察される。

対話形式とアンケート形式、それぞれ手段として一長一短があるが、今後も継続して地権者と意見交換会を開催していく事は必要であるため、双方の長所を活かした意見交換会のあり方についても今後検討し、より多くの地権者に対する周知と意見収集が可能なように取組む必要がある。

## 6）配布資料、アンケート回答用紙

（配布資料）

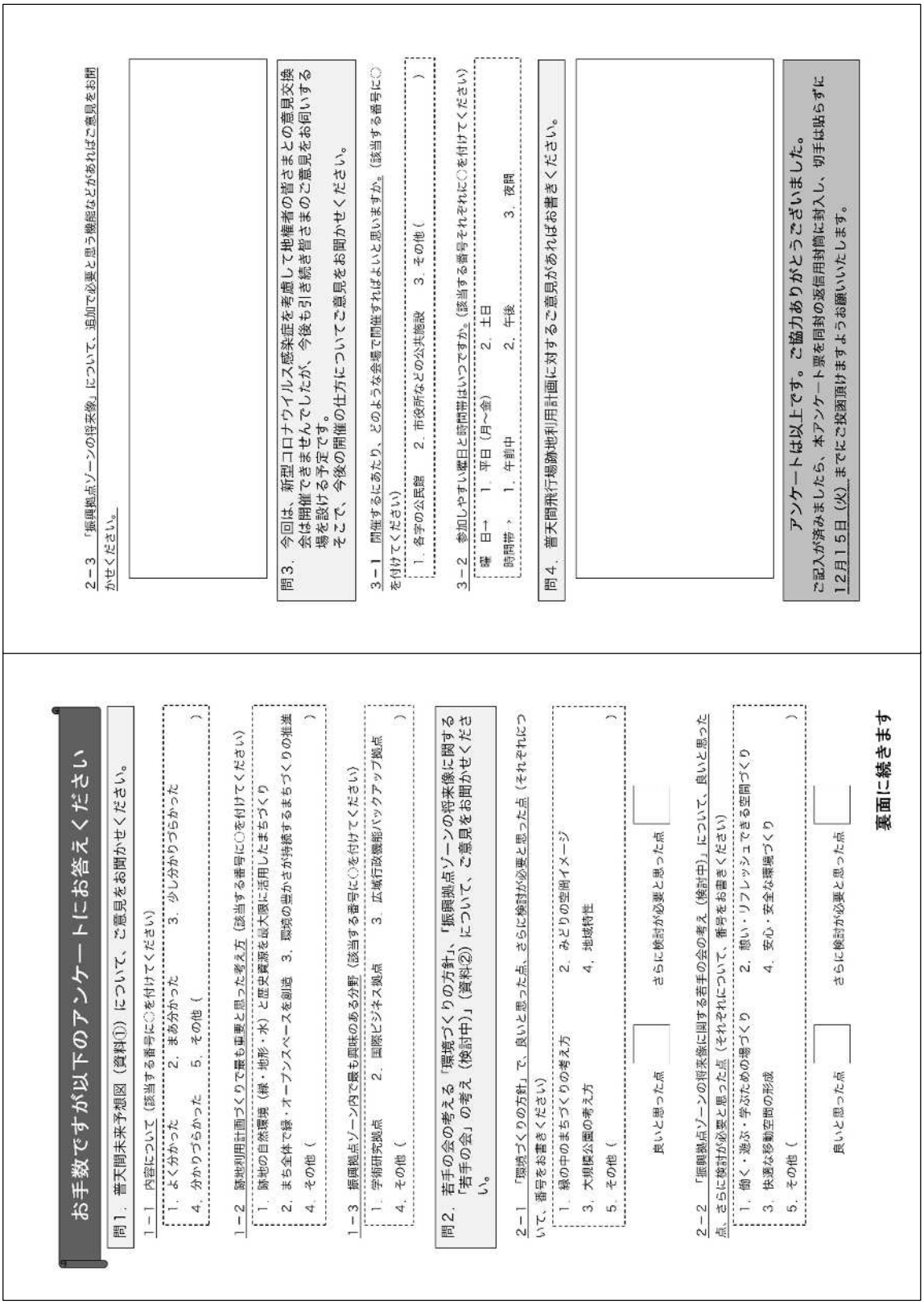
配布資料①　普天間未来予想図




配布資料②　若手の会の考え（P1～2）

配布資料②　若手の会の考え（P3）

（アンケート回答用紙）



お手数ですが以下のアンケートにお答えください

問1．普天間未来予想図（資料①）について、ご意見をお聞かせください。

1－1　内容について（該当する番号に○を付けてください）

1．よくわかった　2．まあわかった　3．少しわかりづらかった
4．分かりづらかった　5．その他（　　）

1－2　跡地利用計画づくりで最も重要と思った考え方（該当する番号に○を付けてください）

1．跡地の自然環境（緑・地形・水）と歴史資源を最大限に活用したまちづくり
2．まち全体で緑・オープンスペースを創造　3．環境の豊かさが持続するまちづくりの推進
4．その他（　　）

1－3　振興拠点ゾーン内で最も興味のある分野（該当する番号に○を付けてください）

1．学術研究拠点　2．国際ビジネス拠点　3．広域行政機能バックアップ拠点
4．その他（　　）

問2．若手の会の考える「環境づくりの方針」、「振興拠点ゾーンの将来像に関する「若手の会」の考え（検討中）」（資料②）について、ご意見をお聞かせください。

2－1　「環境づくりの方針」で、良いと思った点、さらに検討が必要と思った点（それぞれについて、番号をお書きください）

1．緑の中のまちづくりの考え方　2．みどりの空間イメージ
3．大規模公園の考え方　4．地域特性
5．その他（　　）

良いと思った点　　さらに検討が必要と思った点

2－2　「振興拠点ゾーンの将来像に関する若手の会の考え（検討中）」について、良いと思った点、さらに検討が必要と思った点（それぞれについて、番号をお書きください）

1．働く・遊ぶ・学ぶための場づくり　2．憩い・リフレッシュできる空間づくり
3．快適な移動空間の形成　4．安心・安全な環境づくり
5．その他（　　）

良いと思った点　　さらに検討が必要と思った点

裏面に続きます

2－3　「振興拠点ゾーンの将来像」について、追加で必要と思う機能などがあればご意見をお聞かせください。

問3．今回は、新型コロナウイルス感染症を考慮して地権者の皆さまとの意見交換会は開催できませんでしたが、今後も引き続き皆さまのご意見をお伺いする場を設ける予定です。
そこで、今後の開催の仕方についてご意見をお聞かせください。

3－1　開催するにあたり、どのような会場で開催すればよいと思いますか。（該当する番号に○を付けてください）

1．各字の公民館　2．市役所などの公共施設　3．その他（　　）

3－2　参加しやすい曜日と時間帯はいつですか。（該当する番号それぞれに○を付けてください）

曜　日→　1．平日（月～金）　2．土日
時間帯→　1．午前中　2．午後　3．夜間

問4．普天間飛行場跡地利用計画に対するご意見があればお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
ご記入が済みましたら、本アンケート票を同封の返信用封筒に封入し、切手は貼らずに12月15日（火）までにご投函頂けますようお願いいたします。

アンケート回答用紙

## 7）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

**●複数の媒体を活用した地権者意見の収集**

・今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点からアンケート形式で意見収集を行ったが、紙面に加え web フォームによる回答の受け付けや、動画サイトに普天間未来予想図（プロモーションビデオ）を掲載する等、複数の媒体を活用する事により、直接会場まで来場する事が難しい地権者からも跡地利用計画の検討内容に対する意見を一定数収集できた。

**●回答数について**

・アンケート形式による意見回収数は 489 件であり、これまでの対話形式よりも多くの回答が得られた。今回のアンケート形式による意見収集で、参加したくとも参加できない地権者の意見について一定数汲み取る事ができた。

【今後の課題】

**●より多くの地権者に対する周知と意見収集について**

・アンケート形式では意見交換会等に参加できない地権者の意見を汲み取る事が可能だが、パソコンやスマートフォンの活用が難しく、紙面でしか情報を得る事ができない地権者にとっては、これまでの対話形式の方が情報を伝えやすい場合もある。また、対話形式の方が、より深い地権者の考えや思いを伺う事ができると考えられる。
このように対話形式とアンケート形式は、それぞれ手段として一長一短がある。そのため、双方の長所を活かした意見交換会のあり方についても今後検討し、より多くの地権者に対する周知と意見収集が可能なように取組む必要がある。
また、今後もアンケート形式を採用する場合は、回収率向上の更なる工夫を行い、より多くの地権者からの意見を収集する必要がある。

**●市外・県外在住者からの意見収集手法について**

・自由意見に、市外・県外在住のために参加できない地権者への対応として、「オンライン会議の開催」や「質問に対する web 上での回答」という意見が挙がっていた。今後はオンライン会議の併用等、市外・県外在住のために来場が難しい地権者にも対応可能な手法の検討が必要である。

## （３）地権者支援情報誌「ふるさと」の作成・発行

### １）取組み概要

跡地利用に関する行政側の情報や若手の会の活動等に関する情報の提供を目的として、地権者支援情報誌「ふるさと」を作成し、発行した。

### ２）情報発信の内容

| 回　数 | 発送時期 | 主な掲載内容 |
|---|---|---|
| 第 52 号 | 令和３年３月 | ○報告事項<br>・アンケートの概要報告<br>・若手の会活動内容 |

### ３）取組み成果と今後の課題

**【取組み成果】**

**●跡地利用に関する情報発信について**

・全地権者に対して跡地利用に関する行政・若手の会の取組みについての情報を発信する事ができた。

・紙面に二次元コードを掲載して掲載内容に対する意見を伺うようにする事で、今後の「ふるさと」の紙面構成及び内容の改善点を把握できるようにした。

**【今後の課題】**

**●見やすさ及び分かりやすさの工夫について**

・今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、対話形式による地権者意見交換会をアンケート形式に変更して意見収集を行ったりイベントの開催を中止する等、対話、対面形式による取組みを極力減らす形で業務を進める事となった。
今後も同様、対話、対面形式での取組みが減る事が想定されるため、地権者への情報支援ツールとして「ふるさと」の重要性は非常に高いといえる。
そのため、紙面の見やすさ、分かりやすさについては更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるよう努める必要がある。

# アンケートで頂いた主な意見

## 振興拠点ゾーンの将来像 について追加で必要と思う機能

●沖縄の中心地として商業施設に重点を置き、ポスト香港を目指してはどうか。外国人の人が自由、安全に滞在できれば、ウォール街を抜くのも夢ではない。

●学術都市を目指し、将来の人材育成の視点から、小、中、高、大学の学校づくりをこのプロジェクトに盛り込んでいただきたい。人材育成こそ、このプロジェクトの目玉にしていただきたい。

●医療、福祉をさらに充実させ、公共交通機関にも配慮する必要がある。

## 都市基盤整備の内容 に関する意見

●公共交通の導入、高齢者も行きたくなるような町がよい。

●普天間飛行場内にある自然はなるべく残して利用していただきたい。

●市内をひと周りする、市内周遊バスが通るような市内一周道路はどうか。

●浦添運動公園のような、安全で緑豊かで市民が時間をあまり気にする事なく利用できる運動公園が欲しい。

## 合意形成 に関する意見

●今後、返還が決定されれば跡地利用に対して地権者の合意形成が重要となってくる。今から地権者（地主）一人一人が返還について学び、跡地利用やまちづくりの知識を充分なものにして行く事が重要なことと感じる。

## 跡地利用計画 に関する意見

●将来像は大枠想像できたが、具体的などがあれば理解が深まると思う。

●跡地利用だけではなく、周辺との連携やそのことに伴い周辺施設、周辺住民にどのようなメリットがあるのかも検討いただきたい。

●おもろまちや小禄金城、ライカムとどのような部分が共通し、異なるか一覧で比較してもらうとイメージしやすい。

●「みどりの空間イメージ」は憩いの場にもなりそうであるが、一方で小さな子供や動物に対する犯罪の場にもならないかと懸念である。

## アンケートを振り返って

今回はアンケート形式で皆さまのご意見を伺い、これまでの対話形式よりも多くの意見を頂くことが出来ました。

今後も、対話形式とアンケート形式、双方の長所を活かし、継続して皆さまのご意見を伺っていきたいと考えておりますのでご理解・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

## 「ふるさと」に対する感想、ご意見をお聞かせください

●より分かりやすい情報誌にするため、「ふるさと」に対する皆様のご感想、ご意見をおきかせください。

●右記 QR コードまたは URL より回答フォームへアクセスしてご回答ください。

▶ QR コードでアクセス

▶ URL を直接入力

https://forms.gle/Esj2qRyDDnhJH6tF8

## 土地先行取得事業を実施しています

宣野湾市と沖縄県では、普天間飛行場返還後の跡地において、新たな住みよいまちづくりを進めることを目的に、返還前の早い段階から公有地（学校用地、道路）を確保するため、「沖縄県における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法（以下、「跡地利用推進法」という。）」に基づく土地先行取得事業を実施しています。詳しくは市ホームページをご覧ください。

【 地権者支援情報誌「ふるさと」発行元 】
宣野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710　沖縄県宜野湾市野嵩一丁目１番１号
電話　098-893-4401(直通)　FAX　098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。
情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。

地権者支援情報誌 ふるさと
vol.52
3月 2021 March 発行
宜野湾市基地政策部まち未来課

地権者支援情報誌「ふるさと」では、普天間飛行場跡地利用に関する最新情報をお伝えします。

# 地権者意見交換会に代わる跡地利用計画に関するアンケートを実施しました。

これまで、米軍普天間飛行場の地権者の皆さまを対象とした意見交換会を実施していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、アンケート形式により皆さまの普天間飛行場跡地利用計画に対するご意見などを伺いました。結果概要について一部ご紹介します。

**（実施期間）**

・配　　布：令和２年 11 月　9 日（月）発送

・回収期限：令和２年 12 月 15 日（火）消印有効

**（配布・回収方法）**

・郵送による資料配布及びアンケート回収

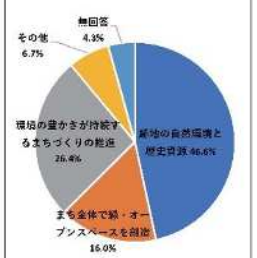
・Web アンケートによる回答

**（配布・回収状況）**

| 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|---|---|---|
| 3,684 件<br>(内、市内 2,325、市外 1,359) | 489 件<br>(内、Web 回答 41) | 13.3% |

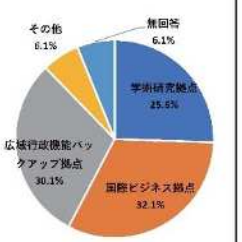
**（アンケート結果　抜粋）**

問1-2　跡地利用計画づくりに最も重要と思った考え方



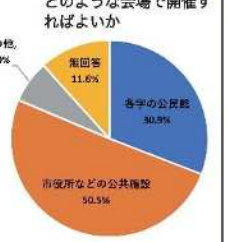

「跡地の自然環境と歴史資源を最大限に活用したまちづくり」と回答された方が約半数近くを占めており、戦前の並松街道や緑豊かな自然環境、古来より存在する拝所や文化財などを活用することの重要性について、一定の理解が示されています。

問1-3　振興拠点ゾーン内で最も興味のある分野




ある一つの分野に特化するのではなく各分野のバランスが取れたゾーンとしての整備が求められていることが分かります。

問3-1（今後の地権者との意見交換会の開催方法について）どのような会場で開催すればよいか




市役所など公共施設での開催を希望されている方が最も多く、約半数でした。

また、その他意見の中でオンラインでの開催というご意見もありました。

アンケート結果のつづきは裏面をご覧ください。

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.52(表面)

図：地権者支援情報誌「ふるさと」Vol.52(中面)

## （4）若手の会パンフレット（更新版）の作成

### 1）取組み概要

若手の会として、地権者意見交換会等対外的な場における活動内容の周知を行うにあたり平成 26 年度に活動内容パンフレットを制作したが、その後の若手の会の検討内容等を反映させるため、パンフレット内容の更新を行った。

なお、構成については若手の会定例会の議題として取り扱い、若手の会からの意見を反映させたパンフレットとした。

### 2）取組み成果と今後の課題

**【取組み成果】**

**●若手の会の最新検討内容を周知するツールの完成**

・若手の会の最新の検討内容まで取りまとめる事で、対外的な場で若手の会の考え等を誰でも容易に知る事ができるツールが完成した。

**【今後の課題】**

**●パンフレットを活用した若手の会の活動周知方法**

・現在、地権者意見交換会や先進地視察会等の対外的な場において、パンフレットを活用して若手の会の発足経緯や検討内容等の説明を行っているが、更なる有効なパンフレット活用手段を検討し、若手の会の活動内容周知に繋げていく必要がある。

図：若手の会パンフレット更新版(表面)

図：若手の会パンフレット更新版(中面)

## 2-3．ねたてのまちベースミーティング、市民などへの取組み

取組み方針①：ＮＢミーティングの今年度テーマの検討と取りまとめ及び情報収集、意見集約の機会を支援する。

取組み方針②：ＮＢミーティング定例会への参加者の増加及び組織強化を図るため、対外的な活動を通してまちづくりに関する活動の輪を広げる。

取組み方針③：市民に対し、跡地利用への興味関心を高めるため情報発信を行う。

### （1）NB ミーティングの定例会活動支援

#### 1）取組み概要

市民の関心ごとの一つとして、現在居住している地域が今後どのように変化するのかという事が挙げられる。そのため昨年度に引き続き、今年度の検討テーマを「周辺市街地から考える普天間飛行場跡地利用計画」と設定し、普天間飛行場に隣接する地域の課題や要望を NB ミーティング定例会で集約し、跡地利用計画に反映すべき点として取りまとめた。

#### 2）取組みスケジュール

| No | 開催日 | 議題及び取組内容 |
|---|---|---|
| 1 | 6 月 16 日 | ・新型コロナウイルスの影響下の会の運営について<br>・今年度の取組みと進め方（案）について |
| 2 | 7 月 21 日 | ・今年度の取組みと進め方について<br>・まち歩きについて |
| 3 | 8 月 18 日 | ・今年度の取組みと進め方について<br>・まち歩きについて |
| 4 | 9 月 15 日 | ・まち歩きと講座の実施について<br>・コロナ禍での活動について<br>・ＮＢミーティングの位置づけ |
| 5 | 10 月 20 日 | ・まち歩きと講話の実施について<br>・先進地視察会概要報告及び意見交換について<br>・ＮＢミーティングの位置づけ |
| 6 | 11 月 17 日 | ・先進地視察会概要報告及び意見交換について<br>・今後の取組みについて<br>・有識者検討会議について<br>・ＮＢミーティングの位置づけ |
| 7 | 12 月 5 日 | ・まちづくりカフェ<br>「普天間飛行場内や周辺市街地における洞窟」 |

| No | 開催日 | 議題及び取組内容 |
|---|---|---|
| 8 | 12 月 15 日 | ・今後の取組みの考え方<br>（・達成感を得られる取組みについて<br>・若者に参加してもらえる取組みについて<br>・まち歩き実施済地区との連携について）<br>・次年度の視察のテーマ<br>・有識者検討会議について |
| 9 | 1 月 14 日※ | ・今後の取組みの考え方<br>（・達成感を得られる取組みについて<br>・若者に参加してもらえる取組みについて<br>・まち歩き実施済地区との連携について）<br>・次年度の視察のテーマ<br>・有識者検討会議について |
| 10 | 2 月 16 日 | ・今後の取組みの考え方<br>（・達成感を得られる取組みについて<br>・若者との連携手法について<br>・まち歩き実施済地区との連携について）<br>・全体計画の中間とりまとめ案（事務局素案）に対する意見<br>・次年度の視察のテーマ<br>・今年度のとりまとめ<br>・会長、副会長選挙方法について |
| 11 | 3 月 16 日 | ・今年度の活動の振り返り<br>・大学との連携<br>・有識者検討会議についての議論の場<br>・会長、副会長選挙 |

※本業務対象外

写真：定例会の様子①

写真：定例会の様子②

### 3）まちづくりカフェの企画・開催

○開催日時：令和２年 12 月５日（土）　16：00～18：00
○開催場所：宜野湾ベイサイド情報センター（Gwave cafe1 階）
〇目　　的：宜野湾市の歴史的、地理的な事を知りたいという NB ミーティング会員からの意見が多かったことから、過去に洞窟調査も行っている普天満宮の新垣宮司を講師に招き、普天間飛行場の地下水や洞窟に関する知識を習得する。
〇講　　師：普天満宮宮司　新垣義男氏
○内　　容：まちづくりカフェ
～普天間飛行場内や周辺市街地の地域資源の保全・活用の講話～
○参加者　：ＮＢミーティング（6 名）、一般参加（3 名）、
オンライン参加（3 名）
※今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、参加募集の案内を限定して開催した。

**①当日の様子**

## ②講演内容（概要）

・普天満宮洞窟内に祀られている神様は「熊野権現」という神社系統である。和歌山県にある熊野三所権現が沖縄にも伝来し、那覇にある波上宮をはじめとする琉球八社※1のうち、安里八幡宮以外の 7 つの神社には、熊野権現が祀られており、普天満宮と識名宮と金武宮には洞窟がある。このように熊野権現と洞窟には関わりがある事から、興味を持ち洞窟探検を始めた。

※1　琉球八社とは、琉球王国において、「琉球八社の制」により、王府から特別の扱いを受けた 8 つの神社の事。波上宮、識名宮、末吉宮、天久宮、沖宮、普天満宮、金武宮、安里八幡宮が琉球八社である。

・沖縄県には約 800 か所の洞窟があり、そのうちの約 600 か所は調査されている。宜野湾市は洞窟の密度が高く、小さな洞窟も含めると約 140 か所以上ある。

・宜野湾市は高いところで海抜が 120 メートルほどあり、雨が降ると、硬度が高い粘土層（不透水性）の地域から、北西側へ水が流れ、石灰岩地域で地下に浸透し、地下を通って、国道 58 号沿い（大山区）のいたるところで湧き出ている。

・かつて中城湾の中心部には山があったと推測され、そこから普天間川の断層線に沿って浸食しながら水が下に流れていき、石灰岩地域（宜野湾市）で地下に浸透、地下を通る事で洞窟が形成された。

・普天間飛行場の東側にあるマーカーガマから基地の中にあるアジミ―、ケレンケレンガマ、基地の西側（大山区と伊佐区の境目）にあるオーグムヤーの線で洞窟がある。滑走路上は厚いアスファルトで覆われているので、雨水は地下に浸透しないが、アジミーから雨水が地下に流れ、オーグムヤー周辺で湧き出る。

**【資料】宜野湾市内洞窟分布図**

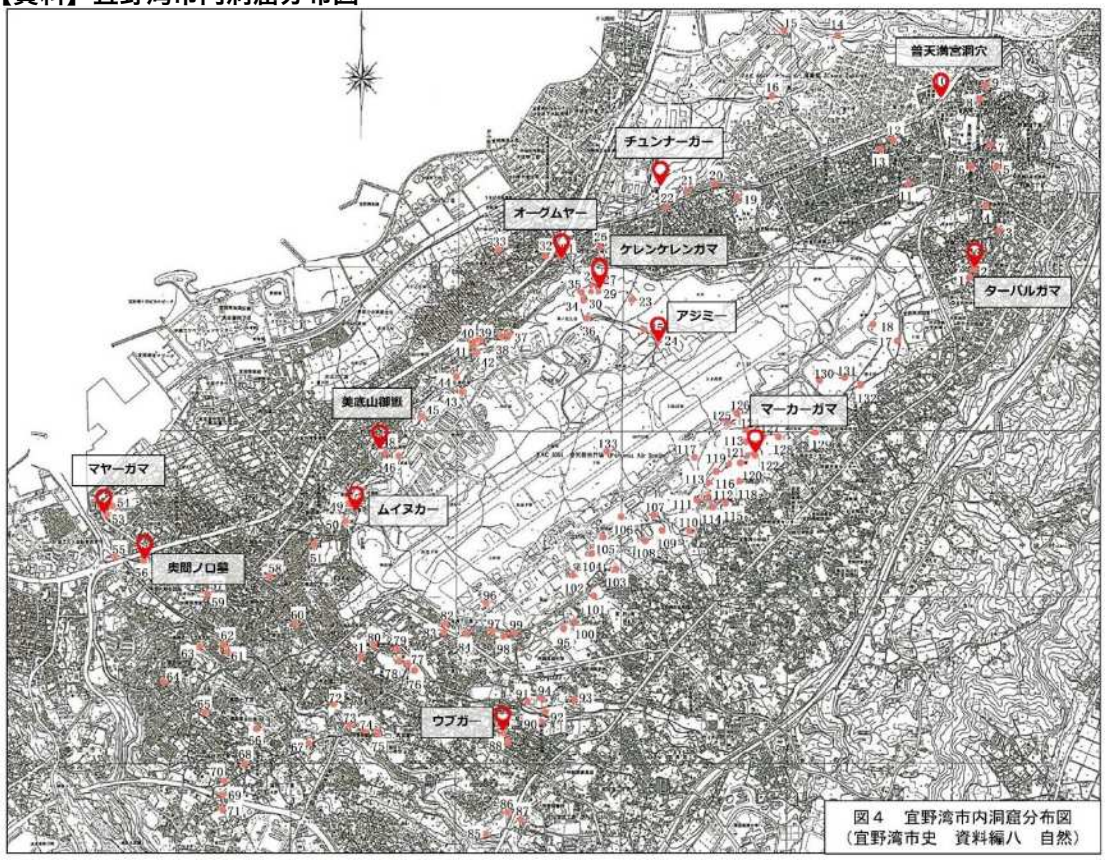



図４　宜野湾市内洞窟分布図
（宜野湾市史　資料編八　自然）

**③質疑応答**

・普天満宮洞窟について、今は洞窟のどの部分まで入る事が可能か。
⇒石門から入り正面には奥宮という小さな祠がある。左は洞窟サンゴ、右はアンソダイト周辺まで入る事は可能である。年に 1 度 6 月 30 日に神様の懐に入り魂や気が浄化されて新たに生まれ変わる儀式として「胎内渡り」を行っている。

・今まで新垣宮司が調査した洞窟の中で、将来、普天間飛行場が返還されまちづくりを行う際に、観光や泡盛の貯蔵庫等に活用できると思う洞窟はあったか。
また、鍾乳洞があるために地盤に気をつける必要があり、開発が難しい場所があればご教授頂きたい。
⇒洞窟内で泡盛を貯蔵する事は賛成である。保全したい洞窟は、旧神山地区にあるマーカーガマからアジミーに入りオーグムヤーに繋がる洞窟である。また、ケレンケレンガマにはきれいな鍾乳石もある。全部を通す洞窟になれば、200m位は掘る必要が出てくるが、宜野湾市の中で、一番大きい洞窟になると思う。チュンナガー(喜友名泉)は、国指定の文化財だが、水を枯らさないためには、普天間飛行場から流れる地下水が必要である。

・オーグムヤー洞窟の洞長を教えてほしい。
⇒オーグムヤーに入り、約 200m進むと落盤しておりその先には進めない。測量している部分を全部合わせると、洞窟の洞長は 1,600mである。
・美底山御嶽の洞窟は調査したのか。
⇒戦後すぐに美底山のガマを発掘調査し、約 3,000 年前の大山式土器が発見された。美底山御嶽一帯は風葬の跡で人骨が多数発見されている。

・普天間飛行場の地下に水源を持つ湧水が、ほとんど有機フッ素化合物で汚染されていると新聞にも記載されていた。チュンナガーをはじめ、大山のウブガー、ムイヌカー(森の川)も「この水は飲めません」と記載されている。中城村からも地下水は流れているが、普天間飛行場の西側から出ている湧水と水源のつながりはどうなっているのか。
⇒野嵩と中城村の境界は、地形の高低差が 20m以上ある。普天間飛行場側の野嵩と普天間の境目で、中城村のダムから流れる水と合流しそのまま海へ流れるためほとんど関係はない。

・普天間飛行場と普天満宮の地層等は類似しているが、洞窟の形状や琉球石灰岩層中の流下状況は同様なものと考えてもよろしいか。
⇒普天満宮洞窟と普天間飛行場内の洞窟とは全然違う。洞窟の位置を見ると分かるように、米軍の海軍病院のところから北側に普天満宮洞窟があるため、普天間飛行場とは交差していない。西普天間住宅地区跡地にはイシジャー（緑地）があり川が流

れているが、水は普天間飛行場の地下水である。

・普天間飛行場跡地利用計画では「緑の中のまちづくり」において、100ha 規模の大規模公園をつくり、水や緑、大山の田いも畑を保全する計画がある。洞窟を観光で利用した場合、開発により自然が破壊され緑が損なわれる可能性もあるが、新垣宮司のお考えはいかがか。

⇒開発になれば影響やリスクはある。観光で利用しない洞窟は、全部公園にした方が地下水も守られて良いと考えている。人間が行う行為は自然に影響を及ぼす。開発については行政や市民で考える必要があると思う。

・西普天間住宅地区跡地の造成等を受けて、普天満宮の地下にある洞窟の水量等の変化はあったか。

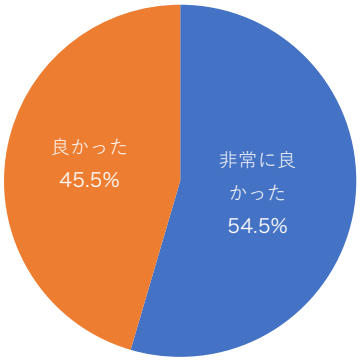
⇒普天満宮洞窟に影響はない。防衛施設庁も含めてボーリング調査を行い、地層境界の深度などを調べている。

### ④アンケート調査結果

**【現地参加者】**

Q1．今回のまちづくりカフェ講話の内容はいかがだったでしょうか。

| 選択肢 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 非常に良かった | 6 | 54.5% |
| 良かった | 5 | 45.5% |
| 普通 | 0 | 0.0% |
| 良くなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 計 | 11 | 100.0% |




※オンライン参加者含（2 名）

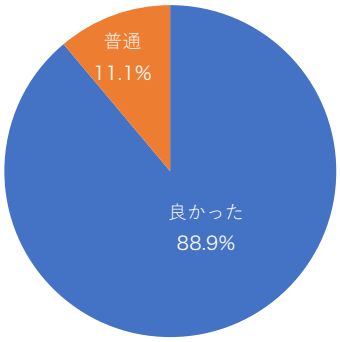
Q2．今回のまちづくりカフェの内容について、ご意見やご感想があればお聞かせください。

・興味深い話を聞くことが出来た。
・洞窟の話は大変参考になった。次の講座に繋げていきたい。
・興味深い話が多く、今後更に学習を深めていきたいと思う。
・講話の時間は、もっと長くても良かった。宮司に聞きたいことがまだあった。
・非常に勉強になった。ありがとうございました。
・知らなかった中城ドームを知ることができ面白かった。
・普天間飛行場跡地のまちづくりを考える時、普天間飛行場の地下について考える必要があると思った。

・洞窟のことが知れて良かった。いろんな洞窟に入ってみたくなった。
・宜野湾のガマの資料がもらえたのが嬉しい。
・新垣宮司の博識さに感心した。
・時間外の質問についても、回答が記入されており大変分かりやすかった。
・洞窟の資料も豊富で参考になった。

Q３．今回のまちづくりカフェ講話の会場の雰囲気はいかがだったでしょうか

| 選択肢 | 回答数 | 構成比 |
|---|---|---|
| 良かった | 8 | 88.9% |
| 普通 | 1 | 11.1% |
| 良くなかった | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 計 | 9 | 100.0% |




Q４．Q３の理由をお聞かせください。

・講師や参加者の皆様方から元気をもらえた。
・コロナ対策がなされており、カフェも雰囲気も良い会場であった。
・一人一人テーブルが準備されており良かった。
・質疑応答も活発に行われ、リモート参加者からも質疑があり充実していたと感じた。

### ⑤動画の取りまとめ

内容については、下記 URL または二次元コードからアクセスして YouTube で視聴可能なように取りまとめを行った。

https://youtu.be/SQj_l8laytA

### ４）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

**●新規会員の加入について**

・まち歩き参加者から１人、市ホームページ等の広報活動により２人、NB ミーティングへの新規加入があった。また、新規会員による積極的な議論への参加や自主的な提案もなされ、議論の活性化につながった。

**●会員の自主性の向上について**

・一般市民の参加しやすい方法として、会員から自主的な提案がなされた事により、「まちづくりカフェ」の開催につながった。開催にあたっても、講師の出演や内容調整の他、当日の司会進行等の実施に至るまで、定例会で議論を交わしながら役割分担等を決めて実施した事で、会員の自主性向上に繋がった。

**●新たな会議形式の確立について**

・今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、オンライン会議を開催したが、これまでの会議と同人数程度の参加者であった。会議についても滞りなく進める事ができ、新たな会議形式を確立する事ができた。

・議題についても、事務局ではなく定例会の最後に参加者が決める事により、参加者の興味の掘り起しに繋がる会議運営ができた。

【今後の課題】

**●取組みの参加者を増やすための検討**

・今年度は、オンライン会議のため全会員へ会議資料を事前発送した。その結果、これまで会議に参加していなかった会員に対して、毎月の定例会における細かな資料を目にする機会となり、定例会に参加する会員も増えてきた。しかし、定例会やまち歩きに参加する会員は固定化されているため、さらなる参加者を増やすための検討が必要となる。

## （2）まち歩きの企画・開催

普天間飛行場に接する地域の課題や要望を拾い上げ、跡地利用計画検討に反映する事を目的に、大謝名・上大謝名地区のまち歩きを実施し、意見収集を行った。また、伊佐区も実施する予定であったが、沖縄県独自の緊急事態宣言発出のため中止し、次年度に実施する事になった。

### 1）まち歩き意見交換会の概要

**大謝名・上大謝名地区**

○開催日時：令和２年 11 月 14 日(土)　9：00～12：00
○開催場所：上大謝名さくら公園（上大謝名自治会事務所隣）
○テ ー マ：将来計画における土地利用や湧水や文化財などの活用・保存
○内　　容：まち歩きのポイント（３ヵ所）で、担当者からの説明後に意見交換を行いながら、まち歩きを行った。その後、公民館でまち歩きを振り返り、意見交換を行った。
○参 加 者：26 名（うち、NB ミーティング４名）

【大謝名・上大謝名地区まち歩きルート】（まち歩き距離：約 2.7 ㎞）

資料：まち歩きルート図

資料：大謝名・上大謝名地区周辺の都市マスタープラン全体構想図と普天間飛行場跡地配置方針図の重ね図

（琉球大学小野尋子ゼミ企画・提供）

写真：まち歩きの様子

写真：意見交換会の様子

【主な意見】

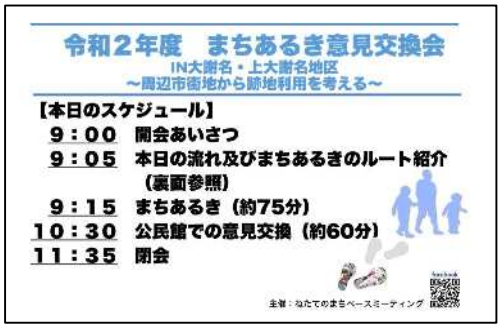
<table>
<tr><th>意見の分類</th><th>意見</th></tr>
<tr><td>地域の現状の問題と要望について</td><td>
●区画整理事業の必要性<br>
・地域内ですごく広い道路もあれば十分に整備されてないような狭い道路もある。私道のため道路整備が行政の行き届かない状況である。<br>
・県道の渋滞が原因で抜け道になっている。道路の損傷が目立つ。<br>
・下水道や排水路が老朽化している。<br>
・普天間飛行場の跡地利用と周辺との接続を含めて取り残されないのか。また普天間飛行場の跡地利用が進まないと周辺も進まないという事なのか。などの不安があるため、今出来る事からでも行ってほしい。<br>
●黄金宮（クガニナー）の周辺の整備<br>
・クガニナーについて、文化財指定の問題があるが、整備して頂きたい。拝みに来る方は現状の管理状況を見てがっかりする。<br>
クガニナー<br>
<br>
●比屋良川公園の整備や橋梁整備<br>
・比屋良川公園からの道が途切れており、嘉数区との交流がない。きれいな川で都市部にあり、これだけの渓谷があるのは比屋良川だけだと思うが、草が茂っており通る事が難しい。
</td></tr>
<tr><td>将来のまちづくりに望む事</td><td>
●跡地利用と併せて整備ができるのであれば、３００坪くらいの駐車場がほしい。環境が良く、湧水も保全して、住みやすいまちにしてほしい。<br>
●環境を大事にするようなまち、湧水をしっかり利用できて安心して住めるようなまちを目指してほしい。<br>
●地域に「上大謝名さくら公園」しか公園がないため残してほしい。<br>
●外人住宅も保全を図ってほしい。実際に使用している外人住宅をモデルにすると、小さな観光スポット（港川外人住宅街（浦添市）のような）になるのでは。<br>
●返還された後に高層ビルが建ち眺望を妨げるような事はしないでほしい。<br>
●緑が多くあり住みやすい地区を作ってほしい。公園がいくつもあり遊んでも安全なまちをつくっていただきたいと思う。<br>
地域内の湧水<br>
<br>
上大謝名地区の基地フェンス沿い<br>

</td></tr>
</table>

| 意見の分類 | 意見 |
|---|---|
| 普天間飛行場跡地利用への提案 | ●モノレールや鉄軌道、大きな道路は高齢者に使いやすいものなのかどうか心配である。普天間基地は市街地の真ん中にあるため周辺を通る路面電車ができたら高齢者から通学する学生も使いやすいのではないか。<br>●鉄軌道は観光客や企業の利便性も良いが、住民の利便性から考えると路面電車のほうが使いやすいのではないか。 |
| NB ミーティングの感想 | ●私道が多い事もあり、まちづくりに対して厳しい意見が多くあがったが、まち歩きを通して湧水や公園、文化財について、今後普天間飛行場跡地と周辺市街地を含めて考えていく良い機会になったと感じた。<br>●普段は車でしか移動しないため、歩いてみて様々なものが見えた。住民にとって住みやすいまちというのはどういうものなのか、普段とは視点を変えて見えて良かったと思う。まちづくりを考えるのであれば地域の人たちに優しいまち、地域の人が求めているものは何か知る事に気づけた事が良かったと感じた。<br>●基地の中のまちづくりについて意見が出なかった事が課題である。なかなか想像しにくいのではないかという事と、返還の時期が分からないため今の生活の場が重要だという考えの表れなのかなと感じた。 |

## 2）動画の取りまとめ

内容については、下記 URL または二次元コードからアクセスして YouTube で視聴可能なように取りまとめを行った。




https://youtu.be/lhCNU8i6Ou0

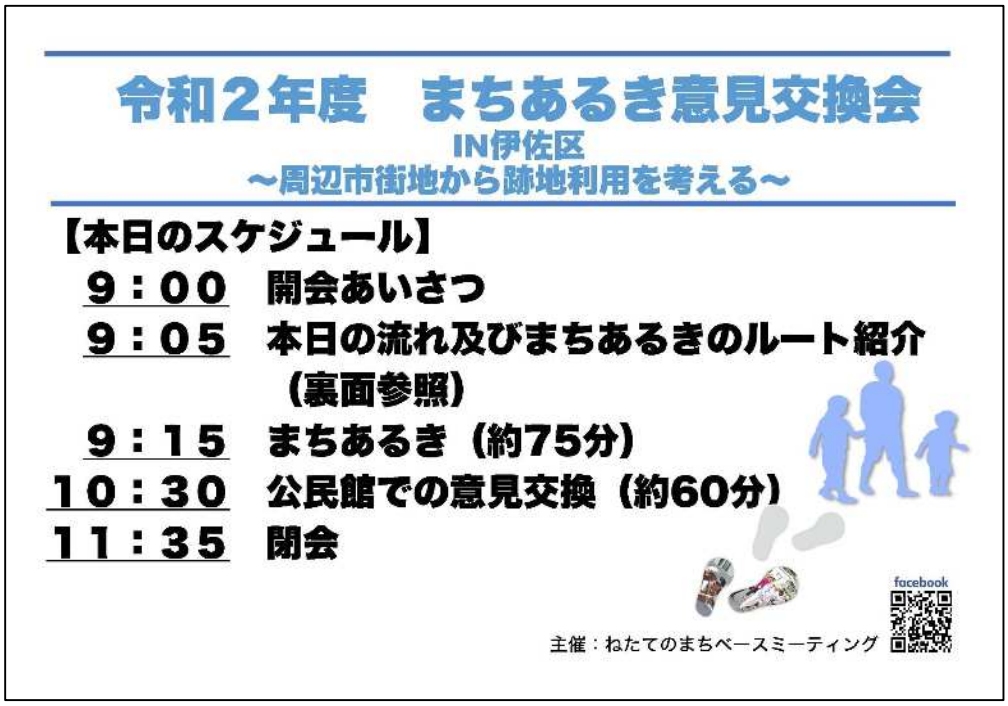
伊佐区

①周知方法

伊佐区自治会の定例会に伺い、まち歩きルートや内容説明、参加募集の呼びかけまで行ったが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、開催は次年度とした。

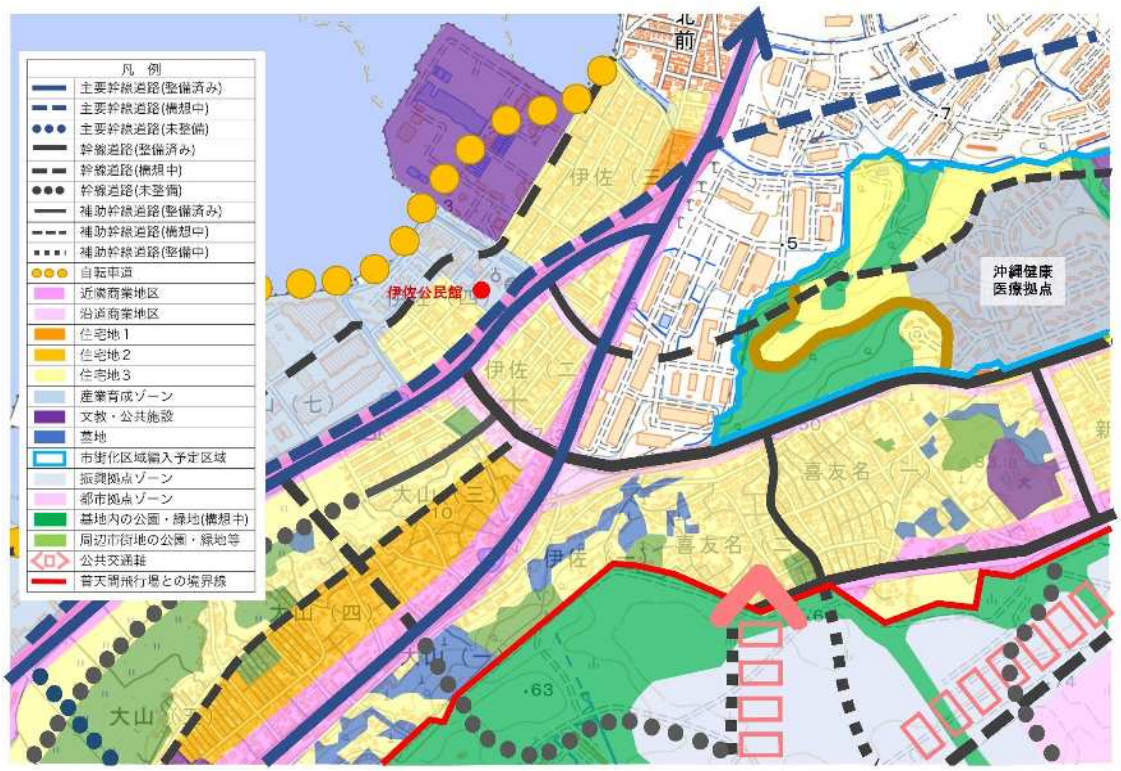
まち歩き案内チラシ

②配布資料




資料：まち歩きスケジュール

資料：まち歩きルート図




資料：伊佐区周辺の都市マスタープラン全体構想図と普天間飛行場跡地配置方針図の重ね図
（琉球大学小野尋子ゼミ企画・提供）

### ３）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

**●普天間飛行場周辺住民からの意見収集**

・大謝名・上大謝名地区において実施し、参加者から多くの意見収集を図る事ができた。また、意見の大半が地区の現状の課題であり、地域の課題抽出にも繋がった。

**●新規会員の加入**

・まち歩き参加者の中から新規会員の加入があり、NB ミーティング定例会での積極的な議論への参加など、議論の活性化に繋がった。

【今後の課題】

**●跡地利用計画自体に対する意見の収集**

・まち歩き・意見交換会では現状のまちの課題に関する意見が多く、普天間飛行場跡地利用についての意見が少ない傾向にある。そのため、まち歩き実施時において、跡地利用計画の内容がイメージしやすいような資料の見せ方など工夫する必要がある。

**●地域との継続した連携**

・今後も「まち歩き」を継続的に実施し、地域の課題や要望等の意見集約を図り、跡地利用計画に反映すべき点を取りまとめていく必要がある。

・「まち歩き」を行う事で地域の団体等との連携を深めていき、継続した普天間飛行場跡地利用に携わる取組みの協力を依頼していく事が必要となる。

## （3）市内小中高等学校において児童・生徒へ向けた出前講座の企画・開催

### 1）開催概要

普天間飛行場が返還される将来においては、現在の児童・生徒が成人し、まちづくりの中心的な役割を担っているものと考えられる。

そのため、早期の段階から市内の小中高等学校の児童・生徒に対し、跡地利用計画に対する周知と理解を深め、普天間飛行場返還後のまちづくりについて共に考えてもらう取組みとして、普天間飛行場跡地利用に関するこれまでの取組み内容等を分かりやすく表現したプロモーションビデオ（PV）を制作した。

出前講座の開催については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、次年度以降に延期した。

なお、PV については、次年度以降の小中高等学校における総合学習等の教材としての活用を促していくものとする。

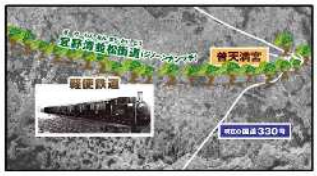
《出前講座のイメージ》
◆対象学年：小学５年生・中学２年生・高校２年生（想定）
◆時　　間：２時間程度
◆教　　科：総合学習・社会科等
◆活動場所：体育館等（1 学年が集まることのできる会場）
◆ね ら い：普天間飛行場が返還されたあとの将来のまちをイメージし、自分自身が理想とする「住みたいまち」「働きたいまち」を実現するために必要なこと、また、実現するためには何をすれば良いのか考えてもらう。

### 2）プロモーションビデオ（PV）の内容

◆タイトル：みらいの宜野湾市を考えよう～普天間飛行場跡地利用計画～
◆再生時間：9 分 22 秒
◆コ ン テ：次頁参照

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 1 | 5秒<br>/5秒 | | はいたいぐすーよ～<br>ちゅーうがなびら！<br>私はふてんにょ<br>みんなよろしくね！ |
| 2 | 7秒<br>/12秒 | | 今日は私と一緒に 宜野湾市の将来、魅力あるまちづくりについて一緒に考えていきましょうね！ |
| 3 | 6秒<br>/18秒 | | みらいの宜野湾市を考えよう<br>～普天間飛行場跡地利用計画～ |
| 4 | 5秒<br>/23秒 | | 宜野湾市は「ねたての都市（まち）ぎのわん」と呼ばれていることを 知っていますか。 |
| 5 | 8秒<br>/31秒 | | 「ねたて」とは、古謡「おもろそうし」に表された言葉で、古琉球の時代から |
| 6 | 6秒<br>/37秒 | | 「物事の根元」または「共同体の中心」、「まつりごとの中心地」を意味しています。 |
| 7 | 14秒<br>/51秒 | | 「コンベンションセンターを中核として、人・物・情報が行き交う宜野湾市は、沖縄県の中核的役割を担う都市として成長発展しており、 |
| 8 | 3秒<br>/54秒 | | まさに現代の「ねたて」であるといえます。 |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 9 | 6秒<br>/1分00秒 | | 「宜野湾市の人口は10万人を越え、面積は1,980（ha）、 |
| 10 | 4秒<br>/1分4秒 | | 米軍基地が市の面積のおよそ3分の1を占めています。 |
| 11 | 7秒<br>/1分11秒 | | 市内には商業施設や教育施設、また、トロピカルビーチや |
| 12 | 4秒<br>/1分15秒 | | はごろも伝説の舞台として有名な湧き水のムンヌカー（森の川）や |
| 13 | 5秒<br>/1分20秒 | | 普天満宮の境内にある普天満宮洞穴等の文化財も数多く残されています。 |
| 14 | 4秒<br>/1分24秒 | | そして・・市の中心部には普天間飛行場があります。 |
| 15 | 5秒<br>/1分29秒 | | しかし、この普天間飛行場、昔からあったわけではありません。 |
| 16 | 9秒<br>/1分38秒 | | では、普天間飛行場ができる前の宜野湾市は、いったいどんなところだったのか？ちょっと時間をさかのぼって見てみましょう。 |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 17 | 8秒<br>/1分46秒 | | 戦前、この地域は集落が点在するさとうきびや、さつまいも等の栽培が行われていた、のどかな農村地帯でした。 |
| 18 | 7秒<br>/1分53秒 | | 宜野湾村の中心部には宜野湾村役場や、宜野湾国民学校、並松(なんまち)街道がありました。 |
| 19 | 10秒<br>/2分3秒 |  | また西側には、県道や軽便鉄道がそれぞれ 南北に走っており、宜野湾村は交通や行政の重要な場所でもあったのです。 |
| 20 | 11秒<br>/2分14秒 | | なかでも並松((なんまち)街道の松並木は、人々からは「ジノーンナンマチ」の名で親しまれた国の天然記念物でしたが、2000本以上あった美しい 松並木は |
| 21 | 4秒<br>/2分18秒 | | 戦争や伐採によって失われてしまったのです。 |
| 22 | 3秒<br>/2分21秒 | | 普天間飛行場がなぜできたのか知っていますか？ |
| 23 | 7秒<br>/2分28秒 | | 普天間飛行場は1945年の沖縄戦の最中に建設されましたが、 |
| 24 | 5秒<br>/2分33秒 | | 戦後土地が接収され、住民は基地の 外へ追いやられました。 |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 25 | 3秒<br>/2分36秒 | | 当時の普天間飛行場は、現在のように |
| 26 | 5秒<br>/2分41秒 | | フェンスで囲まれておらず、自由に行き来することが出来ましたが、 |
| 27 | 3秒<br>/2分44秒 | | 1962年頃にフェンスがはりめぐらされました。 |
| 28 | 10秒<br>/2分54秒 | | 1978年に北谷町のハンビー飛行場が返還され、その基地機能が移り現在の普天間飛行場の運用となりました。 |
| 29 | 8秒<br>/3分02秒 | | では、普天間飛行場があるために生じている不便なこと・危険なことにはどんなものがあるでしょうか？ |
| 30 | 7秒<br>/3分11秒 | | まず、普天間飛行場は市の中央部に位置しているため、地域が分断され道路の迂回が必要になっていますね。 |
| 31 | 16秒<br>/3分27秒 | | 住宅地の上空を米軍機が飛行することで、落下物等の危険や、騒音被害も問題となっており、市民の生活に不便をきたしています。<br>早期返還と跡地の有効利用をはかることは、市の重要な課題となっています。 |
| 32 | 4秒<br>/3分31秒 | | 今後返還が予定されている普天間飛行場ですが、 |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 33 | 5秒<br>/3分36秒 | | 普天間飛行場が返還されたあとの宜野湾市はどのようなまちになってほしいと思いますか？ |
| 34 | 12秒<br>/3分48秒 | | 普天間飛行場が返還された後の跡地利用について、沖縄県と宜野湾市ではさまざまな検討を行っています。<br>これからその検討内容を少し紹介します。 |
| 35 | 4秒<br>/3分52秒 | | 1つ目は「みどりの中のまちづくり」です。 |
| 36 | 7秒<br>/3分59秒 | | 普天間飛行場は緑地も多く、豊富な地下水が普天間飛行場の地下を流れています。 |
| 37 | 10秒<br>/4分9秒 | | その水と地形、緑、それに基地内に残る遺跡、洞穴などの歴史を加えた4つの要素をつなぎあわせた |
| 38 | 3秒<br>/4分12秒 | | みどりの中のまちづくりを目指しています。 |
| 39 | 7秒<br>/4分19秒 | | また、普天間飛行場の中には、数多くの歴史文化資源が残されていることがこれまでの調査でわかっています。 |
| 40 | 9秒<br>/4分28秒 | | 南東側の緑地にある文化財やカーなどの資源は、返還後に公園の中に組み込まれ、守るだけではなく |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 41 | 15秒<br>/4分43秒 | | 憩いの場として活用していくことを検討しています。戦前から残る緑地の保全や、並松（なんまち）街道の復元、新たな緑地空間をつくることを検討しており、緑や文化の豊かなまちの実現を目指しています。 |
| 42 | 5秒<br>/4分48秒 | | 2つ目は「土地の利用計画について」です。 |
| 43 | 8秒<br>/4分56秒 | | 普天間飛行場跡地の可能性を踏まえて、「新たな沖縄の振興拠点」の実現に向けて検討しています。 |
| 44 | 3秒<br>/5分00秒 | | 【振興拠点ゾーン】 |
| 45 | 13秒<br>/5分13秒 | | 振興拠点ゾーンでは<br>3つの拠点形成をイメージしています。<br>「学術研究拠点」<br>「国際ビジネス拠点」<br>「広域行政機能バックアップ拠点」です。 |
| 46 | 5秒<br>/5分18秒 | | |
| 47 | 6秒<br>/5分23秒 | | 学術研究拠点では、西普天間住宅地区跡地などとつながりを持たせ、 |
| 48 | 3秒<br>/5分26秒 | | 専門人材を育成する学びの場や、様々なライフサイエンス分野を中心とした緑豊かな |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 49 | 9秒<br>/5分35秒 | | 学術研究拠点を整備し、アイデアが生まれるまちを目指しています。 |
| 50 | 7秒<br>/5分42秒 | | また国際ビジネス拠点では国際貿易、観光、医療などの産業が集まり、 |
| 51 | 5秒<br>/5分47秒 | | 業務オフィスやホテル、アミューズメント、ショッピングセンター、 |
| 52 | 7秒<br>/5分54秒 | | アリーナなどの集客施設や交流施設が立地する国際的なビジネス・交流拠点を目指しています。 |
| 53 | 9秒<br>/6分03秒 | | そして広域行政機能バックアップ拠点では、災害の危険性が比較的少ない高台にある立地を活かし、 |
| 54 | 8秒<br>/6分11秒 | | 防災公園とも連携した国・県レベルの広域行政機能のバックアップ拠点形成を目指しています。 |
| 55 | 4秒<br>/6分15秒 | | 【沖縄振興コア】 |
| 56 | 8秒<br>/6分23秒 | | 公園、緑地と都市的な土地利用が融合した大規模公園エリアの中核部分を |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 57 | 9秒<br>/6分32秒 | | 「沖縄振興コア」とし、振興拠点と連携した 様々な交流、活動、発信などの拠点としてイメージしています。 |
| 58 | 5秒<br>/6分37秒 | | 【都市拠点ゾーン】 |
| 59 | 9秒<br>/6分46秒 | | 多くの人が集まる施設や市民の新しい生活拠点となる市民センターや都心の利便性が高い都市型住宅など |
| 60 | 6秒<br>/6分52秒 | | 宜野湾市の中心としてふさわしい拠点となることを検討しています。 |
| 61 | 3秒<br>/6分55秒 | | 【居住ゾーン】 |
| 62 | 4秒<br>/6分59秒 | | 周辺市街地との一体的な |
| 63 | 3秒<br>/7分02秒 | | 生活圏の形成や、並松街道を |
| 64 | 6秒<br>/7分08秒 | | 新たなコミュニティのよりどころにし、跡地の東側を中心に配置するイメージです。 |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 65 | 16秒<br>/7分14秒 | | 災害に強く、快適に暮らせる安心・ 安全なまちを実現します。 |
| 66 | 5秒<br>/7分19秒 | | 3つ目は「道路や交通の整備」です。 |
| 67 | 3秒<br>/7分22秒 | | 中部縦貫道路や宜野湾横断道路、 |
| 68 | 6秒<br>/7分28秒 | | 鉄軌道を含む新たな公共交通の導入などが検討されています。 |
| 69 | 3秒<br>/7分31秒 | | 4つ目は「周辺の市街地との連携について」です。 |
| 70 | 4秒<br>/7分35秒 | | 普天間飛行場跡地と周辺市街地の境目に |
| 71 | 2秒<br>/7分37秒 | | 大きな公園があれば、 |
| 72 | 4秒<br>/7分41秒 | | 防災公園やイベントに活用することができ、 |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 73 | 4秒<br>/7分45秒 | | 周辺に住む人々との交流がうまれます。 |
| 74 | 3秒<br>/7分48秒 | | また、西普天間住宅地区跡地にできる |
| 75 | 4秒<br>/7分52秒 | | 沖縄健康医療拠点と連携したまちづくり<br>が検討されています。 |
| 76 | 5秒<br>/7分57秒 | | 普天間飛行場が返還され、新しい道路<br>やまちができるということは |
| 77 | 2秒<br>/7分59秒 | | 基地跡地だけでなく、 |
| 78 | 3秒<br>/8分02秒 | | 周辺市街地にも影響を及ぼすことから、 |
| 79 | 2秒<br>/8分04秒 | | 周辺に住んでいる地域の人々も |
| 80 | 3秒<br>/8分07秒 | | 一緒にまちづくりを考えていく必要があり<br>ます。 |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 81 | 7秒<br>/8分14秒 | | このように普天間飛行場が返還されたあとにできるまちは |
| 82 | 10秒<br>/8分24秒 | | ○快適な環境で働くことができ、また研究成果を世界に発信し、人材を育てる「アイデアが生まれるまち」 |
| 83 | 8秒<br>/8分32秒 | | ○自然や地域文化を感じることができる「緑や文化が豊かなまち」 |
| 84 | 7秒<br>/8分39秒 | | ○便利に生活ができ環境にやさしい「新しい交通手段があるまち」 |
| 85 | 11秒<br>/8分50秒 | | ○災害時も安心して生活ができ、だれでも 快適に過ごせる「安心・安全なまち」を目指しています。 |
| 86 | 7秒<br>/8分57秒 | | みんなは普天間飛行場が返還されたら、どんなまちになってほしいですか？ |
| 87 | 7秒<br>/9分05秒 | | 楽しいまち・働きたいまち・暮らしやすいまち・・・いろいろな意見があると思いますが |
| 88 | 5秒<br>/9分10秒 | | たったひとつ確かなことは魅力ある宜野湾市をつくるのは皆さんひとりひとりです。 |

| CUT | TIME | 映像 | ナレーション |
|---|---|---|---|
| 89 | 7秒<br>/9分17秒 | | さあ、これから未来の宜野湾市！<br>普天間飛行場の跡地利用について |
| 90 | 5秒<br>/9分22秒 | | みんなで一緒に考えていきましょう。 |

DVD 盤面

Blu-ray 盤面

パッケージ

## 3）学校への出前講座案内チラシ

出前講座

宜野湾市内小中高等学校の児童・生徒へ向けた

# 「みんなで考える未来のまち」

### 【目的】

宜野湾市は、市の中心に位置する普天間飛行場返還後のまちづくりについて、沖縄県と共同で跡地利用計画策定へ向けた調査を進めています。

普天間飛行場が返還され新たなまちができるまでには、期間を要すると考えられ新たなまちが動き出す将来においては、現在の児童・生徒が成人し、まちづくりの中心的な役割を担っていると考えられます。

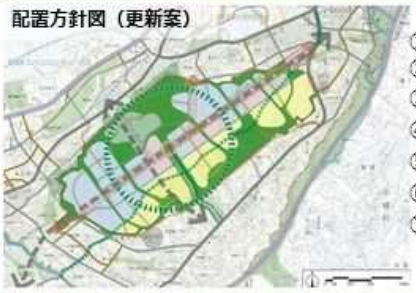
そのため、返還前の早い段階から市内の小中高等学校の児童・生徒に対し、普天間飛行場返還後のまちづくりに興味関心を持っていただき、共に考えることは宜野湾市にとって大変重要なことです。

そこで、宜野湾市の歴史や文化資源及び普天間飛行場の跡地利用計画策定へ向けた取組みについて、分かりやすく表現したプロモーションビデオ（ＰＶ）を活用し、共に学ぶ機会を設け跡地利用に関する周知と理解を深め、普天間飛行場返還後のまちづくりについて、関心を深めていただく取組みとして、出前講座を開催したいと考えております。

◆対象学年：小学５年生・中学２年生・高校２年生（想定）
◆時　　間：２時間程度
◆教　　科：総合学習・社会等
◆活動場所：体育館等（1学年が集まれる場所）
◆ね ら い ：普天間飛行場が返還されたあとの将来のまちをイメージし、自分自身が理想とする「住みたいまち」「働きたいまち」を実現するために必要なこと、また、実現するためには何をすれば良いのか考えてもらう。

### 【プロモーションビデオ（PV)内容構成】

配置方針図（更新案）



①はじめに
②ねたての都市(まち)ぎのわん
③普天間飛行場ができる前の宜野湾市（歴史）
④普天間飛行場ができた経緯・概要
⑤普天間飛行場があるために生じている不便・危険なこと
⑥みんなで考える未来のまち
⑦さいごに

《PVイメージキャラクター　ふてんにょ》

### 【出前講座の進め方】

**【学 ぶ】**

プロモーションビデオ（PV)を鑑賞し、宜野湾市の歴史や文化資源を知り、普天間飛行場返還後のまちづくりに必要なこととは何か考える。

**【話し合う】**

各グループに役割や設定を与え、働きたいまちや住みたいまち等、普天間飛行場返還後の、将来のまちの理想像について話し合ってもらう。
（イメージしやすいように参考イラストを配布）

（例）もし自分が○○○だったら・・・
①研究者・研究所で働く人
②遠くから訪れる人（観光客等）
③地区内や周辺に住む人
④学生（留学生等）
⑤大規模公園の園長（管理者）　　など

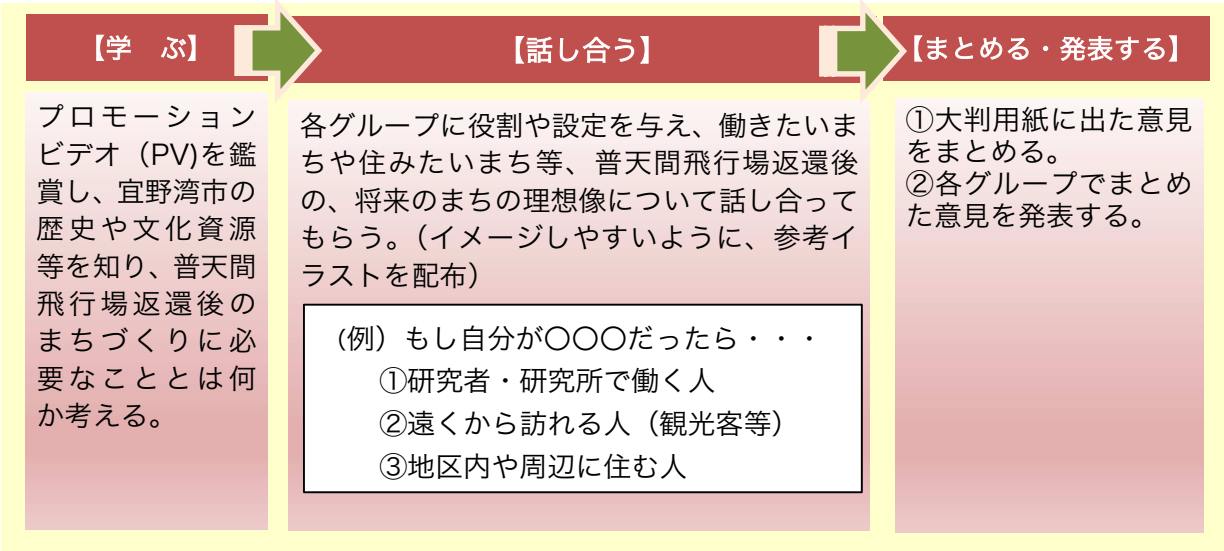
**【まとめる･発表する】**

①大判用紙に出た意見をまとめる。（付箋やマーカーを使用）
②各グループでまとめた意見を発表する。

◆話し合うポイント◆
・将来のまちでの一日の過ごし方
・イメージした一日の中で、必要となる機能は何か
・その実現のために必要なことは何か

### 4）出前講座の進め方

プロモーションビデオを鑑賞後に５名程度のグループに分かれ、各グループに役割や設定を与え普天間飛行場返還後の将来のまちの理想像について話し合ってもらい、その後、各グループでまとめた意見の発表を行う。




図：出前講座の進め方イメージ

### 5）取組み成果と今後の課題

**【取組み成果】**

**●将来のまちづくりを担う児童・生徒に向けた意向醸成活動のきっかけづくり**

・今後の普天間飛行場返還後のまちづくりについて考えてもらうためのきっかけづくりとして、小中高等学校の総合学習や社会科授業等の教材として活用できる PV を制作した。

**【今後の課題】**

**●複数の開催手法の検討**

・新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、次年度以降に出前講座を開催するにあたっては、対面方式以外の手法も検討し、学校側と調整する必要がある。

・対面方式以外の手法として、社会科や総合学習の時間において PV 鑑賞後にアンケートを実施する事が考えられるが、その際にはアンケート内容について児童・生徒が楽しみながら考えることができる内容となるよう、講座の進め方を工夫する必要がある。

**●カリキュラムへの確実な導入**

・学校側と早い時期にカリキュラム導入への調整を行い、確実な実施に繋げる必要がある。

## （4）情報誌「まち未来だより」の作成・発行

### 1）取組み概要

市内全世帯に対して跡地利用に関する情報や行政・NB ミーティングの取組みについて情報の提供を目的として、「まち未来だより」を作成し、発行した。

### 2）情報発信の内容

| 回　数 | 発送時期 | 主な掲載内容 |
|---|---|---|
| 第 12 号 | 令和３年３月 | ○報告事項<br>・まち歩き意見交換会の開催報告<br>・まちづくりカフェの開催報告 |

### 3）取組み成果と今後の課題

**【取組み成果】**

**●跡地利用計画に関する情報発信について**

・市民に対して、跡地利用に関する行政・NB ミーティングの取組みについての情報を発信する事ができた。

・紙面に二次元コードを掲載して掲載内容に対する意見を伺うようにする事で、今後の「まち未来だより」の紙面構成及び内容の改善点を把握できるようにした。

**【今後の課題】**

**●市民が跡地利用のまちづくりに興味関心を持つための工夫**

・今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、イベントの開催を中止する等、対話、対面形式による取組みを極力減らす形で業務を進める事となった。
今後も同様、対話、対面形式での取組みが減る事が想定されるため、市民への情報支援ツールとして「まち未来だより」の重要性は非常に高いと言える。紙面の見やすさ、分かりやすさについては更なる工夫を凝らし、より多くの市民に見ていただけるよう努める必要がある。

みんなで考えよう！宜野湾市の夢のあるまちづくり

# まち未来だより

vol.12

4月 2021 April. 発行

宜野湾市基地政策部まち未来課

「まち未来だより」では、普天間飛行場の跡地利用に関する取組みについてお伝えします。

## 新たなまちベース ミーティング 活動紹介

本組織（略称：NBミーティング）は、周辺市街地のまちづくりを含めた普天間飛行場の跡地利用を市民目線で考え、情報を発信し、基地返還後のまちづくりについて市民の興味・関心を高めるための活動を行なっています。

### 令和1、2年度の検討テーマ『周辺市街地から考える普天間飛行場跡地利用計画』

市民の関心事のひとつとして、現在住まいの地域が今後どのように変化していくのかということがあげられることから、「周辺市街地から考える普天間飛行場跡地利用計画」を検討テーマとして活動を行っています。

検討にあたっては、地域の「まちあるき」を行い、自分たちの地域と普天間飛行場の跡地がどのように関わっていくのかを確認し、また、意見交換を通して地域の課題や要望等の意見集約を行っています。また、普天間飛行場を含めた、市内にある湧泉や地下水脈から繋がる湧水について学び、普天間飛行場跡地のまちづくりにおける保全・活用の大切さについて学ぶことを目的に講話形式の「まちづくりカフェ」を開催しました。これらの活動を通して地域を再確認することで、跡地利用計画に反映すべき点を地域としてまとめていきます。

## 地域のまちあるき

普天間飛行場跡地利用について関心をもっていただくため、市街地を中心とした将来構想図（図1）と普天間飛行場を中心とした跡利用配置方針図（図2）を活用し、基地返還後の跡地利用と地域の関わりについて見える化し、まちあるきを行いました。これまでに4地区の「まちあるき」を行い、多くの方に参加頂きました。

将来構想図（図1）

出典：宜野湾市都市計画マスタープラン

普天間飛行場跡地の配置方針図（図2）

出典：全体計画の中間とりまとめ

## まちづくりカフェ 講話

### 普天間飛行場内や周辺市街地の洞窟について

普天間飛行場内や周辺市街地の地下には洞窟や地下水などの資源が豊富にあります。普天間飛行場を含めた市内にある洞窟や地下水脈から繋がる湧水について学び、普天間飛行場跡地のまちづくりにおける保全・活用の必要性について考えるキッカケづくりとして普天満宮の新垣宮司より講話をいただき意見交換を行いました。

開催日：令和2年12月5日（土）
会　場：宜野湾ベイサイド情報センター（1階 Gwave Cafe）
講話内容（一部）：

- 沖縄には約800箇所の洞窟があり、そのうちの約600箇所は調査された洞窟である。宜野湾市は洞窟の密度が高く、小さな洞窟も含めると約140箇所以上の洞窟がある。
- 宜野湾市は高いところで海抜が120メートルほどあり、雨が降ると、硬度が高い粘土層（不透水性）の地域から、北西側へ水が流れ、石灰岩地域で地下に浸透し、地下を通って国道58号沿い（大山区）のいたるところで湧き出ている。
- 普天間飛行場の東側にマーカーガマから基地の中にあるアジミー、ケレンケレンガマ、基地の西側（大山区と伊佐区の境目）にあるオーグムヤーの縁で洞窟がある。滑走路上は厚いアスファルトで覆われているので、雨水は地下に浸透しないが、アジミーから雨水が地下に流れ、オーグムヤー周辺で湧水となり出現する。

講師：普天満宮　新垣宮司

会場のようす

会場のようす

### 「まち未来だより」に対する感想、ご意見をお聞かせください

- より分かりやすい情報誌にするため、「まち未来だより」に対する皆様のご感想、ご意見をおきかせください。
- 右記2次元コードまたはURLより回答フォームへアクセスしてご回答ください。

▶2次元コードでアクセス

▶URLを直接入力

https://forms.gle/5s4SoPirJYas27ne7


【「まち未来だより」発行元】
宜野湾市役所　基地政策部　まち未来課
〒901-2710　沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号
電話　098-893-4401（直通）FAX　098-892-7022


普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報誌発行口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。情報誌や湧泉地州に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。

図：「まち未来だより」vol.12（表面）

図：「まち未来だより」vol.12（中面）

## 2-4．地権者・市民への合意形成・情報発信に関する取組み

取組み方針①：地権者、市民誰もが宜野湾市のまちづくりを学べ、考える事のできる場をつくる。

取組み方針②：跡地利用のまちづくりにおいて大切な事は何かを学び、まちづくりへの参画を促すための場をつくる。

### （1）まちづくり講座の企画

#### 1）目的

市民、地権者及び、若手の会、NB ミーティングに対して、学習機会の提供・まちづくりへの参画を促す事を目的とする。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みて、開催は次年度とする。

**①普天間飛行場跡地利用に関する学習の機会を提供する**

今年度、若手の会では、振興拠点ゾーンの機能像と空間像について、地権者及びまちづくりの視点を踏まえ検討を進めている。NB ミーティングでは、現在のまちがどのように変化していくのかを紐解き、跡地利用に向けて地域の理解を深めている。まちづくり講座において、こうした活動と関連性を持ちつつ、専門家の講義を聴く事で、参加者が主体的に、跡地利用のあり方、将来像を考えるきっかけを作る。

**②跡地利用に対する関心を高め、合意形成活動への積極的参加を促す**

まちづくりを学ぶ事で、跡地利用への関心を高め、地権者及び市民１人１人が主体的に行動する「まちづくり人材」の育成に繋げる。

#### 2）対象者

市民、学生、地権者及び若手の会、NB ミーティングの会員とする。特に、普天間飛行場返還後のまちづくりを見据えて、大学生等将来のまちづくりの担い手となる若い世代を対象とする。

#### 3）テーマ

普天間飛行場跡地利用を考えるまちづくり座談会

～エリア価値を高めるまちづくりのすすめ～

4）開催方法

**「オンライン配信（2 時間半程度）　＋　公開収録」**

新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、まちづくり講座は原則オンライン講座とする。オンライン配信には YouTube 等の動画配信サービスを利用する。

また、オンラインでの視聴が困難な対象者（受講者）等への対応として、講座の収録を「公開収録」とし、コロナ対策（人数制限、広い会場での一定距離の確保、アルコール消毒、マスクの着用、検温等）を実施した上で、撮影場所での受講を可能とする。なお、公開収録への参加は事前申し込みとする。

5）周知方法

オンラインでの閲覧を前提とし、広報誌、SNS での発信及び自治会、大学への案内により周知を図る。

まちづくり講座案内チラシ

## 6）開催日程（当初予定であり、開催は令和３年度に延期）

| 開催日時 | 内容 | 会場 |
|---|---|---|
| 2月18日（木）<br>14：00～17：00 | 普天間飛行場跡地利用を考えるまちづくり座談会<br>～エリア価値を高めるまちづくりのすすめ～ | 沖縄コンベンションセンター<br>B棟B5～B7室 |
| 3月1日（月） | | YouTube上で動画を公開 |

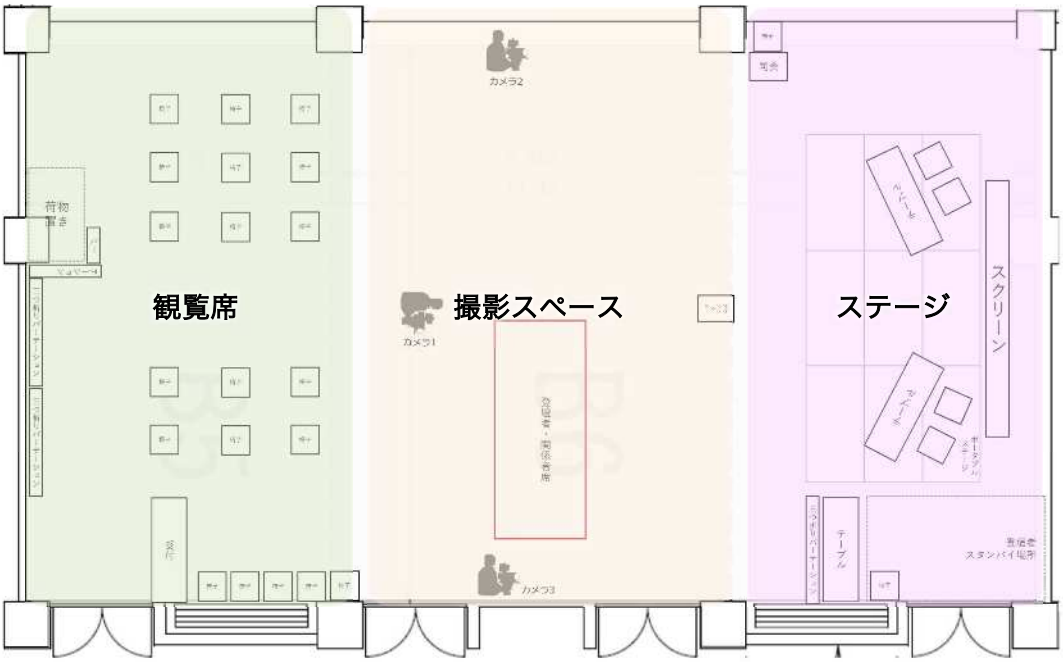
## 7）開催場所

撮影場所：沖縄コンベンションセンターB棟Ｂ５～Ｂ７室

配　　信：YouTube

## 8）公開収録について

複数台のカメラを設置し、パネリストや司会、出演者及びスクリーン、観覧席を定点にて撮影。撮影した動画素材を、公開映像として編集・加工を行う。




会場配置イメージ

9）出演者

**①プレゼンテーター**

・宜野湾市基地政策部まち未来課
・若手の会
・NB ミーティング
・比嘉　朝旬（ちょうじゅん）氏（一般社団法人 北谷ツーリズムデザイン・ラボ代表理事）

**②パネリスト**

・奥原　悟氏（北谷町 デポアイランド通り会会長）
・植松　宏之氏（一般社団法人　大阪梅田エリアマネジメント代表理事　兼　大阪大学コミュニケーションデザインセンセンター　招へい教授）
・宜野湾市基地政策部

**③コーディネーター**

10）講座内容

これまでの合意形成活動の取組を踏まえて、講座におけるパネリストの議論から今後の活動への示唆を得られるよう、以下の内容を予定する。

**当日の流れ**

**【セッション１／オープニング】**

（１）開会（コーディネーター、司会進行）
（２）あいさつ：まちづくり講座の趣旨説明等

**【セッション２／イントロダクション】**

（１）プレゼンテーション：普天間飛行場跡地利用のまちづくりについての紹介
①普天間飛行場の返還と跡地利用に向けた検討内容の概要
プレゼンテーター：宜野湾市基地政策部まち未来課
②若手の会のこれまでの取組みとまちづくりに向けた考え方
プレゼンテーター：若手の会より選出
③ＮＢミーティングのこれまでの取組み
プレゼンテーター：ＮＢミーティングより選出

（２）トーク１

セッション３に繋がる「普天間飛行場跡地利用のまちづくりの課題意識」を引き出す。

◆課題意識①：長期的な視点でどうまちづくりを進めるか？今できる事は？
◆課題意識②：これからのまちづくりに必要な視点は？

**【セッション３／プレゼンテーション】**

（１）登壇者紹介：司会進行役によるパネリストのプロフィール紹介

（２）プレゼンテーション

①北谷デポアイランドのまちづくり

(一社)北谷ツーリズムデザイン・ラボ　　比嘉　代表理事

②梅田エリアのまちづくり

(一社)大阪梅田エリアマネジメント　　植松　代表理事

～プレゼンテーションの主なテーマ・内容～

● **地区の概要**

⇒ここ 10 年間の都市再生事業の進捗と今後の進展（ハード整備中心）

● **まちづくりの経緯（エリアの価値をどのように高めてきたか）**

⇒梅田地区の 100 年の歴史

西日本経済の中心地として、集客力を高める活動に取り組む

**①成長プロセスとエリア価値のマネジメントの関係性**

長期的な視点でまちづくりを行う中で、社会動向や消費者ニーズ、企業ニーズは変化する。こうした変化に柔軟に対応し、高い不動産価値を持続できるまちのつくり方、あり方を明らかにし、普天間飛行場跡地を検討する上で、重要な考え方への示唆を得る。

**②地域性をどのように取り入れたか**

普天間飛行場跡地利用を検討する上で、オリジナリティ、地域性をどう捉えて、どう活かすべきか、その効果について明らかにする。

**③関わる人や事業者のモチベーションの高め方（経済的論理、達成感、役割・責任等）**

まちづくりが長期にわたる中で、どのように関係者のモチベーションを高め、まちづくりに積極的に関わる人や事業者を増やすかに対する示唆を得る。

**【セッション４／ディスカッション】**

コーディネーター、パネリストによるトーク。

コーディネーターから各パネリストへ質問形式で、セッション３のプレゼンテーション内容をきっかけとした話の掘り下げ、普天間への気づきの内容を伺っていく。

**【セッション５／クロージング】**

クロージングトーク：コーディネーターより、セッション１～４を通じたまとめ

## 11）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

**●「エリア価値を高めるまちづくり」をテーマとした講座開催の企画立案**

・不動産価値の高いまちづくりを進めてきた実績のあるパネリストによる講座開催までの準備ができた事により、まち全体の価値を高める空間の創出や、エリアマネジメント組織による管理・運営方法の必要性について、知識の習得を図る準備が整った。

【今後の課題】

・次年度の開催に向けた準備を今後進めていく必要があるが、講座の周知方法については改めて検討し、より多くの地権者、市民に本講座を視聴してもらう事が望ましい。

## 2-5．普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会

取組み方針①：合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施する。

取組み方針②：若手の会、NB ミーティング両組織が活動を進めていく中での課題等について検討し情報共有を図ると共に、各々の組織にフィードバックさせる事により、着実な合意形成活動に繋げていく。

### （1）普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会の企画・開催

#### 1）開催概要

本業務の進捗状況の報告や活動成果の検証等を行い、着実な合意形成活動に繋げていくために、「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」を計２回開催した。

第１回では年間の取組み内容について意見をいただいた後、第２回で今年度の取組み結果を踏まえた課題、今後の意向醸成活動を行う上での留意点や取組み内容等について検討を行った。

## ２）第１回実施概要及び議事要旨

### ○実施概要

①日　　時　：令和２年７月 29 日（水）　17：30～19：10

②会　　場　：宜野湾市役所別館３階第一会議室

③出 席 者　：石原　　昌家　　沖縄国際大学　名誉教授【会長】
（敬称略）　又吉　　信一　　宜野湾市軍用地等地主会　会長
又吉　　真由美　宜野湾市軍用地等地主会　事務局長
宮城　　武　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会
佐藤　　努　　ねたてのまちベースミーティング　会長
呉屋　　勝広　　ねたてのまちベースミーティング　副会長
多和田　功　　宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長
立山　　善宏　　専門員（昭和株式会社）

《事務局》
東江　　信治　　宜野湾市基地政策部まち未来課　係長
髙良　　夏美　　宜野湾市基地政策部まち未来課
青野、石井、崎山（昭和株式会社）

④式次第　　：１．開会
２．令和２年度懇話会について
３．議題
令和２年度の取組みについて
４．閉会

⑤配布資料　：・令和２年度　第１回 普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第
・普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会設置要綱及び名簿
・資料①：関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務【普天間飛行場】
令和２年度の取組みについて

〇意見概要

| | |
|---|---|
| | 上江洲教授が急遽欠席となったため、議題に対する意見メモを事前に頂き、議題に入る前に事務局からメモ内容の説明を行った。 |
| | コロナ禍におけるオンライン会議への取組みについて |
| 石原<br>（沖縄国際大学　名誉教授） | 上江洲教授から提案のあったコロナ禍における各種取組みについて、事務局で Zoom を活用した懇話会の運営は可能か。 |
| 事務局 | 若手の会では７月から Zoom を活用して定例会を開催しており、ライブ配信で若手の会メンバーは視聴できる。同様の形で対応可能と考えている。 |
| 立山<br>（専門員） | パソコンやスマートフォンで設定を行う事で、Zoom でのオンライン会議は可能となる。設定に不安のある方については事務局で設定する事も可能である。 |
| 事務局 | 各人でパソコンやスマートフォンの設定が異なるため、簡単なマニュアルを作成し配布する事は可能である。マニュアルでは不安という方に対しては、事務局で設定する事も可能である。 |
| | 今年度の取組みの実施方針について |
| 佐藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 資料①の P1 について、目指すイメージの中で「まちづくりに関心ある地権者、市民」を増やす事は良い事であるが、「若手の会、ＮＢミーティング」と「まちづくりに関心ある地権者、市民」との関係はどう考えているか。 |
| 事務局 | 若手の会、NB ミーティングが組織の強化を図りながら情報を発信する中で、例えばイベントやまち歩きなど対外的な活動を通して声掛けを行い、少しずつでも関係性を強めていければと考えている。 |
| | 有識者検討会議への発信内容について |
| 佐藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 若手の会、NB ミーティングの定例会で取りまとめた成果の発信が翌年度となっているのはなぜか。取りまとめた結果を翌年度に発信するのではなく、検討途中の段階をリアルタイムで発信する方が、跡地利用計画の計画内容に反映されやすいのではないか。 |
| 事務局 | 各組織で検討を進めている内容がまとまるまでには１年必要と考えている。取りまとめた結果を発信するため、有識者検討会議の開催時期を考慮して翌年度と想定した。 |

若手の会について

宮城（若手の会）：若手の会への参加者を増やす取組みについて、地主会にお願いしたい。地主会の会合で配布している若手の会定例会議事要旨に、定例会参加者の居住している字名も記載していただけないか。各字の役員に参加状況を報告する事で、役員に危機感を持たせたい。

又吉（地主会事務局）：議事要旨について、参加者氏名は消した形で配布している。

宮城（若手の会）：氏名は消して頂いて構わないが、字毎の参加人数だけでも地主会の会合で報告頂きたい。

又吉（地主会会長）：字毎の参加人数を公表しても人数の増加には繋がらないのではないか。

宮城（若手の会）：地主会が地料明細を送付する際に、若手の会の周知案内を同封してはどうか。あるいは、地料明細の案内文に、若手の会の活動案内を加筆してはどうか。

又吉（地主会事務局）：送付する封筒についてはサイズが決まっており、また、発送スケジュールについても余裕がないため１枚追加する事は難しい。案内文への加筆については、地主会で要調整となる。

地権者意見交換会について

立山（専門員）：平日昼間の開催は良いと考える。開催するにあたっては、過去に実施した意見交換会の日程毎の参加人数を整理する事で、参加人数が多い日時、曜日の傾向をある程度掴む事は可能ではないか。また、参加者を増やすためには地主会や若手の会からの呼びかけが必要である。
開催当日は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況の懸念もあるので、今回は小グループ形式での意見交換会ではなく、スクール形式で開催してもよいのではないか。（飛沫拡散防止のため）

宮城（若手の会）：会場に人数制限を設けるなど、密にならない対策が必要である。最大何名の会場を想定しているのか。

立山（専門員）：会場の大きさにもよるため、何人という事は言えない。

事務局：現時点で具体的な人数を挙げる事は難しいが、ソーシャルディスタンスを

| | |
|---|---|
| | 考慮すると 50 人未満と考えている。開催する場合、工夫が必要である。仮に開催しない場合において、地権者から意見を頂くための有効な方法についてお考えがあれば伺いたい。 |
| 宮城<br>（若手の会） | 例えば事前に参加希望日時を回答頂くようにし、回答があった方に対しては参加者数が分散するよう事務局が調整する事で、密を避けた開催ができるのではないか。 |
| 事務局 | 回答がある方はさほど多くないと考えられるため、事務局から直接電話で調整するなどのやり取りは可能と考える。検討したい。 |
| 又吉<br>（地主会会長） | 高齢者は新型コロナウイルス感染症を恐れている。開催しない場合の地権者への説明方法など、現時点から検討しておく必要がある。 |
| 事務局 | 郵送で若手の会の検討結果を発送し、アンケートを同封して返信して頂くなどの方法は考えているが、今後の検討事項である。 |
| | NB ミーティングについて |
| 佐藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 今年度の活動目標について、メンバーの増員を図るとあるが、具体的にどのような取組みを想定しているのか。例えば宜野湾市の LINE は登録者数 2,700 人以上と多いため、NB ミーティングの取組み内容を随時発信する事はできないか。市民と直接対話して参加を促すなど従来の方法だけではなく、ICT の活用も考えてはどうか。<br>また、定例会に参加しなくても気軽に意見を発信する方法として、福島県郡山市の「まちづくりネットモニター」の取組みが参考になる。まちづくりに興味のある方がモニターとして登録されているため、まちづくりに関する意見を募集すると回答率が 90%以上という状況である。このような仕組みを宜野湾市においても作り上げる事はできないかと考えている。 |
| 事務局 | 普天間飛行場跡地の意向醸成活動に向けた市の取組みとして、例えば NB ミーティングのＳＮＳアカウント等を、宜野湾市のＳＮＳでシェアする事は可能と考えられるが、NB ミーティングの取組み内容を宜野湾市のＳＮＳから直接発信する事は難しい。 |
| 佐藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 信頼度を考えると、市からの配信が良いと考える。 |
| 多和田<br>（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長） | 発信のきっかけとしては、宜野湾市から発信する事が信頼度の面からも望ましいが、NB ミーティングだけではなく他の組織からも同様の対応を求められた場合を考えると、直接発信は難しい。 |

| | |
|---|---|
| 佐　　藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 有識者検討会議の内容を市民に分かりやすく伝えていく必要があると考える。NB ミーティングの取組み内容は会員の考えに委ねており、そのような取組みをしたいという意見が挙がらないため有識者検討会議の内容を易しく説明する取組みは行っていないが、できれば行ったほうが良いと考えている。<br>有識者検討会議で進められている跡地利用計画策定までの流れと、NB ミーティングとの流れが徐々に離れてしまう懸念がある。<br>有識者検討会議の内容は専門的で難しいため、市民が分かるように易しく説明する事が確実な合意形成に繋がる。<br>ＮＢミーティングは、有識者検討会議で進められている検討内容を分かりやすく、部分的にでもよいので市民に伝える事が重要な役割と考える。 |
| 多　和　田<br>（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長） | 跡地利用計画策定調査業務の内容については、若手の会及びＮＢミーティングに対して説明を行っているが、平易な説明で一般の地権者、市民に対して伝える事は重要であるが、中々難しいという課題もある。 |
| 佐　　藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 若手の会は、定例会で検討した意見がまとめられていて素晴らしいと思う。地元ならではの意見も出ている。会としての考えをまとめるために、専門的な会議の内容を少しでも理解しようと努力されている。ＮＢミーティングについても若手の会と同様、少しでも良いので跡地利用計画との接点がないと、目標である合意形成から確実に離れていくと考える。 |
| | 若手の会とＮＢミーティングの意見交換会について |
| 佐　　藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 若手の会、ＮＢミーティングの取組みを進めていく中で、活動に興味のある市民の層が拡大する可能性があるため、提案した意見は反映して頂きたいと考える。<br>NB ミーティングと若手の会との意見交換会について以前提案したが、本日の資料に載っていないのはなぜか。 |
| 事　務　局 | 若手の会に対して開催するかどうか確認中であるため、記載していない。 |
| 宮　　城<br>（若手の会） | ７月の若手の会定例会で事務局からその話があったが、皆あまり興味を示していなかった。あまり NB ミーティングとの意見交換に関心がないように感じた。 |
| 石　　原<br>（沖縄国際大学　名誉教授） | 関心がない原因は何なのか。 |
| 宮　　城<br>（若手の会） | 若手の会は発足して 18 年になり、定例会が活動の基本となっているが定例会参加者の人数が減っている状況である。参加人数が平均７～８名の中、 |

| | |
|---|---|
| | NB ミーティングとの意見交換会の場を持つのは難しいと感じる。 |
| | 市内小中高等学校への出前講座について |
| 佐藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 開催回数は１回のみか。 |
| 事務局 | 日程等調整して、各校まとめて１回を想定している。オンラインでの開催など ICT を活用した対応ができるのではと考えているが、学校側との調整はこれからである。 |
| 佐藤<br>（ＮＢミーティング会長） | プロモーションビデオ（PV）を制作して小中高等学校に配布するとあるが、小学生と高校生では理解レベルが異なるため、話す内容や言葉など工夫して数種類作成する必要があるのではないか。 |
| 事務局 | PV の制作は１種類であり、中学生向けの内容を想定している。言葉の表現を工夫し、小学生でも分かるような PV を制作する予定である。 |
| | 情報誌について |
| 宮城<br>（若手の会） | 地権者支援情報誌「ふるさと」について、どの程度の人数が内容をしっかり読んでいるのか気になる。 |
| 立山<br>（専門員） | 過去に地権者アンケートを実施した際、約７割の方が「ふるさと」を読んでいると回答があったため、情報発信の手段としては有効である。しかし、地権者や市民がどのような情報提供を望んでいるのかが重要となる。<br>新型コロナウイルス感染症の影響もあるため、情報誌を通して意見を収集する工夫も今後必要になると考える。 |
| 事務局 | 今年度、「ふるさと」及び「まち未来だより」については、紙面に QR コードを掲載して読みやすさや興味ある分野についてなどの簡単なアンケートを行う予定である。 |
| | まちづくり講座について |
| 宮城<br>（若手の会） | まちづくり講座について、現テーマでも良いと思うが、哲学を講座テーマとしても良いのではないか。まちづくりとは直接関係ないが、ゆくゆくは自身の生活や生き方など巡り巡ってくるものである。 |
| 事務局 | まちづくり講座の内容については、事務局の方で今後検討したい。 |

| | |
|---|---|
| | その他 |
| 佐　　藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 懇話会の場で提案したい事項がある場合、議題以外の内容について提案を行う事は可能か。可能な場合、提案した事項の実施可否について、最終的な判断は誰が行うのか。 |
| 事　務　局 | 取組み内容について、基本は本日ご説明させて頂いた内容で進めていきたい。その中で、取組みの方法やイベント内容の提案など色々なご意見を頂戴できればと考えている。提案頂いた内容は、若手の会及び NB ミーティングに関わる事であれば両組織に報告し、それぞれの会で検討を進めて頂く事になる。予算面の都合等もあるため、最終的な判断は事務局が行う。 |
| 又　　吉<br>（地主会会長） | 各種会合の開催については、コロナ禍の中で現実に厳しい状況である事を踏まえて進めて頂きたい。<br>地主会の役員の多くはスマートフォンを所有していないため、ＳＮＳでの情報発信等については内容を確認する事ができず、返信も難しい。<br>保健所から自治会に対し、「10 名以上が集まって会議を開催してはいけない」と指導があった。会合の場を持つ場合においても、検温及び氏名の記入を行わないと開催できない。<br>ソーシャルディスタンスを守り、換気を行うなど対策を講じたとしても市民の参加を得る事は難しいと考える。事務局としてどう対応を考えているのか。 |
| 事　務　局 | 事務局としても認識している。懸念事項としては、仮に地権者意見交換会を開催しない場合はどのように効果的な意見の集約ができるのかという点である。また、先進地視察会に関しては、Zoom を活用した視察候補地の講師とオンラインでの勉強会を設けるなど、先進地事例の知識習得を図る事は可能であると考えている。引き続き検討していきたい。 |
| 又　　吉<br>（地主会会長） | 保健所から、短時間で会議は終わらせるように指導があった。あいさつや議題以外の項目は割愛するなど、短時間で会議を終わらせるよう緊張感を持っていただきたい。 |
| 事　務　局 | 承知した。 |

## ３）第２回実施概要及び議事要旨

### ○実施概要

①日　　時　：令和３年３月３日（水）　18：00～19：15

②会　　場　：宜野湾市役所別館３階第一会議室

③出 席 者　：石原　　昌家　　沖縄国際大学　名誉教授【会長】
（敬称略）　上江洲　純子　　沖縄国際大学　教授【副会長】
又吉　　信一　　宜野湾市軍用地等地主会　会長
又吉　　真由美　宜野湾市軍用地等地主会　事務局長
大川　　正彦　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会　会長
呉屋　　力　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会　副会長
宮城　　武　　普天間飛行場の跡地を考える若手の会
佐藤　　努　　ねたてのまちベースミーティング　会長
呉屋　　勝広　　ねたてのまちベースミーティング　副会長
多和田　功　　宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長
立山　　善宏　　専門員（昭和株式会社）

《事務局》
東江　　信治　　宜野湾市基地政策部まち未来課　係長
髙良　　夏美　　宜野湾市基地政策部まち未来課
青野、石井、崎山（昭和株式会社）

④式次第　　：１．開会
２．報告
第１回懇話会の概要
３．議題
令和２年度活動報告と今後の取組みに向けて
４．閉会

⑤配布資料　：・令和２年度　第２回 普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会 次第
・資料①：第１回普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会議事録
・資料②：令和２年度活動報告
・資料③：今年度の課題と今後の取組みに向けて
・参考資料①：各活動報告
・参考資料②：視察概要

〇意見概要

| | |
|---|---|
| | 若手の会の課題と今後の取組みについて |
| 宮城<br>（若手の会） | 参加者が少ない中、分科化自体できないと考える。<br>また、次年度は若手の会発足 20 周年であるため、若手の会既存メンバーの掘り起し、新たなメンバーの参加の期間として一年かけて取り組んでいきたいと考えている。 |
| 石原<br>（沖縄国際大学　名誉教授） | 本日の新聞記事に、1995 年に普天間高等学校の生徒が制作した普天間飛行場跡地利用の大型模型の引取り先がないという記事が掲載されていた。この方々は当時、情熱を込めて模型を制作したと考えられる。また、模型の制作に携わった方々の中には、地権者の子息や宜野湾市民もいると考えられることから、当時の担任と連絡を取り、新メンバーの獲得に繋げることが良いのではないか。新メンバー獲得の手段として検討いただければと考える。 |
| 事務局 | 次年度以降、当時の担任への声掛け含め検討していければと考える。 |
| 大川<br>（若手の会会長） | この記事には、行き場がなくなり廃棄の危機と書かれており、私自身もショックであった。そのため私も先程の意見と同感であり、若手の会新規メンバー獲得の手段として考えたい。<br>模型の置き場については、行政または地主会に検討いただき、無理ならば私の家の庭にでも置いておきたいと考えている。 |
| 立山<br>（専門員） | これまでの意見に私も賛成である。若手の会発足 20 周年を機に体制を立て直すことが良いと考えている。三役が一度に世代交代を行うと、次の世代への引継ぎが上手くいかないと考えられるため、２年程時間をかけて新体制に移行した方が良いのではないか。 |
| 石原<br>（沖縄国際大学　名誉教授） | 現三役の交代がなされたとしても、若手の会メンバーから外れるのではなく顧問として若手の会に残り、知識やノウハウを次の世代に引き継いでいただきたい。 |
| 事務局 | 世代交代の話については、次年度以降も継続して若手の会で議論いただきたいと考える。 |
| 上江洲<br>（沖縄国際大学教授） | 定例会への参加人数を増やすという点について、先程から話題に上がっている模型制作を行った若者達の「その後を追う」事を若手の会発足 20 周年の企画として新規メンバーの獲得を進めると同時に、活動から遠のいた既存メンバーの足を向けやすくする企画として位置づける事は、次年度で |

| | |
|---|---|
| | きる取組みではないかと感じた。 |
| 又吉<br>（地主会会長） | なぜ宜野湾市が模型を受け取る事ができなかったのか、残念である。<br>若手の会の新規メンバー獲得について、模型制作に関わった方々から人材獲得に繋げていくという話があったが、現若手の会のメンバー規程には、各支部からの推薦により構成するという条件があるため、規程を変更する必要がある。誰でもいい訳ではない。地権者なのか市内在住なのかも含め、確認も必要である。 |
| 多和田<br>（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長） | 模型の経緯について説明したい。模型は現在首里高校にあるが、校舎改築に伴い置き場がなくなるため、市の施設に常設展示できないかという依頼が２月中旬頃にあり、市としても関係部署や関係機関に打診した上で短期間の展示ならば可能と回答した所、検討すると先方から返事があり、本日の新聞記事のような結果となっている。 |
| | 地権者意見交換会及び地権者意見交換会に代わるアンケート調査について |
| 宮城<br>（若手の会） | これまで対話形式による意見交換会を開催した時は、4 日間で延べ 100 名程度の参加という状況であった。それを考えると今回は回収数 489 件、回収率 13.3%と低いようにも見えるが、約 500 名の地権者が意見を寄せた事は大きいと考えられる。<br>ただ、対話形式の方が、より深く意見を伺える。細かな意見を書かれている方もいらっしゃると思うため、そういった細かな意見も「ふるさと」に掲載いただきたい。 |
| 事務局 | 確かに対面の方が細かな話も伺えるため、今いただいたご意見を踏まえて次年度以降どのように進めていけば良いか検討していきたい。 |
| 佐藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 「アンケートに何を求めるのか」ではないか。跡地利用計画に対する意見なのか、意向醸成活動の進め方に対する意見なのか、跡地利用計画に興味を持ち続けてもらうためのアンケートなのか、明確にした方が答えやすい。<br>次に、分析が単純集計のみである事が気になる。クロス集計でより分析を深める方が次の展開に繋がる。例えば「さらに検討が必要と思った点」について、「みどりの空間イメージ」という選択肢だけが 7.6%と少ない回答率であった事から、内容が理解されていない、あるいは気に留めていないという事が考えられる。<br>「良いと思った点」、「さらに検討が必要と思った点」、相反する事項を尋ねているため、多い回答と少ない回答がそれぞれ対比されて表れるはずだが、そのような傾向になっていない事から、内容が理解されていないのではないかというように、深く分析した方が良いと考える。 |

| | |
|---|---|
| 事務局 | 今回のアンケートは、いかに地権者が回答しやすくするかを考えて作成し、属性等も敢えて尋ねなかった経緯がある。今いただいたご意見については、今後地権者意見交換会においてアンケート調査を併用して実施する場合の留意点として、参考とさせていただく。<br>また、県外在住者のためのオンライン会議については、数百名の県外の地権者が一斉にオンライン会議に参加する事も可能性として考えられる事から、実施する事は難しいのではないかと考えている。 |
| 宮城<br>（若手の会） | アンケートの設問の中に、今後の地権者意見交換会を開催する会場に関する設問があり、私は小中学校の体育館と記入した。小中学校は市立のため借りやすいのではないかと考えているがいかがか。 |
| 多和田<br>（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長） | 以前確認した所、学校に関係ある取組み等に会場を提供するという回答であった。しかし、その地域内で人を集めたい時に、学校以外に集まる事のできる場所がない場合は貸出も可能との事であった。 |
| 上江洲<br>（沖縄国際大学教授） | アンケートに回答して返送するというモチベーションの維持が難しいと考えられる。そのため回収日を設けて会場を設営し、徒歩圏内で提出できるようにしておき、その場で記入できるスペースを設けておくと回収率も上がると考えられる。NB ミーティングの若者を巻き込む取組みとも関連するが、そのような場所に若者のボランティアを配置できるならば、若者の関心を引く事ができるのではないかと感じた。<br>次に、県外在住者の対応については、web フォームがあると意見を提出しやすいと考える。大人数参加の web 意見交換会については、ZOOM ミーティングではなく、ZOOM ウェビナーを活用すれば大人数の対応も可能と考える。 |
| | NB ミーティングの課題と今後の取組みについて |
| 佐藤<br>（ＮＢミーティング会長） | 私は、参加人数だけ増やせば良いのではなく、活動自体を充実させなければ意味がないと考えている。以前メンバーに、NB ミーティング参加のモチベーションは何かと尋ねた事があったが、「役に立つ」、「新たな知識を得る」、「計画に反映される」という「個人としての達成感」と「会としての達成感」が重要であるという事であった。いかにモチベーションを維持するかという事に対するフォローが必要と考えている。<br>メンバーは非常に積極的に活動していると私は考えている。そこで、行政側に対する協力依頼として、LINE を活用した広報、有識者検討会議資料の共有や情報提供の制限解除、まちあるき実施地区へのフィードバック、支援内容の柔軟化等をお願いしたい。<br>次に、昨年度の地域からの意見が跡地利用計画の検討に反映されているか |

どうか確認したが、ほとんど反映されていない状況である。地域の意見を跡地利用計画の検討サイドに伝えると共に、計画の検討状況を地域に伝える事が NB ミーティングの存続意義であるが、それが反映されていない。また、普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書内の「合意形成や情報発信に関する取組み」の中に、NB ミーティングの活動が記載されておらず、残念である。このような点は、会のモチベーションに非常に影響するものと考えている。
次年度の新たな取組みの可能性として、琉球大学の学生が最近定例会に参加するようになり、その学生経由で、大学の講義に参加できる可能性がでてきている。県や市の懸念事項として、若者の関心が非常に低い事であると以前伺った記憶があるが、琉球大学との連携が１つの切り口になると考えている。
最後に、これまでにまち歩きを実施した地区がどのような情報に興味があるのか自治会長に伺った所、地区に隣接する部分の跡地利用計画に興味があるとの回答であった。情報提供の手段については、ポスターやチラシ、説明会など各地区で異なっており、次年度に何か取組みができるのではないかと考えている。「計画内容を知らない」から「各地区の自治会長や主要な方々への計画内容の浸透」は、NB ミーティングの取組みの大きなジャンプに繋がるものと考えている。

事　務　局　資料提供の件については、会議自体が非公開のため公開は難しいとお伝えしている。議論した結果については、報告書として取りまとめて公開している。

事　務　局　有識者検討会議における NB ミーティングの意見の取扱い方については、会としての考えを取りまとめて発信していくことで跡地利用計画に反映できるのではないかと考えている。

佐　藤（ＮＢミーティング会長）　NB ミーティングの大きな役割の１つが、普天間飛行場周辺地域の方々の意見を伝える事であると考えている。NB ミーティングとしての考えではなく、市民の考えを跡地利用計画検討側に伝える事が重要である。伝えた意見に対してフィードバックがなければ全く伝わってないのと同じである。フィードバックがあれば、地域住民の立場からすると意見が届いている事が分かるが、それがないと NB ミーティングに意見を伝えたが跡地利用計画検討側には伝わっていないという事になりかねない。どう伝えるか、跡地利用計画検討側がどう受け止めるかが重要な点と考える。

事　務　局　地域からの意見についても情報共有を行っている。神山地域はシンボル道路の位置に関する意見が挙がっており、有識者検討会議の中でも共有して

| | |
|---|---|
| | いる。現状として、いただいた意見のフィードバックが中々返せていない状況であるが、今後明確なフィードバックができるよう検討していきたい。 |
| 又吉<br>（地主会会長） | 琉球大学と連携した取組みや、学生で興味のある方を先導役として受け入れたり、小中高等学校への出前講座等、時間をかけて若い世代を人材育成する事が合意形成の一番の近道である。すぐ意識を変えるのは難しいが、地主会も行政も一緒になって人材育成を行う事で進めているため、本懇話会の中でも共通認識としておいていただきたいと考える。 |
| 上江洲<br>（沖縄国際大学教授） | 次年度も大学は恐らくオンラインを併用する事になるため、NB ミーティングとしてはそれに対応可能なタイアップ企画を検討いただければと思う。<br>琉球大学との連携については、90 分の講義を 2 コマという話であったが、その中でコンパクトに完結するようなプログラムを構築する事ができれば、琉球大学だけではなく他大学でも活用できるツールとなる。<br>また、過去にその講義に参加した学生を他大学で開催する同一講座に一緒に参加させる事で、他大学との交流に繋がる。他大学交流の経験は、学生の評価対象となるため、学生のインセンティブに繋がると思った。 |
| 石原<br>（沖縄国際大学　名誉教授） | 若手の会や NB ミーティングの皆さんが、関心ある方を説得し一本釣りでメンバー獲得に繋げる必要があると考える。 |
| 多和田<br>（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長） | NB ミーティングの活動に対する対応として、行政としても改善できる点がないか検討させていただきたい。 |
| | 次年度の主な取組みについて（案） |
| 立山<br>（専門員） | 「プロモーションビデオを活用した出前講座の開催」について、10 分程度でコンパクトにまとまっており、跡地利用計画が具体化しづらい状況下においては非常に良い PV となっている。次年度以降、本 PV を地権者意見交換会やまちづくり講座など各種会合の場で放映したり、市ホームページにもアップしても良いのではと考える。 |
| 事務局 | PV の活用方法については、今のご意見を受け事務局として次年度検討させていただきたい。 |
| | その他 |
| 多和田<br>（宜野湾市基地政策部次長兼まち未来課長） | 県市共同調査で跡地利用計画を検討しているが、返還時期が未定のため、どのような施設が誘致されるのかといった地権者や市民が一番興味のある部分について応えきれていない。 |

| | |
|---|---|
| | そのため今後は、魅力ある跡地利用計画を伝えていけるように、具体的な施設など提示できるのかどうか県市共同調査の中でも検討していきたい。そういった事がメンバー増員や参加者増に繋がっていくものと考えているので、ご理解をお願いしたい。 |
| 事　務　局 | 今回をもって、懇話会会員の任期終了となる。今後も懇話会を継続して開催する場合、改めて事務局からお声掛けさせていただく事となるが、その際にはぜひともご協力いただきたい。 |

## ４）「普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会」設置要綱

**（設置）**

第１条　普天間飛行場跡地利用に係る地権者等関係者の合意形成活動を確実に実施するために、地権者等関係者のそれぞれの活動内容及び方向性について十分な協議調整を図る事に資するために、普天間飛行場跡地まちづくり合意形成懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

**（協議事項）**

第２条　懇話会での協議事項は、次のとおりとする。

（１）合意形成活動推進上の問題課題の整理に関する事。

（２）合意形成活動の仕組みと組織づくりに関する事。

（３）まちづくり手法の研究に関する事。

**（組織）**

第３条　懇話会は、次の会員をもって組織する。

（１）学識経験者

（２）宜野湾市軍用地等地主会

（３）普天間飛行場の跡地を考える若手の会

（４）ねたてのまちベースミーティング

（５）市の職員

（６）専門員（まちづくり実務者）

**（任期）**

第４条　会員の任期は、３年とする。ただし、再任は妨げない。

２　会員が欠けた場合における補欠会員の任期は、前任者の残任期間とする。

**（役員）**

第５条　懇話会に次の役員を置く。

（１）会長　　１名

（２）副会長　　１名

２　役員は、会員の互選により定める。

３　役員の任期は３年とする。ただし、再任を妨げない。

４　会長は、懇話会の会務を総括する。

５　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

**（会議）**

第６条　懇話会の会議は、会長が必要に応じて召集する。

２　団体会員の会議への出席者数は、議題に応じ必要人数とする。

３　会長が必要あると認めるときは、会員以外の関係者の出席を求め、意見を聞く事ができる。

**（事務局）**

第７条　懇話会の事務局は、宜野湾市基地政策部まち未来課に置き、その事務を処理する。

**（補則）**

第８条　前条までに規定するものの他、懇話会の運営に関して必要な事項は懇話会で決定する。

**附則**

この要綱は平成 27 年１月 27 日から施行する。

**附則（追加）**

１　この要綱は平成 30 年８月８日から施行する。

## 5）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

**●次年度の取組みの方向性について**

以下の内容に関する取組みの方向性や考え方について意見を伺う事ができ、若手の会及び NB ミーティングへのフィードバックを行った。

・若手の会の会員掘り起しの方法
・若手の会及び NB ミーティングの活動や考え方を次世代に継承していくための方法
・NB ミーティングと市民の関わり方
・地権者アンケートの回収率向上の方法
・県外在住地権者の意見把握の方法

【今後の課題】

**●継続した議論の必要性**

・今後も継続して懇話会を開催し、合意形成を進めていくにあたっての方向性等について議論を進めていく必要がある。

## 2-6．先進地視察会及び合同勉強会

取組み方針①：先進地のまちづくり事例を習得し、若手の会及び NB ミーティングに知見の共有を図る。

### （1）先進地視察会及び合同勉強会の企画・開催

#### 1）開催概要

例年、若手の会と NB ミーティングの両組織において、跡地利用に関する議論の参考となる情報収集や議論の深度化を図る事を目的に先進地視察を実施していた。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み例年どおりの視察は行わず、視察先担当者へオンラインによる事前ヒアリングと事務局のみによる現地訪問及び動画を撮影して取りまとめた結果について、若手の会及び NB ミーティングに対して知見の共有を行った。

〇開催日程

事前勉強会：令和２年９月 16 日（水）、９月 23 日（水）
現地視察会：令和２年９月 30 日（水）～10 月２日（金）

〇視察テーマ

①多様な機能の複合による振興拠点の形成のあり方について
「健康・医療・福祉・環境」の企業が集積する立地条件や、新たな拠点開発形成のあり方に関する知識の習得を図る。

②大規模市街地開発における新たなまちの機能のあり方について
「産・官・学・民」連携によるさまざまな研究や時代の要請を反映したまちづくり、大規模市街地開発における新たなまちの機能のあり方に関する知識の習得を図る。

③「住みやすいまち・働きやすいまち」とは
まち全体の価値を高めるための意識とブランドイメージを確立し、「住みやすいまち・働きたいまち」となるために地域として必要な事、必要な取組みに関する知識の習得を図る。

①視察先

| 月　日 | 視　察　先 |
|---|---|
| 9/30（水） | ■北大阪健康医療都市（健都） |
| 10/1（木） | ■こども本の森中之島<br>■大阪天王寺公園エントランスエリア“てんしば”<br>■うめきた地区 |
| 10/2（金） | ■神戸医療産業都市<br>■神戸まちづくり研究所 |

②視察スケジュール

| 日　時 | | 内　容 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 9/30<br>（水） | 10：00<br><br>11：20<br>13：10<br>14：20<br><br>15：35<br><br><br><br>16：00<br>17：30<br><br><br>18：00<br>18：15 | 那覇空港集合<br><br>那覇空港出発<br>伊丹空港到着<br>↓　※昼食・空港リムジンバス移動（40 分）<br><br>大阪駅<br>↓　※JR 京都線（15 分）<br>吹田駅到着<br>↓徒歩移動<br>◆健都：現地視察（動画撮影）（90 分）<br>◆現地視察終了<br>吹田駅<br>↓　※JR 京都線（15 分）<br>大阪駅到着<br>宿泊先ホテル到着 | |
| 10/1<br>（木） | 8：30<br>8：40<br><br>8：45<br><br>9：00<br>10：00<br><br>10：15<br><br>10：30<br><br>10：30<br><br>11：30<br><br><br><br>13：30<br><br>14：00<br><br>15：00<br>16：00<br>16：30<br><br><br><br><br><br>17：00 | 宿泊先ホテル出発<br>梅田駅<br>↓　※地下鉄（御堂筋線）5 分<br>淀屋橋駅到着<br>↓　徒歩<br>◆中之島公園到着（こども本の森中之島）視察<br>◆現地視察終了<br>↓　※徒歩<br>淀屋橋駅到着<br>↓　※地下鉄（御堂筋線）15 分<br>天王寺駅到着<br>↓徒歩移動<br>◆てんしば・天王寺エリア：現地視察（60 分）<br>◆現地視察終了<br>昼食<br>天王寺駅<br>↓　※地下鉄（御堂筋線）15 分<br>梅田駅到着<br>↓徒歩移動<br>◆うめきた地区・グランフロント大阪周辺<br>：現地視察（動画撮影）60 分<br>◆グランフロント大阪：座学（60 分）<br>◆梅田エリア　現地視察（植松代表理事）<br>◆現地視察終了<br><br><br><br><br><br>宿泊先ホテル到着 | ・概要説明と質疑応答、現地案内<br>座学場所：グランフロント内会議室<br>〇（一社）大阪梅田エリアマネジメント大阪大学コミュニケーションデザインセンター招聘教授<br>植松　宏之代表理事<br><br>〇ＵＲ都市機構　西日本支社<br>うめきた都市再生事務所<br>事業計画　　安田　和弘課長 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10/2<br>（金） | 8：45<br>8：50<br><br><br><br><br>9：45<br>10：00<br><br>11：30<br><br><br><br><br><br><br><br>12：00<br><br><br>13：30<br>15：30<br>16：00<br><br><br>18：30<br>18：40<br><br>19：00<br>20：05<br>22：35 | 宿泊先ホテル出発<br>大阪駅<br>↓　※JR 神戸線（新快速 30 分）<br>三ノ宮駅到着<br>↓　※徒歩移動<br>三宮<br>↓　※ポートライナー（15 分）<br>医療センター駅到着<br>◆神戸医療産業都市：座学（45 分）<br>：現地視察（動画撮影）45 分<br>◆現地視察終了<br>医療センター駅<br>↓　※ポートライナー（15 分）<br>三宮到着<br>↓　※徒歩移動<br>神戸三宮<br>↓神戸高速鉄道　（2 分）<br>花隈到着<br>昼食<br><br>◆神戸まちづくり研究所：座学（120 分）<br>◆座学終了<br>◆現地視察終了<br><br><br>三ノ宮駅<br>三宮<br>↓　※ポートライナー（20 分）<br>神戸空港到着<br>神戸空港出発<br>那覇空港到着<br>解散 | ・概要説明と質疑応答、現地案内<br>座学場所：神戸 KIMEC センタービル 10 階　セミナー室<br>〇神戸市　医療産業都市部：<br>奥田　一平係長<br>〇（公益財団法人）神戸医療産業都市推進機構 クラスター推進センター<br>都市運営広報　塚口　明寿課長<br><br>・概要説明と質疑応答<br>座学場所：神戸まちづくり会館<br>４階「まちラボ」<br>〇神戸まちづくり研究所：<br>野崎　隆一理事長<br>浅見　雅之事務局長<br>〇考える人：神戸まちづくり会館<br>今地　春乃（神戸学院大学生） |

**③参加者名簿**

| NO | 所　属 | 氏　名 |
|---|---|---|
| 1 | 宜野湾市役所<br>基地政策部　まち未来課　基地跡地計画係 | 東江（あがりえ）　信治（のぶはる） |
| 2 | | 髙良（たから）　夏美（なつみ） |
| 3 | 昭和株式会社　沖縄技術室 | 石井（いしい）　清志（きよし） |
| 4 | | 河村（かわむら）　健人（けんと） |
| 5 | | 池村（いけむら）　さつき |

## 2）視察内容

【視察先位置図】

【各視察先の概要】

①健都：北大阪健康医療都市

吹田市・摂津市両市にまたがるＪＲ吹田操車場跡地において、「健康・医療」をコンセプトとしたまちづくりを進めている。健都には、国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、VIERRA 岸辺健都をはじめ、様々な医療・福祉施設が立地している。

吹田操車場跡地地区は、昭和 62 年（1987 年）当時、大阪梅田にあった貨物駅機能の半分を分担し、新たに「吹田貨物ターミナル駅」として整備される事が決定され、跡地約 50ha のうち吹田貨物ターミナル駅は約 27ha、残地約 23ha をまちづくり用地として位置づけ、地元と協定を締結してまちづくりを着手した。

「緑と水に包まれた健康・教育創生拠点」という基本指針のもとまちづくりがスタートし、令和元年（2019 年）国立循環器病研究センターの移転に伴い、医療機関と医療関連企業などが集積した国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）の形成を目指し、「健康・医療のまちづくり」を進めている。

地区内は緑が多く、各施設のサイン計画が統一され、まち並みが統制されており、エリア内の至る所で健都のロゴマークが使用され、地区のＰＲにもつながっている。

【健都のロゴマーク】

《施行者》

基盤整備：土地区画整理事業（ＵＲ都市機構）→区域面積 22.1ha
上　　物：近鉄不動産株式会社（本社：大阪市天王寺区）、大和ハウス工業株式会社（本社：大阪市北区）、名鉄不動産株式会社（本社：愛知県名古屋市）

a）施設立地状況

b）主な施設と特徴

■国立循環器病研究センター

センター内には企業・大学等との共同研究の拠点としてオープンイノベーションラボ等を整備。国立循環器病研究センターの移転は、まちづくりのコンセプトに大きな影響を与えた。

■市立吹田市民病院

平成 30 年（2018 年）12 月に新病院が移転開院。救急病院の指定も受け一般市民に対しての病院である。２階の連絡デッキで「JR 岸辺駅」と直結。国立循環器病研究センターと近接する。

■高齢者向けウェルネス住宅

健康・医療・介護・多世代交流をテーマとした複合施設。サービス付き高齢者向け住宅、一般賃貸住宅のほか、診療所、介護事業所、保育施設、学習施設、フィットネス施設、物販店等が入居。

■駅前複合施設（VIERRA 岸辺健都）

岸辺駅から直結した健康増進機能と生活利便機能が融合した複合施設。１階が飲食店･商業施設、２階が飲食店･クリニックモール、３、４階が駐車場、５階がフィットネスクラブ、６階から９階が宿泊施設。２階の連絡デッキで「JR 岸辺駅」「国立循環器病研究センター」「市立吹田市民病院」と直結している。

■都市型居住ゾーン（ローレルスクエア健都）

健康をコンセプトにした分譲マンション。日本発となる国立循環器病研究センターとの連携サービスを導入している。（例：脈拍に異常があればアドバイスを行う健康ソフトサービスなど。）

■緑の遊歩道

全長３キロメートル（JR 吹田駅～千里丘駅）の、線路沿いにある歩行者専用道路。緑を感じながらウォーキングを楽しめる。

■健都レールサイド公園（吹田市）

健康への「気づき」「楽しみ」「学び」をコンセプトに整備された３つの広場（健康増進広場・みどりの広場・土の広場）で構成された公園。公園内の「健康増進広場」には、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の協力・監修のもと、27 基の健康遊具や４つのウォーキングコースが整備されている。

■健都ライブラリー

図書館が持つ機能に各種イベントが開催できる多目的室や、カフェスペース健康相談所等を備える多機能複合施設として整備を進めており、令和２年（2020 年）11 月に開館予定。健都レールサイド公園の一角にあり、1 階には操車場跡地としての土地の記憶を残す、ゼロ系新幹線の先頭車両を展示している。

■明和池公園（摂津市）

防災機能を備えた公園。大型遊具や健康器具等もあり、普段は一般的な公園として利用されている。災害時には一時避難場所として活用でき、防災倉庫や防災用トイレ、かまどベンチ等が備えられている。隣には緑の遊歩道が設置されている。

■健都イノベーションパーク（アライアンス棟予定地含む）

国際級の複合医療産業拠点（医療クラスター）を目指し、最先端の健康・医療関連の研究機関や企業が進出予定の企業用地。市有地の売却による企業の進出が期待される。

【アライアンス棟】

国立健康・栄養研究所のほか、企業や大学の産学連携の窓口などの様々な機関が入居可能な、ハード・ソフト両面において複合的な機能を有し、民設民営で整備している。

貸オフィス・ラボを整備するほか、入居者や来訪者が集う事で技術や知識が交流し、医療クラスターの形成がより高度化する施設の整備を予定。令和４年（2022 年）春ごろの操業開始を予定している。

**c）オンライン勉強会の概要**

●日時：令和２年９月 23 日（水）

●形式：オンライン会議

●場所：宜野湾市役所　会議室

北大阪健康医療都市（健都）開発に至るまでの背景、地区の概要及び特徴等について、吹田市健康医療部健康まちづくり室　村澤　亮平主幹、黒木　隆介主査より説明を受けた。

《オンライン勉強会のようす》

**◆質疑応答（一部のみ）**

・アライアンス棟について、市所有地を企業に貸して民設民営という事であるが、吹田市としては土地を貸しているだけなのか、あるいはまちづくりの実現に向けて、アライアンス棟との連携した取組みが進められているのでしょうか。

→市有地については 30 年間の定期借地とする計画となっている。アライアンス棟の中では、企業同士が連携しており、ソフト面については京都リサーチパークがグループに入っているため、市としても連携しながら定期的にソフト事業に関する協議を進めている。また、大阪府が中心となっている医療クラスター推進協議会においても、関係者との情報共有を図っている。今後は、市と事業者の間で具体的な内容の検討を進めていく段階にきていると考えている。

・各種施設の誘致に向けての取組み内容や、誘致にあたっての必要条件があればご教示下さい。

→イノベーションパークの企業誘致や産学官の連携により新たなサービス製品を生み出す取組みも重要であるが、まちづくりを同時に進めてきたという特色を活かして市民の健康データを蓄積してデータベースを構築し、外部から企業を誘致するための仕組

みになればよいと考える。将来を見据えながらプラットフォームを構築していきたいと考える。

・構想段階、事業実施段階、現在のそれぞれの段階について、周辺住民のまちづくりに対する考えはどのように変わってきたのでしょうか。

→旧国鉄の民営化に伴い、梅田貨物駅機能が吹田操車場跡地に移転される事について、環境問題に対する懸念があり、当時、（昭和 62 年頃）周辺住民から反対の意向が強くあった。どの程度の面積を移転させるのかという協議が地元と 10 年以上続き、最終的に半分の面積をまちづくり用地として住民が勝ち取ったと伺っている。その後、平成 19 年に吹田操車場跡地まちづくり全体構想を策定した後に、市民を中心とするまちづくり市民フォーラム（平成 19～平成 24 年　計 41 回、当初の参加者 100 名超）で意見交換を行い、フォーラムでの市民の意見を参考に整備を進めてきたため、住民もまちづくりに参画したという事で愛着をもっているのではないか。

・医療拠点と周辺の医療施設や地域との連携に関する取組みがあればご教示下さい。

→地区内としては、国立循環器病研究センターと市立吹田市民病院が移転した事もあり、大きなポイントとしては、病院間の連携ができた事である。感染症などの合併症が併発した場合に、市民病院と国立循環器病研究センターが連携して診療を行う。駅前の商業施設内にクリニックモールがあり、病診連携という部分でも連携を進めている。地区内外としては、吹田市と摂津市の連携を深めるためにまちづくり会議を設置し、地域医療連携のあり方や医療政策についての意見交換等を行っている。まちづくり会議には国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、吹田市、摂津市のほか両市の医師会、歯科医師会、薬剤師会の会長等も参画頂き、吹田市、摂津市の異なる医療圏の中でどのような連携ができるのか意見交換も行っている。

・国立循環器病研究センターの移転ありきのまちづくりだったのでしょうか。仮に健都に移転しなければ、まちづくりの将来像に変化が生じていたのでしょうか。

→移転ありきである。平成 19 年度のまちづくり基本方針では「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点の創出」と決定していたが、国立循環器病研究センターの移転がなければここまで健康医療都市には特化していなかったものと考えている。

・ニプロの誘致が成功した要因があればご教示下さい。

→ニプロはフラッグシップ企業として最初に選定した。プロポーザルでニプロを選定する以前にサウンディング調査を実施し、何百社の企業回りも行い誘致活動を行った。国立循環器病研究センターとニプロは以前から共同事業を実施し、ニプロも既存事業以外にも新分野に挑戦されようとしていたため、双方にメリットがあったのではないか。ニプロが進出する事によりイノベーションパークが注目され、途切れる事なくイノベーションパークを対外的にＰＲできていると事が一連の流れに繋がっているのではないか。フラッグシップとしての大企業誘致は、対外的にもインパクトがあった。

・医療と学術研究施設の望ましい連携のあり方について、地権者及び市民としてはどのような点に留意したら良いでしょうか。

→医療関係の施設、研究所、企業が集積している地域は珍しくはない。健都の特徴として

は、住民の生活に身近な施設が集積しているところにある。駅前複合施設、公園、ライブラリー等、市民の健康づくりを進めていくまちづくりの実現のため、新たな研究開発も生み出しながら、生み出された製品や商品は何らかの形で市民に還元される必要がある。健康医療という市民に身近なテーマである事から、市民にどのように還元していくのか、検討していく必要があると考える。

### ②こども本の森　中之島

2020 年 7 月に中之島公園内に開館した図書に関する文化施設。「こどもが本と出会い、本を楽しみ、本に学ぶ施設」として、建築家の安藤忠雄氏が自ら設計し、建物は大阪市に寄附している。

公園内は緑も多く、館内は、１階～３階まで連続した本棚となっており、本の森をイメージした空間となっている。蔵書の配列はこどもたちの日常生活や、好奇心に寄り添うよう独自の 12 のテーマに分けられ、こども向けの本から大人向けの本までそろい、子どもから大人まで楽しめる仕掛けとなっている。

本の貸出しはないが、選んだ本は館内だけではなく、晴れた日は公園内で読む事もできる。本の返却は当日の 17 時までとなっている。

a）施設位置図

b）図書館内のようす

c）図書館周辺のようす

### ③てんしば

天王寺公園のうち、施設の老朽化や有料のため充分に活用されていなかったエントランス部を多様で自由なアクティビティを受容する拠点として、大阪市と近鉄不動産(株)の官民連携により再整備された公園エントランスエリアの事例。

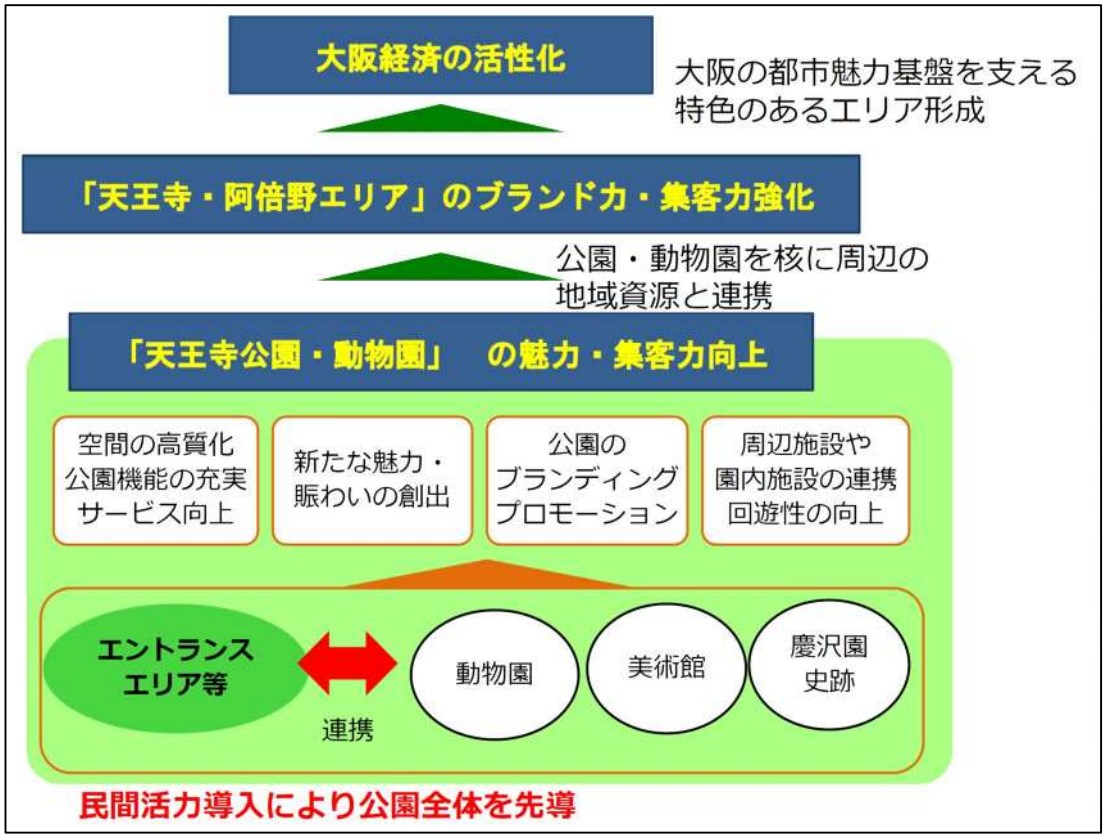
低層の店舗を連続的に設置し回遊性を高め、周辺の天王寺動物園・大阪市立美術館など既存施設との機能的・空間的な連続性を図る事によって、天王寺公園全体を活性化させる事を意図としている。店舗の他、イベント等を行う事ができる。大規模の芝生広場やフットサルコート、飲食店舗が集積しており、多くの人で賑わっている。再整備後は周辺地域や国内外からも多くの人が訪れ、天王寺・阿倍野エリア全体の活性化につながっている。ニューヨークのブライアントパークを参考にしており、ヨガイベント、盆踊り、参加自由の大運動会など多彩なイベントを行っている。

てんしばは 2015（平成 27）年 10 月にリニューアルオープンし、現在は大阪市との協定で近鉄不動産㈱が管理運営を行っている。昨年度は来園者数が 500 万人を超え、今年の 6 月には累計 2,000 万人を突破した。昨年 11 月には天王寺動物園のゲート横に「てんしば i:na」がオープンし、新たな魅力が加わっている。

| |
|---|
| 事 業 者：近鉄不動産株式会社<br>事業期間：20 年間（平成 27 年度～令和 16 年度） |

#### a）てんしばの位置及び周辺の状況

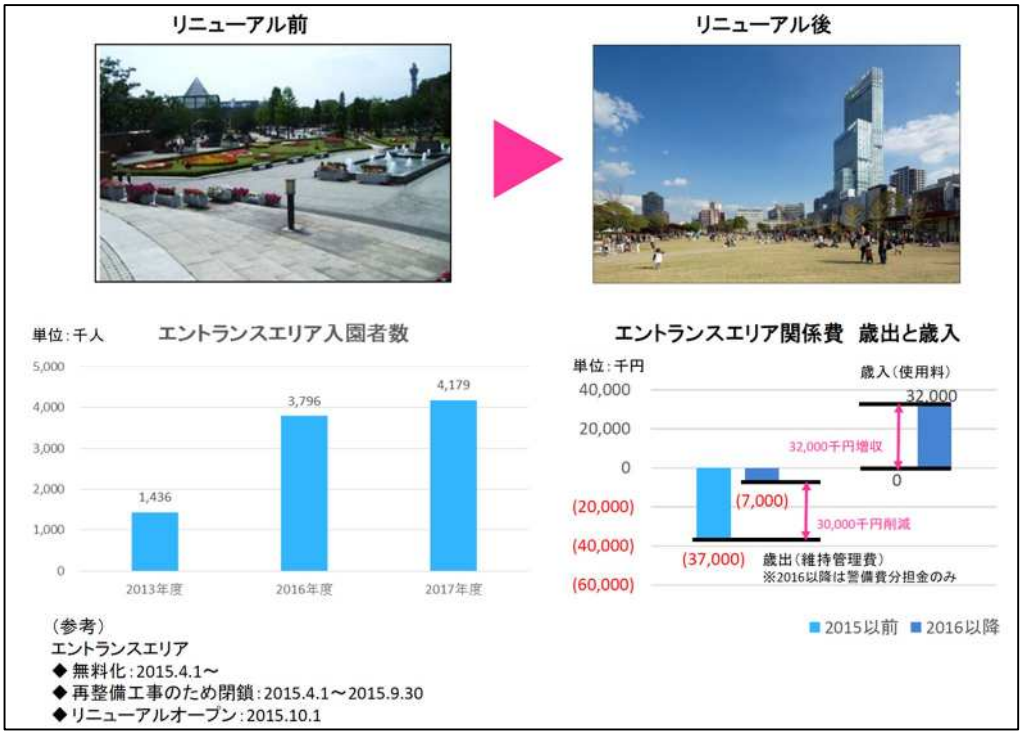
b）リニューアル事業の目的




（大阪市建設局公園緑化部　奥田尚孝　セミナー資料より）

c）リニューアル事業による効果

整備前の公園来園者数は年間約 150 万人であったが、整備後の平成 27 年以降は年間約 420 万人の約３倍へと大きく伸長している。




（大阪市資料より）

d）公園内の各施設と特徴

■芝生広場

約 7,000 ㎡の芝生広場を中心とし、周囲に店舗を配置する事で、自由に楽しめる空間を創りあげている。

■産直市場よってって

地元大阪産の新鮮・安心な農産物やこだわりの加工品を豊富にそろえ、店内には、「よってってカフェ」が併設されている。

■カフェ・レストラン

アメリカ西海岸をイメージした店内やインテリア雑貨、アパレル、フード、コーヒーショップ、和洋楽しめる飲食店を取りそろえ、公園の雰囲気を楽しむ新しいスタイルのカフェ・レストランが立ち並ぶ。

■てんしば i:na（イーナ）

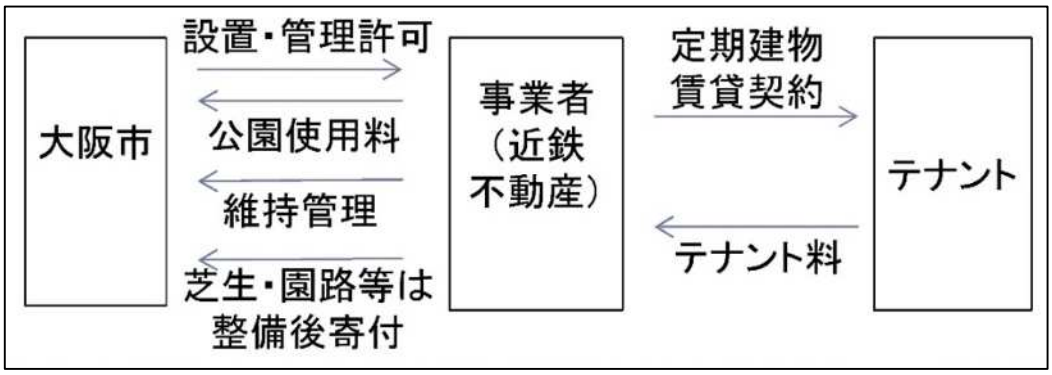
2019 年 11 月にオープンした葉っぱをイメージした屋根が象徴的な建物。約 5,000 ㎡の敷地内には、アクティビティ施設やイベント広場、動物園グッズショップ、飲食施設などが出店している。

■夜のてんしば

夜はライトアップされていて明るく、芝生広場には多くの人々がシートを広げ、お酒を楽しんでいる姿も見れた。昼間とは違う雰囲気を楽しむ事ができる。

e）Park-PFI 制度

天王寺公園エントランスエリアにおいて、にぎわい創出のためのハード・ソフト事業と維持管理事業を一体的に実施している。事業者の負担としては、整備費、維持管理費、店舗部分等収益施設部分の公園使用料である。




※指定管理者制度は導入していない。当該地域の管理運営を民間が担うが、底地所有権や公園使用許可権限は大阪市である。

てんしば開発に至るまでの背景、地区の概要及び特徴等について、近鉄不動産ハルカス事業部　中村氏に後日メールにて回答頂いた。

**◆質疑応答（一部のみ）**

・てんしばエリアのリニューアルに、御社が出資を行う事になった経緯についてご教示下さい。

→あべのハルカス等、周辺のグループ施設との相乗効果を図るためである。

・公園内に誘致した商業店舗等の出店はいつ頃、検討･決定したのか。その際の事業者の出店ニーズと、出店したい事業者にとってのメリットとして最も大きいと感じている事は何でしょうか。

→大阪市より公募が出された段階で検討を開始し、弊社が事業者として決定後に順次決定した。当社としては、公園に設置できる施設が決まっている中で、公園利用者に喜んでいただける施設を誘致した。出店側としては、ターミナル駅に隣接した公園で立地がよかったという事だろうと推測している。

・現時点での整備効果についてご教示下さい。

→駅周辺のあべの・天王寺エリアと新世界エリアとの周遊性が向上した。

・収益を上げ、質の高い維持管理を持続するための方策についてご教示下さい。

→警備、清掃、植栽管理、テナント管理の担当者で定期的な会議を実施し、密に情報共有をしている事。

・てんしばエリアがリニューアルされた事で、周辺の事業者や地権者、住民等はどのように感じているのでしょうか。

→当エリアのイメージが良くなったというご意見を良く伺う。

・特に夜間等、安心して過ごせる空間づくりに向けての取組みがあればご教示下さい。

→24 時間営業のコンビニの設置やイルミネーションの設置を行っている。

・普天間飛行場跡地利用計画では、「沖縄振興の舞台となる緑の中のまちづくり」の実現に向け、100ha 以上の（仮）普天間公園の整備が計画されており、計画の具体化に向けた検討を進めています。

大規模公園を整備する事で周辺地価も上昇し、様々な機能を有する施設等の誘致が期待されているが、次世代に向けて新たな価値を生み出す「みどり」とは何かを、ご経験を踏まえてアドバイスを頂けますでしょうか。

→芝生や緑は人にとって心地の良いものだと考える。きちんと整備されていれば、安らぎの場になり、自然と人が集まってくるという印象を個人的には受けている。

### ④うめきた地区

西日本最大のターミナルエリアに位置する梅田貨物駅跡地約 24ha を、産学官連携により、国際競争力の高い知的創造都市に生まれ変わらせるプロジェクト。

2013 年に先行開発区域（約７ha）がまちびらきしており、「グランドデザイン・大阪」（大阪府・大阪市策定）や「国家戦略特区提案」（大阪府・大阪市提出）で位置付けられた、関西の発展をけん引するリーディングプロジェクトである。

2020 年 3 月には、第２期開発の民間事業者が決定し、2024 年の先行まちびらき、2027 年全体開業を目指して開発が進められている。

**《うめきた１期区域》**
- 区域面積：約 8.6ha（うち 7ha を先行開発）
- 事業期間：2005 年度～2012 年度
- 基盤整備：土地区画整理事業（ＵＲ都市機構）

**《うめきた２期地区》**
- 区域面積：約 19.3ha
- 事業期間；2015 年度～2026 年度
- 基盤整備：土地区画整理事業（ＵＲ都市機構）

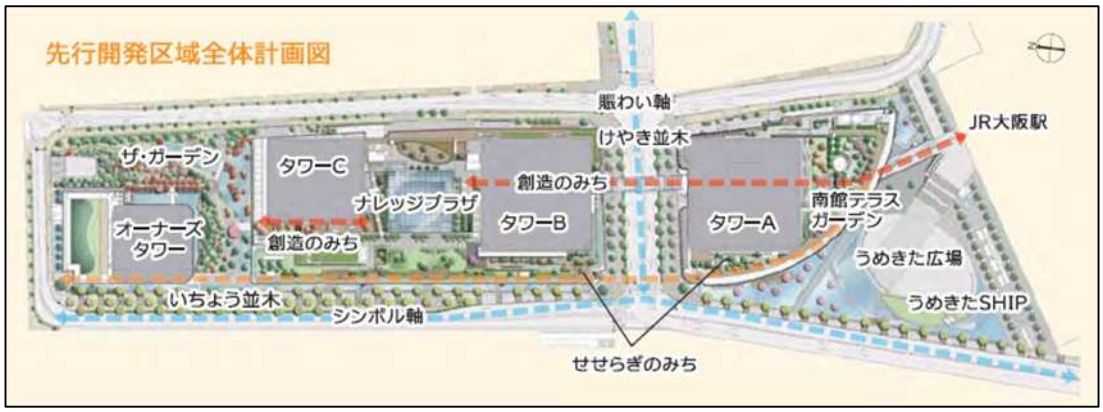
a） 1 期地区（先行開発区域）

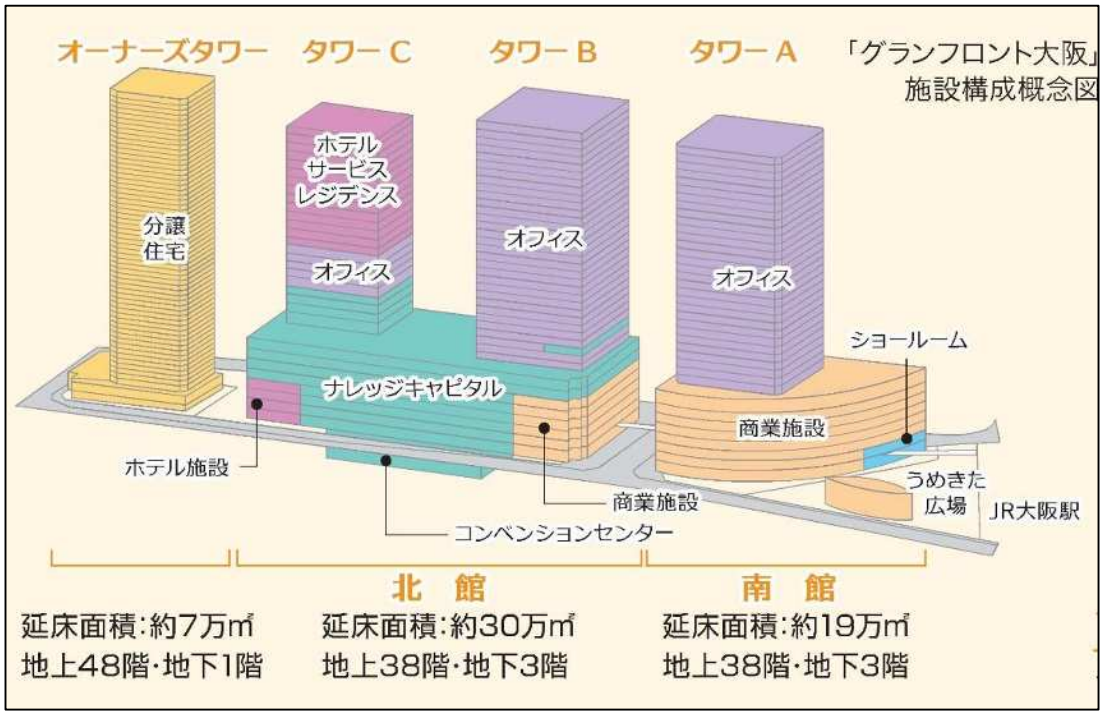
2005 年 6 月に先行開発区域（約 7 ha）としてＵＲ都市機構が「大阪駅北大深東地区土地区画整理事業（全体約 8.6 ㏊）」に着手、地権者であるＵＲ都市機構と鉄道・運輸機構が開発事業者を募集した。

開発事業者 12 社により提案・開発が進められ、2013 年 4 月にグランフロント大阪が開業した。グランフロント大阪は知的創造拠点「ナレッジキャピタル」を核として、商業施設、オフィス、ホテル、住宅から構成されており、その内外にうめきた広場やナレッジプラザ、水景、地上・屋上の庭園など様々なパブリックスペースが散りばめられている。

グランフロント大阪（先行開発区域内）

【全体計画図】



【特徴ある施設】

■ナレッジキャピタル

「感性」と「技術」の融合により、「新たな価値」を創出する複合施設として、多様な人々の交わりから今までにない商品やサービスを生み出す事を目指すグランフロント大阪の中核施設である。

【エリアマネジメント】

■一般社団法人グランフロント大阪 TMO

豊かなオープンスペースを活用した「歩いて楽しいまちづくり」実現のため、公民連携による持続的かつ一体的案まちの運営を推進する事により、グランフロント大阪を中心とした地域の活性化、環境の改善及びコミュニティの形成等に関する事業を展開している。

上位計画や開発事業者募集でも、エリアマネジメントへの取り組みが開発条件とされたため、2012 年 5 月「一般社団法人グランフロント大阪 TMO」が設立された。TMO はイベント・オープンカフェ・広告掲出等の一体的なマネジメントを行っており、また、エリア巡回バスの運行やレンタサイクルの交通サービスを提供している。

■活動目的

グランフロント大阪の価値の最大化とまちのブランド構築を目的に設立され、「新しい参加型のまちづくり」をテーマに、まちづくり推進事業とプロモーション事業の２つを柱として活動している。

また、2014 年 7 月に都市再生推進法人としての指定を受けており、また、2015 年 4 月から、大阪版ＢＩＤ[※1] の適用を受け、公共空間の維持管理等の財源を確保している。

※1　ＢＩＤ制度：ＢＩＤとは民間が行うエリアマネジメント活動の資金を自治体が再配分し、公共空間の管理も一体的に任せてまちづくりを推進する制度。大阪版 BID は、既存の都市再生特別措置法や都市計画法、地方自治法などの法律の一部を、2014 年に施行した大阪市エリアマネジメント活動促進条例でつなぎ合わせて構成。

■活動内容

大阪市が地権者等から分担金を徴収し、公共空間の維持管理等の公共的事業を使途して、エリアマネジメント団体に交付金を交付する「大阪市エリアマネジメント活用促進条例（大阪版ＢＩＤ制度）」の適用により、エリアのプロモーション活動やイベントなどの収益事業を行っている。「エリア巡回バス（うめぐるバス）」の運行や「レンタサイクル」「周辺駐車場との連携」の３つの交通サービスを実施している。

西日本で初めて道路占用許可の特例※2を活用し、公道上で常設オープンカフェの設置や、広告版、バナー広告を設置する事により、賑わいの創出、景観形成と自主財源の確保を図っている。

「新しい参加型まちづくり」の柱ともいえる「ソシオ制度※3」は、豊かなオープンスペース等を活用し、まちづくりのコミュニティ推進者を育てると共に、地元住民に対し、さまざまな地域サークル活動への参加を呼びかけている。また、「ＯＳＡＭＰＯ　ＣＡＲＤ（おさんぽカード）」という、グランフロント大阪内で使用できる商業回遊券を作成している。

真夏には「打ち水大作戦」と題して梅田の雨水を再利用した打ち水を行い、水辺の中にテーブルを設置して浴衣で飲食するイベントを開催しており、整備したインフラの活用に加えてまちの賑わい創出も行っている。

※2　道路占用許可の特例：都市再生特別措置法「都市再生整備計画」で位置づけられた道路占用の特例。オープンカフェや広告バナーの設置が可能。

※3　ソシオ制度：自らの夢の実現を通じて、地域・社会に貢献していただける地域サークル活動を支援する、コミュニティ活動支援制度の事。（書道ソシオ・ヨガソシオ・キッズサイエンスソシオ　等）

【特徴あるまち並み】

■けやき並木（オープンカフェ）

幅員 11mの歩行者空間に、自然石の舗装や２列植栽の高木けやき並木を整備した、美しく快適な歩道空間。道路占用許可の特例を使い、けやき並木沿いに並ぶ飲食店舗が設置したオープンカフェ、防犯カメラを設置し、まち全体の雰囲気作りや、価値を高めている。

オープンカフェは天候には左右されるが、店舗としては席数をより多く確保できるため売上げにも貢献している。

■うめきた広場

大阪駅の中央北口正面にある約 1ha の広大な広場。当初は駅前に広大な広場を整備する事に反対もあったが、多彩なイベントが行われる事で、人々が集う憩いの場になっている。

夜になると階段の照明が灯き、夏場は地面からミストが出て涼む事ができる。広場の使用料は 1 日 120 万円である。車の展示会やパブリックビューイング等様々な使途で使用されている。

■せせらぎのみち

北館西側の敷地内のセットバック空間と、歩行回廊空間を合わせて整備されている計20mの歩行者空間である。

■テラスガーデン

就労するオフィスワーカーの休憩のために、南北それぞれの建物に屋上庭園が整備されている。

■創造のみち

JR 大阪駅から北館にあるナレッジプラザまで結ぶ、安全で快適な歩行者通路。大阪駅北地区地区計画において、立体多目的屋内通路として位置づけられている。

b）２期地区

うめきた２期は、事業者に対して譲渡される土地（南街区 3.5ha、北街区 1.0ha）と街区中央部分の都市公園約 4.5ha、JR 西日本の西口広場約 1.25ha 合わせて、約 10ha について整備するプロジェクトであり、街区の中央部分にある広大な都市公園が特徴である。2023 年には JR 西日本の新駅であるうめきた（大阪）地下駅が開業し、関西国際空港と新大阪駅が直通となり、梅田エリアの利便性の更なる向上につながる。

都市計画公園について

4.5ha の都市公園については、現在都市計画決定がなされている。当初の行政の計画通りの形状ではなく、民間提案を受けて変更した形状で都市計画決定を受けている。

当初の計画と比べて形状はかなり変わっており、レイアウトを変えた事に伴い利用者の誘導がしやすくなり、建築物も建てやすくなっている。

c）オンライン勉強会の概要

●日時：令和２年９月 16 日（水）

●形式：オンライン会議

●場所：宜野湾マリン支援センター　研修室小

うめきた地区整備にあたっての背景、１期地区及び２期地区の概要及び特徴等について、ＵＲ都市機構　安田事業計画課長より説明を受けた

《オンライン勉強会のようす》

◆質疑応答（一部のみ）

・現時点における課題や、今後懸念される事項があればご教示下さい。

→１期計画の都市計画決定は平成 16 年度になされたが、事業完了は平成 24 年度末であった。第２期計画についても同様、工事は今から着工したとしても完成は４年後である。まちづくりには期間を要する。計画当時は最新の考え方についても、年月が経つと技術等は遅れたものになる。しかし、基盤整備は行う必要がある。そこで、理想の考え方と実際の施行にギャップはどうしても生じるため、そこが難しい所である。

・民間事業者と相談を行っていく中で、最新の考え方ではないため場合によっては方針を変更する事もあり得るのでしょうか。

→コンペを実施して選定した以上、事業者からの提案内容を実施しなくてもよいという立場ではないため、それは難しい。しかし、より良い提案がなされれば、その案を選択する事はあり得る。

・地区周辺において、環境面や経済面、まちづくりに対する意識向上などの影響は生じたのでしょうか。

→現在完成しているエリアは１期地区であるため、企業主体の開発である。そのため現時点において、特には生じていない。２期地区開発については、公園が整備される事により「市民が足を運び、市民に愛される、市民が交流する」場が増えると考えているため、大阪市としては２期区域で波及効果をねらおうと考えており、ＵＲ都市機構としても同様に考えている。民間主体の開発では、波及していかない。「みどりには価値がある」と見せる事で周りの意識を啓発させようと考えが、２期のまちづくりの方針にも表れている。

・「誰もが訪れたくなるまち」を目指す上で、何が重要と考えますか。

→先行開発区域で言えば、空間の広がり方が重要と考える。建物が見える、商業施設が見えるだけでなく、いいなと思わせるスポットをつくる事が大事である。

・「緑とまちの整備のあり方」に関してどのように考えますか。

→「緑がある事はなんとなく良い」という認識は皆持っていると思うが、それを「見える化」したいと考えている。例えば、オフィスやホテル前の公園で様々な活動を市民と共に行うにあたり、ただ単に活動を行うだけでなく、それに新しい価値を加えてデータを収集して今後のイノベーションに活かす事ができないかと考えて、アバターを活用したまちの案内を行う事も検討されている。「緑は非常に可能性がある」事を示したいと考えている。

・将来、普天間飛行場跡地において各種機能誘致の促進に向けた施設整備を行う事になるが、地権者及び市民として留意しておく事項があればご教示下さい。

→計画内容やルールで縛りすぎると進出する民間企業の門戸を狭めてしまうため、民間と行政の両者にとって利益ある関係である必要がある。民間企業の意見を全て聞き入れるという事ではなく、バランスを取りながら柔軟に進めていく事が重要である。

### ⑤神戸医療産業都市

1995 年（平成 7 年）に発生した、阪神・淡路大震災によって大きな被害を受けた神戸経済を立て直し、市民の命を守りそして国際社会に貢献する事を目指すプロジェクトとしてスタートした。

神戸市にある人工の島「ポートアイランド」を中心に「神戸医療産業都市構想」が進められ、「市民福祉の向上」、「神戸経済の活性化」、「国際社会への貢献」を目的に、先端医療技術の研究開発拠点として整備され、今では日本最大のバイオメディカルクラスターとして知られている。現在では約 369 社（2020 年 6 月末現在）の医療関連企業・団体が国内外より進出している。

**《ポートアイランド 1 期》**
・総面積　：443ha
・埋立年度：昭和 41 年度～昭和 55 年度

**《ポートアイランド 2 期》**
・総面積　：390ha
・埋立年度：昭和 61 年度～平成 17 年度

神戸医療産業都市は、「メディカル・クラスター」「バイオ・クラスター」「シミュレーション・クラスター」の３つから形成される。

**【神戸医療産業都市を形成する３つのクラスター】**

**■メディカル・クラスター**

高度専門医療機関が集積・連携し、市民への高度な医療サービスの提供や事業等の新たな事業機会の創出、国際貢献を行う。医療センター駅周辺のほか、南公園駅周辺にも広がっている。

**■バイオ・クラスター**

再生医療の実用化や超高齢化に対応する先進医療に取り組み、基礎研究から臨への橋渡しを担っている。医療センター駅周辺に集積する。

**■シミュレーション・クラスター**

計算科学分野の研究機関、企業等が集積し、世界最先端のシミュレーション技術を創出する。京コンピュータ前駅周辺のほか、兵庫県佐用郡佐用町（理化学研究所 放射光科学総合研究センター）にも集積する。

a）主な施設

■神戸キメックセンタービル（ＫＩＭＥＣ）

医療構想の拠点で、ポートアイランド（第２期）のまちづくりを先導する高度情報化社会に対応したインテリジェントビル。オフィススペースとは別に、各種バイオ実験に対応したウェットラボも存在する。

■神戸医療産業都市推進機構

進出している約 370 社の事業化支援を行い、企業面談や交流の場を設けるためのイベント等マッチングの機会を図っている。進出企業以外の人も利用可能である。

■神戸臨床研究情報センター（ＴＲＩ）

神戸市が唯一所有している施設である。神戸医療産業都市推進機構チームが入り、研究から臨床計画まで一貫して支援している。脊髄損傷や鼓膜の再生研究の製品化までを行っている。

■理化学研究所　生命機能科学研究センター（ＢＤＲ）

当時は「発生・再生研究棟」という名称であった。生命の誕生から老化にいたるまでの研究を行っている。理化学研究所を早期に誘致できた事が、医療産業都市のターニングポイントである。IPS 細胞の研究もこの施設で研究開発されている。

b）勉強会概要

●日時：令和２年 10 月２日（金）10 時 00 分～12 時 00 分

●場所：KIMEC センタービル　10 階セミナー室

神戸医療産業都市の背景、概要及び特徴等について、神戸医療産業都市推進機構　塚口　明寿課長より説明を受けた後、質疑応答を行った。

《勉強会のようす》

◆質疑応答（一部のみ）

・誘致するにあたって様々な企業に声掛けを行う際、知事や市長がトップセールスで誘致する事が多いとよく耳にします。神戸医療産業都市も同様の手法でしょうか。

→トップセールスではなく、神戸市の医療産業都市部に所属している誘致課職員７～８名が全国を回り企業に声掛けを行い、誘致を進めている。

・現在、ラボの入居率は 95.6%であるため、企業から建物の一部を借りたいと申出があっても供給できない。そのため、新たに１棟建築したところである。12,000 ㎡×６階建てで 10 月 10 日に竣工予定であるが、既に 75%入居者が埋まっている状態である。

→神戸市が建築したのでしょうか。

→神戸市の外郭団体である「神戸都市振興サービス株式会社」という、まち全体の設備管理をしている団体が建て、入居募集をかけて進めている。民間企業のため、神戸市と神戸都市振興サービスが協力して誘致を進めている。民間企業所有のビルであっても、神戸市が誘致を行っている。神戸市としては、官民の分け隔てなく誘致するスタイルを採っている。

・市街地部では、中々1 人当たり緑地面積を確保できないため、緑のマスタープランで位置付けを行い、1 人当たり 10 ㎡を確保している。また、埋立地においては、ポートライナー沿いに緑道を設けると共に、海沿いに植樹し緑化を行っている。また、北側には大きな公園を整備している。

・神戸市と購入した企業の間で道路沿いの 2m幅は緑化する協定を締結している。転売の際においても、協定書の内容は次の企業に引き継ぐ事となっている。

・企業を誘致する際、企業側は緑の多さに着目しているのでしょうか。

→緑が多く環境が良好に感じるため緑化したいという企業と、ランニングコストがかかるため緑化したくないという企業がある。

・震災前から医療産業都市という構想はあったのでしょうか。

→元々はリゾートパーク構想があった。その構想の記者発表の日に震災があり、そこから医療産業都市の構想に変わった。

・医療関係の施設が医療産業都市内に集中する事で、地域医療が不足しているなどの問題は出ていないのでしょうか。

→それぞれ専門分野に特化した医療機関が集まっているため、医療バランスが崩れるような移転はなく、そのような話は聞いていない。

・20 年前の緑の考え方はどのようなものだったのでしょうか。

→当初埋め立て時から緑の整備の考え方に変更はなく、1 人当たり 10 ㎡を確保する事である。緑の配置については、ポートライナー沿いに公園が２つあり、それらを結ぶ軸として緑地を配置する事と、護岸の修景として緑地を護岸沿いに配置している。

### ⑥神戸まちづくり研究所

阪神淡路大震災をきっかけに、震災の復興に関わってきた大学の研究者、建築の設計者、土地区画整理事務所等の専門家やジャーナリストも賛同し、神戸復興塾という任意団体が設立された。

ＮＰＯ法人設立に向け、1998 年にアメリカのサンフランシスコへ視察に行き、2000 年３月にＮＰＯ法人の認証を受け、ＮＰＯ法人神戸まちづくり研究所が設立された。

活動の趣旨としては、コミュニティシンクタンクを目指し、復興のプロセスで学んできた事を災害地へ伝え、復興への取組みを考えていくシンクタンク機能を発揮する事である。

#### a）取組み内容

・復興公営住宅に仮設住居から入居する際には、仮設住宅で形成されたコミュニティが崩れる事を懸念し、公営住宅入居前に事前交流会を開催しコミュニティの形成を行った。

・2011 年の東日本大震災をきっかけに、被災地に阪神淡路大震災を経験した専門家を派遣する仕組みをつくり、東日本への支援を約６年間、毎月通い地域に入り復興支援を行ってきた。

・また、戦後から伝統的なコミュニティのあり方が引き継がれてきたが、高齢化が進み後継者がいないという問題が起こり、「新しい形のコミュニティを発想しなくては今の地域コミュニティは持続しない」という危機感から、「コミュニティ施策を見直す必要があるのでは」と行政に提案し、３年間神戸市から委託を受け、コミュニティサポート事業を行ってきた。

・被災地にも継続的に関わり地域づくりの支援も行っている。

#### b）勉強会概要

●日時：令和２年 10 月２日（金）13 時 30 分～15 時 30 分

●場所：神戸まちづくり会館

野崎　隆一理事長、浅見　雅之事務局長より、神戸まちづくり研究所の活動事例紹介を受けた後、意見交換を行った。

勉強会のようす

◆質疑応答（一部のみ）

・ＮＢミーティングでは、普天間飛行場周辺のまち歩きを行って返還後のまちをイメージした上で、まちが変わる事に関する情報発信を周辺住民に行っている。しかし、まち歩きには参加しても、新規メンバーの獲得に結び付かない。新規メンバー獲得に向けて望ましい手法として何が考えられるでしょうか。

→普段の活動には参加しなくとも、何かあった時に参加してくれるグループが徐々にできていけばよいと考える。まち歩きと定例会の会議は分けても良いのではないか。

→議論できる場という事が大事である。話をしてそれで終わりではなく、参加者の意見が反映される会合になっているのか。「この集まりは大変だ」と言い続けている事を引き継ぐ人は出てこない。面白さや楽しさを共有する集まりをベースにしないと、前には進まない。

・まちづくり研究所の会員の方は、震災という経験がある中で同じ目的の下、結束し集まっているが、宜野湾市民は普天間飛行場返還後のまちづくりにはまだ興味がなく、他人事として捉えている市民も多い。その中で、跡地利用に対して興味の向かない市民を取り込む方法として知見があればご教示下さい。

→例えばアンケートを２段階で行う事が考えられる。第１回目のアンケートでは、「この地域が 20 年後にはどのようになってほしいか」といった意見が分かれる内容のアンケートとし、その結果を総合計画に盛り込みながら、将来像をまず意識してもらう事が重要である。次に、「具体的な案」について賛否を伺い、市民の声を聞く事が必要である。そこで具体的なパターンをイメージした時に「これは他人事ではない」と自分の関心がどこにあるのか気づくものと考えられる。

・まち歩きの参加者は、普天間飛行場の跡地利用をイメージする事が難しい。市民に跡地利用のイメージを持たせる方法として、どのような事が考えられるでしょうか。

→例えば、「新しい住宅地にはどのような人たちが住むのか」といった、日常生活にからめて興味を引き出す事も１つと考えられる。

・行政や地域との連携のあり方や関わり方はどうあるべきか。ご経験を踏まえてご教示下さい。

→平成 14 年に兵庫県では「県民の参画と協働の推進に関する条例」が制定され、神戸まちづくり研究所が受託し、市民・行政・ＮＰＯで共にワークショップを開催した。最初は、「行政の強み・弱み」、「ＮＰＯの強み・弱み」、「地域団体の強み・弱み」でワークショップを行った。行政が弱い部分はＮＰＯが強みであるなどが分かり、お互いに補完して協働する事に意味があると確認した。

地域の課題を解決するために必要な事を整理するにあたって、「行政でなければできない事」、「市民と行政が協力してできる事」、「市民だけでもできる事」の仕分けをする事で、自分たちの責任や自覚が生まれてくる。

ｃ）まち活拠点まちラボ

活動は、2019年10月にリニューアル開館したまちづくり会館４階でスタートした。まちづくりを担っていく若手世代の人達が「どのようにまちに関わっていけるか」、「まちの事を考え、活動し続ける人たちを支援する」ための実験やチャレンジ、体験からの学び、様々な価値観や人達との交流を通した活動や行動の拠点となっている。

■まち活プロジェクト

地域で活動を行っている団体や組織の抱える課題や、活動したいと考えている人々のニーズをマッチングする事がまち活プロジェクトの目的である。支援組織の活動や地域を舞台にして、地域を盛り上げる活動を学び、自身の主体的な活動につなげ、人との関係性をつくってほしいと考えている。

■現在の取組み（団体：考える人）

元町商店街４～６番街の活性化のために設立された団体。兵庫県青少年本部「ふるさとづくり青年隊」事業から助成金をうけ活動している。現在メンバーは12名うち11名が大学生であるが、全員大学は違い直接的な交友関係はない。

元町商店街は140年の歴史をもつ神戸の名所の１つであり、なかでも１～３番街は人でにぎわっているが、４～６番街は人通りが少ない。レトロな雰囲気がある4～6番街の店舗に、活性化を与えるイベントを企画している。

考える人代表　今地　春乃氏より、考える会の概要説明を受け、その後意見交換を行った。

◆質疑応答（一部のみ）

・まちづくりに興味を持つ若い世代を増やしていくために必要な事、また、取組んでいる事があればご教示下さい。

→ボランティア活動を続けるためには、やりたい事が「やれる・見つかる・役立つ」事と考える。受け身で居続けると「自分はもう必要ない」と考えてしまうため、何かをやらせ続ける必要があると感じている。イベント予定が先のメンバーは時間に余裕があるため、参加率が低くなる。そのため何かしらの役割を与えている。参加者の「やる必要がある」、「助けてあげたい」という気持ちを引き出す事が重要ではないか。予算を与えて自分達で行ってもらう事が、自分で考え自分で行動していく事に繋がると考える。

・これから活動を進めていく上で課題になっている事はありますか。

→商店街の方々の情報がまだ足りないため、どの人は何ができるのか情報が不明瞭である。大学生は意外と忙しいため仕事の割り振りが難しく、自分のキャパシティをオーバーする仕事が舞い込むと急にやる気がなくなってしまうため、気をつける必要がある。現在２～３名で１チームとしているが、チーム毎に忙しさの偏りがある。

また、現在は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンラインでのミーティングが多い。オンラインではなく対面でミーティングを行いたいという意見も多いが、遠くに住んでいるメンバーも多く中々難しいため、トップダウンになってしまう点も課題である。

### 3）動画の取りまとめ

内容については、下記 URL または二次元コードからアクセスして YouTube で視聴可能なように取りまとめを行った。

https://youtu.be/of5soZUNWco

### ４）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

**●まち全体の価値を高めるために必要な事項、付加価値を生み出す公園の役割や活用方法に関する知見の習得と共有**

・まちのブランドを構築する取組みである、エリアマネジメント組織の発足経緯や活動内容を視察する事で、まち全体の価値を高めるための必要な事項に関する知識を習得し、若手の会及び NB ミーティングに対して知見の共有を図る事ができた。

・都市部の大規模公園の活用手法や運営の方法、利益を生み出す公園運営の考え方について知識を習得すると共に、若手の会及び NB ミーティングに対して知見の共有を図る事ができた。

**●新たなまちの機能のあり方に関する知見の習得と共有**

・新たなまちを計画するにあたって、将来の整備の方向性を明確にし、まちのコンセプトにあったフラッグシップ企業の誘致に向けた取組みを進める事の必要性や重要性に関する知識を習得すると共に、若手の会及び NB ミーティングに対して知見の共有を図る事ができた。

**●視察動画を活用した若手の会、NB ミーティングにおける検討内容の深化**

・取りまとめた視察先の動画を若手の会、NB ミーティング定例会の場で視察内容の説明とあわせて視聴する事で、若手の会は振興拠点ゾーンの具体的な空間イメージをつかみ、NB ミーティングは若い世代が興味を持つための取組みや達成感の獲得に向けた検討を進める事となり、両定例会の検討内容の深化に繋がった。

【今後の課題】

**●返還の各段階における、産官学民連携のまちづくりの考え方**

・今回取得した知識をもとに、返還前、返還直後、返還後、まちびらき、それぞれの段階において、産官学民それぞれがどのようにまちづくりに関わり、まち全体の価値を高める取組みとして何を行うべきか、現段階から徐々に若手の会や NB ミーティングで検討を進めていく必要がある。

## 2-7．今年度の成果と今後の課題

令和元年度調査で挙げられていた課題と方向性について、本調査における成果と今後の課題を以下に再整理する。

| 項目（令和元年度調査） | | | 令和元年度調査で挙げられていた課題・方向性 | 令和２年度の取組み方針 | 本調査における成果 | 今後の課題 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 地権者に係る事項 | 若手の会 | 定例会 | ・若手の会の将来あるべき姿の継続した検討<br>・若手の会を次世代に繋いでいくための取組みの検討 | ・若手の会の強化を目指し、若い世代の人材育成を行う | ・若手の会の将来あるべき姿について継続して議論を進め、課題解決に向けた若手の会会員の自主的な取組みに展開させる事ができた | ・既存会員の掘り起しを行い、定例会の参加人数を増やすと共に、次世代に繋いでいくための取組みを継続して検討を進めていく必要がある |
| | | | ・地主会との連携強化 | — | — | ・今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みて直接的な連携や活動は行わなかったが、今後も引き続き地主会との連携を強化して意向醸成活動を進めていく必要がある |
| | | | ・関係機関に対する若手の会の検討内容の発信 | ・有識者検討会議に対して、会としての考えを取りまとめ発信する | ・有識者検討会議に対して発信する資料として、若手の会の考える「振興拠点ゾーンの将来像」について会としての考えを取りまとめる事ができた | ・地権者の意向等を反映した跡地利用計画となるように、今後も引き続き会としての考えを取りまとめて発信していく必要がある |
| | | — | — | ・対外的な場での活用を想定した、若手の会パンフレットを最新の検討内容で更新する | ・若手の会の最新検討内容を周知するツールとして、パンフレットを更新した | ・更なる有効なパンフレット活用手段を検討し、若手の会の活動内容周知に繋げていく必要がある |
| | 一般地権者 | 字別意見交換会 | ・より多くの地権者に対し、跡地利用計画に対する興味・関心を喚起し、意見等を引き出す<br>・新たな参加者を呼び込むための工夫<br>・継続した参加を促すための工夫 | ・地主会と若手の会の連携強化を図る<br>・地権者に対し、中間取りまとめ以降の検討内容に関する情報提供と知識の習得、跡地利用計画に対する興味・関心を促す | ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、紙面及び web によるアンケート形式で意見を収集し、これまでの対話形式と比較して多くの意見を収集する事ができた | ・今後も継続して意見交換会を開催する必要があるが、対話形式とアンケート形式、双方の長所を活かした意見交換会のあり方について今後検討し、より多くの地権者に対する周知と意見収集が可能なように取組む必要がある<br>・開催方法や市外・県外在住者からの意見収集方法については引き続き検討する必要がある |
| 市民に係る事項 | ＮＢミーティング | 定例会 | ・今後の活動の活性化を図るために、既存会員の参加促進を図る<br>・対外的な活動を実施する際の、役割分担の明確化<br>・会員の意見が反映された年間活動計画の立案<br>・継続して地域の団体と連携を取り、跡地利用計画へ反映すべき点を NB ミーティングで取りまとめる<br>・「まち未来だより」で発信した NB ミーティングの取組みや考えに対する意見の回収方法<br>・若い世代の興味関心を引き出すきっかけづくり | ・検討と取りまとめに要する情報収集、意見集約の機会を支援する<br>・ＮＢミーティング定例会への参加者の増加や他組織との連携に繋げ組織強化を図るため、対外的な活動を通してまちづくりに関する活動の輪を広げる<br>・市民に対し、跡地利用への興味関心を高めるため情報発信を行う | ・新規会員の加入による積極的な議論への参加、自主的な提案、議論の活性化につながった<br>・「まちづくりカフェ」開催にかかる調整や当日の進行など会員が自ら行動し、自主性の向上に繋がった<br>・滞りなくオンライン会議を開催する事ができ、議題についても参加者が定例会最後に決める事により、参加者の興味の掘り起しに繋がる会議運営ができた | ・定例会やまち歩きに参加する会員が固定化されているため、更なる参加者を増やすための取組みを検討する必要がある |
| | | まち歩き | ・継続して地域の団体と連携を取り、跡地利用計画へ反映すべき点を NB ミーティングで取りまとめる | ・ＮＢミーティング定例会への参加者の増加や他組織との連携に繋げ組織強化を図るため、対外的な活動を通してまちづくりに関する活動の輪を広げる<br>・市民に対し、跡地利用への興味関心を高めるため情報発信を行う | ・大謝名・上大謝名地区から多くの意見を収集できた<br>・新規会員の加入に繋がった | ・跡地利用計画自体に対する意見を収集するため、跡地利用計画の内容がイメージしやすいような資料の見せ方など工夫する必要がある<br>・継続して地域との継続した連携を取り、地域の課題や要望等の意見集約を図り、跡地利用計画へ反映すべき点を NB ミーティングとして取りまとめる必要がある |
| | 一般市民 | — | ・過去の取組みや会議で挙がった企画の検討 | — | — | — |
| | | | ・イベントに関心を惹く工夫の検討<br>・イベント時における、一般市民への伝わりやすい説明や資料の検討 | — | ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、イベントは中止 | ・イベントに関心を惹く工夫の検討<br>・イベント時における、一般市民への伝わりやすい説明や資料の検討 |
| | | | ・学校とＮＢミーティングの連携による人材育成<br>・子どもたちの跡地利用に対する関心の定着 | ・市民に対し、跡地利用への興味関心を高めるため情報発信を行う | ・将来のまちづくりを担う児童・生徒に向けた意向醸成活動のきっかけづくりとなる、出前講座 PV を制作した | ・開催するにあたって、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、対面形式以外での手法を検討し、学校側と調整する必要がある<br>・学校側と早い時期にカリキュラム導入への調整を行い、確実な実施に繋げる必要がある |

| 項目（令和元年度調査） | | 令和元年度調査で挙げられていた課題・方向性 | 令和２年度の取組み方針 | 本調査における成果 | 今後の課題 |
|---|---|---|---|---|---|
| 地権者・市民に係る事項 | まちづくり講座の開催 | ・受講者増に向けた工夫<br>・興味を持つ講座内容<br>・講座修了後も受講者がまちづくりに関わる事のできる仕組みの検討 | ・地権者、市民誰もが宜野湾市のまちづくりを学べ、考える事のできる場をつくる<br>・跡地利用のまちづくりにおいて大切な事は何かを学び、まちづくりへの参画を促すための場をつくる | ・「エリア価値を高めるまちづくり」をテーマとした講座開催の企画が完成した | ・講座の周知方法については改めて検討し、より多くの地権者、市民に講座を視聴してもらうように工夫する必要がある |
| 情報発信 | ふるさとの発行 | ・掲載内容について地権者へ問いかけ、内容の更なるブラッシュアップ | ・適切な時期に、分かりやすさを重視して発行する | ・跡地利用に関する行政・若手の会の取組み、地権者の意見を分かりやすく発信する事ができた<br>・二次元コードを記載する事で、紙面構成及び内容の改善点を把握できるようにした | ・紙面の見やすさ、分かりやすさについて更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるようにする必要がある |
| | まち未来だよりの発行 | ・市民が跡地利用のまちづくりに興味・関心を持つように、内容の更なるブラッシュアップ | ・適切な時期に、分かりやすさを重視して発行する | ・跡地利用に関する行政・NB ミーティングの取組みを分かりやすく発信する事ができた<br>・二次元コードを記載する事で、紙面構成及び内容の改善点を把握できるようにした | ・紙面の見やすさ、分かりやすさについて更なる工夫を凝らし、より多くの市民に見ていただけるようにする必要がある |
| 評価及び検証 | 懇話会の開催 | ・合意形成活動に係る継続した議論の実施 | ・合意形成活動の方向性等について継続した議論を実施する<br>・若手の会、NB ミーティング両組織が活動を進めていく中での課題等について検討し情報共有を図ると共に、各々の組織にフィードバックさせる事により、着実な合意形成活動に繋げていく | ・次年度の取組みの方向性や考え方について意見を伺い、若手の会及び NB ミーティングにフィードバックできた | ・合意形成活動に係る継続した議論を実施していく必要がある |